

(受公緑 7 - 2)

西宇治公園体育館空調設備改修工事

図 面 リ ス ト								
図面番号	図 面 名 称	縮 尺	図面番号	図 面 名 称	縮 尺	図面番号	図 面 名 称	縮 尺
	機 械 設 備			建 築			建 築	
M-01	表紙・図面リスト	—	A-01	建築改修工事特記仕様書 1	—	A-20	仮設計画図 1 ・ 工事工程表 (参考図)	1/600
M-02	共通特記仕様書	—	A-02	建築改修工事特記仕様書 2	—	A-21	仮設計画図 2 (参考図)	1/500
M-03	機械設備工事特記仕様書 № 1	—	A-03	建築改修工事特記仕様書 3	—	A-22	仮設計画図 3 (参考図)	1/500
M-04	機械設備工事特記仕様書 № 2	—	A-04	仕上表	—			
M-05	付近見取図・配置図	1/500 1/5,000	A-05	1 階平面図	1/300			
M-06	空調調和設備 配管系統図【改修】	—	A-06	2 階平面図 (参考図)	1/300		電 気 設 備	
M-07	空調調和設備 機器リスト【改修】	—	A-07	3 階・R 階平面図 (参考図)	1/300	E-1	電気設備工事特記仕様書 - 1	—
M-08	空調調和設備 1 階平面図【改修】	1/300	A-08	断面図 1 (参考図)	1/300	E-2	電気設備工事特記仕様書 - 2	—
M-09	空調調和設備 2 階平面図【改修】	1/300	A-09	断面図 2 (参考図)	1/300	E-3	電気設備工事 分電盤改修図	—
M-10	空調調和設備 R 階平面図【改修】	1/300	A-10	メイン・サブアリーナ 平面詳細図	1/50・1/100	E-4	電気設備工事 空調用電源設備 1 階平面図	1/300
M-11	空調調和設備 配管系統図【現況】	—	A-11	メイン・サブアリーナ 断面詳細図	1/10・1/30 1/50	E-5	電気設備工事 空調用電源設備 2 階平面図	1/300
M-12	空調調和設備 機器リスト【現況】	—	A-12	1 階天井伏図	1/300・1/100	E-6	電気設備工事 空調用電源設備 R 階平面図	1/300
M-13	空調調和設備 1 階平面図【現況】	1/300	A-13	2 階天井伏図 (参考図)	1/300	E-7	電気設備工事 リモコン配線設備 1 階平面図	1/300
M-14	空調調和設備 2 階平面図【現況】	1/300	A-14	メイン・サブアリーナ 床伏図・詳細図	1/5・1/10 1/30・1/200	E-8	電気設備工事 リモコン配線設備 2 階平面図	1/300
M-15	空調調和設備 R 階平面図【現況】	1/300	A-15	外構図	1/100・1/300	E-9	電気設備工事 リモコン配線設備 R 階平面図	1/300
M-16	ガス設備 1 階平面図	1/300	A-16	外構部分詳細図	1/10・1/20			
M-17	ガス設備 ガバナ廻り詳細図	1/50	A-17	メインアリーナ室外機廻り詳細図	1/50			
			A-18	サブアリーナ室外機廻り詳細図	1/50			
			A-19	ガバナー廻り詳細図	1/30・1/50			

A		工事概要		m 官公庁その他への手続き		工事の施工に必要な官公庁その他への手続きは、受注者の責任において速やかに行うものとする。 なお、これに要する費用は受注者の負担とする。	
1	工事名称	(受公緑 7 - 2) 西宇治公園体育館空調設備改修工事		n 技術者及び現場代理人		受注者は、主任技術者及び監理技術者並びに現場代理人について、受注者と直接的かつ恒常的な雇用関係にある者から選任し、配置しなければならない。	
2	工事場所	宇治市小倉町蓮池 2 0 - 1		o 工事完了時の整地		受注者は工事完了時に、工事敷地内及び車両通行部分は、必要に応じ砂を搬入し、整地を行う。既設コンクリート舗装、アスファルト舗装等の損傷箇所については、原状復旧する。	
3	工事期間	入札通知書による。		p 建設発生土の処分		・ 建設発生土を搬出する場合は「残土処理計画書（報告書）」を提出する。同計画書には処理場所の位置図及び経路図、受入承諾書を添付する。同報告書には処分したことが判明する資料（受入証明書）及び写真等を添付する。 ・ その他の建設発生土の取扱いについては、現場説明書による。	
4	規模構造	鉄筋コンクリート造2階建て		q 解体等工事の事前調査		・ 受注者は、改正大気汚染防止法第18条の15第1項・第4項に基づき、改修工事対象となる全ての部材について、特定建築材料の使用の有無について調査し、その結果を発注者に説明する。 また、第18条の15第3項・第4項に基づき、事前調査結果の記録を作成し、保存しなければならない。 調査方法は、分析による調査、目視、設計図書等による。	
5	建築面積	4,867.723㎡				・ 受注者は、改正大気汚染防止法第18条の15第5項に基づき、事前調査結果を公衆の見やすい場所に掲示する。	
6	延床面積	5,566.284㎡					
7	工事範囲	体育館空調設置工事に伴う機械設備工事（空調機器設置工事） 一式 上記に伴う建築工事（空調機器基礎新設工事、内装改修工事、外構工事） 一式 上記に伴う電気設備工事（空調機器の電源工事） 一式 上記に伴う撤去・処分 一式		2 発生材等処分		工事に伴う撤去材	
B		特記仕様書					
1	共通事項	a 施工基準	本工事は契約書及び 質疑回答書 現場説明書 特記仕様書 設計図 公共建築改修工事標準仕様書（建築工事編・機械設備工事編・電気設備工事編）及び公共建築工事標準仕様書（建築工事編 機械設備工事編・電気設備工事編）（国土交通省大臣官房官庁営繕部監修 令和4年版）により施工する。なお、設計図書間に相違がある場合の優先順位は上記記載の順とする。 本工事は建築改修工事監理指針及び建築・機械設備・電気設備・各工事監理指針（国土交通省大臣官房官庁営繕部監修令和4年版）により監理する。		産業廃棄物税		「京都府産業廃棄物税条例」に基づき導入される産業廃棄物税（以下「産廃税」という）は京都府内の最終処分施設に搬入される産業廃棄物について課税されるものである。また、中間処理施設に搬入された産業廃棄物においてもリサイクル後の処理残滓（ザンサイ）等が最終処分場に搬入される場合は、最終処分場に搬入される量に対して課税される。 なお、本工事においても、産廃税相当額を見込んでいる。（産廃税も本工事に含む）
		b 監理基準	契約書及び設計図書に定められた提出書類等を監督職員の指示により、定められた期日までに提出する。受注者は、下請契約を締結する場合には、下請金額に関わらず、施工体制台帳を提出する。また、施工体系図においては、すべての下請負人及び警備業者を記載する。 なお、施工体制台帳には監督職員が指示する書類を添付して提出する。				
		c 提出書類等	受注者は建設業退職金共済制度（建退共）に加入の上、掛金収納書を提出する。工事現場には「建設業退職金共済制度適用事業主工事現場標識」を掲示し、工事完成時には「建退共運営実績報告書」、「労働者の就労日報」及び「共済証紙受払簿」を提出する。また、下請負人に対しても同共済制度加入を奨励する。				
		d 建設業退職金共済制度	受注者は受注時、変更時及び完成時の各時点において、あらかじめ登録内容について監督職員の確認を受けた上で、それぞれ10日以内に（一財）日本建築情報総合センターへ工事実績情報サービス入カシステム（CORINS）の登録申請を行う。 また、登録後、直ちに登録されたことを証明する資料を監督職員に提出する（作成、登録等に伴う費用は受注者の負担とする）。				
		e 工事実績情報	受注者は、工事目的物・工事材料等を建設工事保険等（第三者保険を含み、火災による損害が見込まれる場合は火災保険を含む）に付し、その保険証書の写し又はこれに代わるものを提出する。なお、その保険の加入期間は、工事着工の時から、工事完成期日後14日迄とする。 受注者は、「公共工事の品質確保の促進に関する法律の一部を改正する法律」（令和元年法律第35号）に基づき、公共工事等に従事する者の業務上の負傷等に対する補償に必要な金額を担保するための保険（法定外の労災保険）に付する。		3 仮設工事		工事電力・工用水 工用電力設備 の保安責任者 設置・維持管理 仮囲い 内外足場・養生等
		f 建設工事保険等	工事写真撮影ガイドブック（国土交通省大臣官房官庁営繕部監修 令和5年版）を参考に、着工前・工事中の各段階の工程の内容が充分把握できるよう撮影する。工事完成時には、完成写真を撮影し、着工前・工事中と共に工用アルバムに整理の上1部提出する（データ共）。 なお、着工前・完成写真は、着工前・完成を一对（左右または前後）として整理すること。				現場説明書による。 工用電力設備の保安責任者を定め報告する。当該施設に電気主任技術者が専任されている場合はその指示を仰ぐ。 持込電動機器は整備された機器以外は持込させてはならない。また、仮設分電盤内に漏電遮断器を取り付け事故の防止に努める。 現場説明書による。 施工範囲・資材置場等に対しての侵入防止策を講じる。（フェンスバリケード（シート貼り共）等） 詳細については仮設計画図による。 足場等は、労働安全衛生法・建築基準法・建設工事公衆災害防止対策要綱その他関係法令に従い適切な材料および構造のものとし、適切な保守管理を行う。高所作業車使用時含む。また、仮設計画を作成し監督職員と協議を行う。 近接する他の部材や工作物の部分を損傷しないようにメッシュシート又は工用シート等で養生を行う。外部足場については、手摺先行型枠組本足場（W≧900以上）とする。足場の設置に関しては、「手すり先行工法に関するガイドライン（厚生労働省 平成15年4月制定・平成21年6月1日改正）」に基づく働きやすい安心感のある足場とし、二段手すりと幅木の機能を有する部材があらかじめ備えられた手すり先行専用足場型とするか、または改善措置機材を用いて手すり先行専用足場型と同等の機能を確保する。また、外部足場には昇降足場を設置する。 受注者は、労働安全衛生法施行令、労働安全衛生規則等の改正（平成31年2月）に伴い、高所作業を行う場合には、「墜落制止用器具の安全な使用に関するガイドライン」に基づき、墜落、転落による労働災害の防止に努める。
		g 労災補償に必要な法定外の保険契約について	受注者は、建設機械等の燃料としての軽油はJIS規格軽油以外のものを使用してはならない。また、下請負人等に対しても不正軽油使用防止の指導・監視を徹底する。受注者は、京都府税務調査員による燃料検査に協力しなければならない。 ・ 軽微な変更については、請負金額の増減は行わない。 ・ 工事現場には、仮囲いを行い同現場の安全に十分配慮する。特に、工事車両の出入り及び時間等については、当該施設運営管理者等と十分打合せを行い交通安全管理に配慮する。 ・ 騒音・臭気等が発生する工事については、作業時間・日時について当該施設運営管理者と協議し、施設の運営管理等に支障をきたさぬよう配慮する。 ・ 既存部分については、受注者において汚染・損傷の無いよう十分な養生を行う。万一損傷等が生じた場合は、監督職員に報告の上受注者の責任において、現状復旧する。 ・ 使用材料は、設計図書に記載されたもの又は同等品とする。同等品とする場合は、事前に監督職員にカタログ等資料を提出し、承認を受ける。 ・ 工事完成時には、社内検査を実施する。 ・ 本工事は市の行う完成検査に合格し、工事目的物引渡書の提出をもって完了とする。 ・ 使用機器については、環境負荷の軽減に努めるものとし、排出ガス対策型機器・低騒音型機器 低振動型機器・低燃費型機器の使用を促進する。また、電動工具類は、整備された工具を使用し、安全性に責任を持ち管理する。				墜落制止用器具の使用について
		h 工事写真・完成写真	受注者は、建設機械等の燃料としての軽油はJIS規格軽油以外のものを使用してはならない。また、下請負人等に対しても不正軽油使用防止の指導・監視を徹底する。受注者は、京都府税務調査員による燃料検査に協力しなければならない。 ・ 軽微な変更については、請負金額の増減は行わない。 ・ 工事現場には、仮囲いを行い同現場の安全に十分配慮する。特に、工事車両の出入り及び時間等については、当該施設運営管理者等と十分打合せを行い交通安全管理に配慮する。 ・ 騒音・臭気等が発生する工事については、作業時間・日時について当該施設運営管理者と協議し、施設の運営管理等に支障をきたさぬよう配慮する。 ・ 既存部分については、受注者において汚染・損傷の無いよう十分な養生を行う。万一損傷等が生じた場合は、監督職員に報告の上受注者の責任において、現状復旧する。 ・ 使用材料は、設計図書に記載されたもの又は同等品とする。同等品とする場合は、事前に監督職員にカタログ等資料を提出し、承認を受ける。 ・ 工事完成時には、社内検査を実施する。 ・ 本工事は市の行う完成検査に合格し、工事目的物引渡書の提出をもって完了とする。 ・ 使用機器については、環境負荷の軽減に努めるものとし、排出ガス対策型機器・低騒音型機器 低振動型機器・低燃費型機器の使用を促進する。また、電動工具類は、整備された工具を使用し、安全性に責任を持ち管理する。		4 その他		ホルムアルデヒド等の放散量測定について
		i 不正軽油使用防止の徹底	受注者は、建設機械等の燃料としての軽油はJIS規格軽油以外のものを使用してはならない。また、下請負人等に対しても不正軽油使用防止の指導・監視を徹底する。受注者は、京都府税務調査員による燃料検査に協力しなければならない。 ・ 軽微な変更については、請負金額の増減は行わない。 ・ 工事現場には、仮囲いを行い同現場の安全に十分配慮する。特に、工事車両の出入り及び時間等については、当該施設運営管理者等と十分打合せを行い交通安全管理に配慮する。 ・ 騒音・臭気等が発生する工事については、作業時間・日時について当該施設運営管理者と協議し、施設の運営管理等に支障をきたさぬよう配慮する。 ・ 既存部分については、受注者において汚染・損傷の無いよう十分な養生を行う。万一損傷等が生じた場合は、監督職員に報告の上受注者の責任において、現状復旧する。 ・ 使用材料は、設計図書に記載されたもの又は同等品とする。同等品とする場合は、事前に監督職員にカタログ等資料を提出し、承認を受ける。 ・ 工事完成時には、社内検査を実施する。 ・ 本工事は市の行う完成検査に合格し、工事目的物引渡書の提出をもって完了とする。 ・ 使用機器については、環境負荷の軽減に努めるものとし、排出ガス対策型機器・低騒音型機器 低振動型機器・低燃費型機器の使用を促進する。また、電動工具類は、整備された工具を使用し、安全性に責任を持ち管理する。				「官庁営繕部における平成15年度からのホルムアルデヒド等の室内空気中の化学物質の抑制に関する措置について」により、工事着工前及び工事完成時において、「測定対象化学物質」ホルムアルデヒド・トルエン・キシレン・エチルベンゼン・スチレンの濃度を測定し、分析結果を監督職員に提出する（検査方法は「官庁営繕部における平成15年度からのホルムアルデヒド等の室内空気中の化学物質の抑制に関する措置について」による方法、判定基準は厚生労働省指針値による）。 分析機関・測定機器については国土交通省住宅局「ホルムアルデヒド、トルエン、キシレン、エチルベンゼン及びスチレン用パッシブ採取機器(サンブラー)一覧表」による。（平成20年7月1日改訂版） 測定対象室は サブアリーナ メインアリーナの計2室とする。
		j 一般事項	受注者は、建設機械等の燃料としての軽油はJIS規格軽油以外のものを使用してはならない。また、下請負人等に対しても不正軽油使用防止の指導・監視を徹底する。受注者は、京都府税務調査員による燃料検査に協力しなければならない。 ・ 軽微な変更については、請負金額の増減は行わない。 ・ 工事現場には、仮囲いを行い同現場の安全に十分配慮する。特に、工事車両の出入り及び時間等については、当該施設運営管理者等と十分打合せを行い交通安全管理に配慮する。 ・ 騒音・臭気等が発生する工事については、作業時間・日時について当該施設運営管理者と協議し、施設の運営管理等に支障をきたさぬよう配慮する。 ・ 既存部分については、受注者において汚染・損傷の無いよう十分な養生を行う。万一損傷等が生じた場合は、監督職員に報告の上受注者の責任において、現状復旧する。 ・ 使用材料は、設計図書に記載されたもの又は同等品とする。同等品とする場合は、事前に監督職員にカタログ等資料を提出し、承認を受ける。 ・ 工事完成時には、社内検査を実施する。 ・ 本工事は市の行う完成検査に合格し、工事目的物引渡書の提出をもって完了とする。 ・ 使用機器については、環境負荷の軽減に努めるものとし、排出ガス対策型機器・低騒音型機器 低振動型機器・低燃費型機器の使用を促進する。また、電動工具類は、整備された工具を使用し、安全性に責任を持ち管理する。				測定対象室毎に2室以上ある場合は、建築材料等の仕様が大きく異なる室毎に測定を行う。 測定箇所数は室の床面積により決定する。
		k その他	受注者は、建設機械等の燃料としての軽油はJIS規格軽油以外のものを使用してはならない。また、下請負人等に対しても不正軽油使用防止の指導・監視を徹底する。受注者は、京都府税務調査員による燃料検査に協力しなければならない。 ・ 軽微な変更については、請負金額の増減は行わない。 ・ 工事現場には、仮囲いを行い同現場の安全に十分配慮する。特に、工事車両の出入り及び時間等については、当該施設運営管理者等と十分打合せを行い交通安全管理に配慮する。 ・ 騒音・臭気等が発生する工事については、作業時間・日時について当該施設運営管理者と協議し、施設の運営管理等に支障をきたさぬよう配慮する。 ・ 既存部分については、受注者において汚染・損傷の無いよう十分な養生を行う。万一損傷等が生じた場合は、監督職員に報告の上受注者の責任において、現状復旧する。 ・ 使用材料は、設計図書に記載されたもの又は同等品とする。同等品とする場合は、事前に監督職員にカタログ等資料を提出し、承認を受ける。 ・ 工事完成時には、社内検査を実施する。 ・ 本工事は市の行う完成検査に合格し、工事目的物引渡書の提出をもって完了とする。 ・ 使用機器については、環境負荷の軽減に努めるものとし、排出ガス対策型機器・低騒音型機器 低振動型機器・低燃費型機器の使用を促進する。また、電動工具類は、整備された工具を使用し、安全性に責任を持ち管理する。		電気・機械設備工事		工事着工に際し、事前に必要な機器（照明機器・放送設備・空調機器・受信設備等）器具の機能確認を行い、その結果を書面にて監督職員に報告する。
		l 過積載防止	受注者は、建設機械等の燃料としての軽油はJIS規格軽油以外のものを使用してはならない。また、下請負人等に対しても不正軽油使用防止の指導・監視を徹底する。受注者は、京都府税務調査員による燃料検査に協力しなければならない。 ・ 軽微な変更については、請負金額の増減は行わない。 ・ 工事現場には、仮囲いを行い同現場の安全に十分配慮する。特に、工事車両の出入り及び時間等については、当該施設運営管理者等と十分打合せを行い交通安全管理に配慮する。 ・ 騒音・臭気等が発生する工事については、作業時間・日時について当該施設運営管理者と協議し、施設の運営管理等に支障をきたさぬよう配慮する。 ・ 既存部分については、受注者において汚染・損傷の無いよう十分な養生を行う。万一損傷等が生じた場合は、監督職員に報告の上受注者の責任において、現状復旧する。 ・ 使用材料は、設計図書に記載されたもの又は同等品とする。同等品とする場合は、事前に監督職員にカタログ等資料を提出し、承認を受ける。 ・ 工事完成時には、社内検査を実施する。 ・ 本工事は市の行う完成検査に合格し、工事目的物引渡書の提出をもって完了とする。 ・ 使用機器については、環境負荷の軽減に努めるものとし、排出ガス対策型機器・低騒音型機器 低振動型機器・低燃費型機器の使用を促進する。また、電動工具類は、整備された工具を使用し、安全性に責任を持ち管理する。		5 完成図書		完成に際しては以下の図書を提出する。

賽	項	目	姓	名	重	項
---	---	---	---	---	---	---

使用する

- | | |
|--|--------------------|
| | 2) 復旧はモルタル補修までとする。 |
|--|--------------------|

●インサート及びアンカー	あと施工アンカー等を行う場合は、改修標準仕様書第2期第5章による。 施工後確認試験 ●行う（国土交通省大臣官庁官庁官庁官庁の公共建築改修工事標準仕様書（建築工事編）（令和4年版）8章12節8.12.7による。）
○防塵ダンパー及び防塵防塵ダンパー	○行わない 復帰方式は 遠方復帰式（電気式（定格入力 DC24V 0.6A以下）） ○手動復帰式

防入防煙フープ	手動復帰式
消音肉貼	ダクト及びチャンパー 消音エルボの肉貼り（箇所図示）は下記による

	○消音内貼り	ダクトの消音内貼り（面材の内張り）は、下記による。 ・消音内貼り部分の外部保温は、必要 ○ 必要 ・チャンバーの寸法は、外形寸法を示す。 （ただし、ダクト及び消音エルボは、内形寸法を示す。） ・点検口は内貼り仕様又は断熱戸とする。	
	○ドレン抜き	外壁に面するガリに直接取付けるチャンパー類に必要な応じ設ける。	
	○取付枠	防火区画部に取付ける吹出口、吸込口等で取付枠を必要とするものは鋼枠を使用する。	
	○機器の基礎	アンカーボルト及びナットは、下記による。 ・屋外、多湿室等（○溶融亜鉛めっき２種３５ ○ステンレス鋼製（ＳＵＳ３０４）） ・その他（○一般品 ○） ○機器側の材質がＳＵＳ製の場合は、ＳＵＳ製とする。	
共	○防火区画	○平面階 ○図示 ○	
	○揭示板	機械室に操作順序、注意事項、連絡先及び系統図などを画いた揭示板を設ける。	
通	○天井仕上区分	（ ）書きの室名は直天井を示し、その他は二重天井を示す。	
	○給油設備	オイルタンク 連隔油量指示計 副指示計 オイルサージタンク 油巻計	○地下 ○屋内 ○設ける ○設けない ○設ける ○設けない ○ゲージ ○サマワ管等

事	油面制御装置の機能は下記による。
---	------------------

- | | | |
|---|--|---|
| 項 | | <ul style="list-style-type: none"> 給油ポンプの起動、停止制御用 返油ポンプの起動、停止制御用 満油警報 遠隔警報（減油 満減油） 配管用炭素鋼鋼管（黒） ポリエチレン被覆鋼管 |
| | 油管（露出、トラフ内）
油管（地中） | |
| | <ul style="list-style-type: none"> 建物導入部配管 標準図施工 4 (a) (フレキシブルジョイント 埋設用フレキシブルジョイント) | |

章

項目

特記事項

一

工事関係書類

営繕工事業契約関係書類提出書類書式集 一覧表により提出。
宇治市ホームページ参照 <<http://www.city.uji.kyoto.jp>>

履行報告

月報 2部 ○3部 毎月末に、翌月の5日までに提出する。

工事写真

1) 国土交通省大臣官庁倉庫管轄部「営繕工事写真撮影要領(最新版)」による。
2) 工事完成時、整理の上、1部提出する。
3) 小黒板電子化については、現場説明書による。

般

完成図書

名称	内容	大きさ	部数
○完成図	金文字製本	A4版	1部
○完成図	○背貼り製本(版) ○A4ファイル止め		2部
○施工図	○背貼り製本(版) ○A4ファイル止め		2部
○機器完成図等	機器製作図 ファイル止め 保守指導案内書(機器取説を含む) 機器性能試験成績書・保証書・施工の試験成績書	A4版	2部

諸官庁提出書類

副本

1式

原成図

完成図

1部

完成写真

アルバム綴り

2部

事

著作権等

電子納品については、現場説明書による。
当該建物において取得する、施工图等の著作権に係わる当該建物に限る使用権は、発注者に委譲するとする。

付属品及び予備品

標準仕様書によるほか、別表による。

共

総合試運転調整
(測定結果は報告書にて提出)

●風量調整(測定共) ●水量調整(測定共) ●室内外空気温度湿度測定
●室内気流及びじんあいの測定 ●騒音の測定
○飲料水の水質の測定(項目) ●雑用水の水質の測定(項目)

●耐震施工

1) 設備機器の固定は、国土交通省国土地技術政策総合研究所・独立行政法人建築研究所監修の「建築設備耐震設計・施工指針2014年版」により、計算を行い、監督職員に報告し承諾を得る。
2) 下記の設計用水平震度(KH)により、機器製作固定を行う。

設置場所	●特定の施設		○一般の施設	
	重要機器	一般機器	重要機器	一般機器
上層階、屋上及び塔屋	2.0(2.0)	1.5(2.0)	1.5(2.0)	1.0(1.5)
中間階	1.5(1.5)	1.0(1.5)	1.0(1.5)	0.6(1.0)
1階及び地下階	1.0(1.0)	0.6(1.0)	0.6(1.0)	0.4(0.6)

設置場所	○特定の施設		○一般の施設	
	水	槽		槽
上層階、屋上及び塔屋	2.0		1.5	
中間階	1.5		1.0	
1階及び地下階	1.5		1.0	

注1

耐震安全性の分類が甲類の建物は特定の施設を、乙類の建物は一般の施設を適用する。
屋上に設置する機器は建物の耐震安全性の分類に準じる。ただし、敷地内に甲類の建物と乙類の建物が混在する場合は、特定の施設を適用する。

注2

()内の数値は、防振支持の機器の場合に適用する。

注3

設計用鉛直震度は、設計用水平震度の1/2とする。

注4

上層階の定義は、6階建以下の場合は最上層、7～9階建の場合は上階2階。

注5

重要機器(水槽類)は、下記に示すものとする。(水槽類にはオルタンク等を含む。)

注6

「建築設備耐震設計・施工指針(2014年版)」による形鋼振れ止め支持を行う場合はS/A種とする。ただし、取り付け物については標準図に準ずる。

通

○一般用弁

標準仕様書第2編2.2.1(A)～(シ)によるほか、下記による。
1) 水道直接給水及び面取配部の耐力は10K以上、その他は5K以上とする。
2) 給水・給湯用の青銅製弁は、給水管用青銅弁を使用する。

○フレキシブルジョイント

機器廻りに取付けるフレキシブルジョイントは、鋼板に対してはペローズ形、FRPに対しては合成ゴム製とする。

○綱管用伸縮管継手
○溶接接合

○ペローズ形
○スリーブ形
溶接部の非破壊検査は、
○適用しない
○適用する(放射線透過検査 ○浸透深傷検査又は磁粉深傷検査)

●地中埋設標及び埋設表示用テープ

1) 給水管 地中埋設標(必要 ○不要) 埋設表示用テープ(必要 ○不要)
2) 消火管 地中埋設標(必要 ○不要) 埋設表示用テープ(必要 ○不要)
3) ガスパイプ 地中埋設標(必要 ○不要) 埋設表示用テープ(必要 ○不要)
4) 油パイプ 地中埋設標(必要 ○不要) 埋設表示用テープ(必要 ○不要)
5) ブライン管 地中埋設標(必要 ○不要) 埋設表示用テープ(必要 ○不要)
用途表示のあるテープ(幅は150mm以上)で、2倍長以上重ね合わせて使用する。

○防食処理

地中埋設の排水用塩ビライニング鋼管は、防食処置を行う。

●保温

1) 保温材料の様子は、下記による。

給水管・排水管	○ポリスチレンフォーム保温材料	○
排煙ダクト・煙道、排気筒	●ロックウール保温材料	○
その他	○グラスワール保温材料	○

2) 鋼板製のタンクの保温 必要 ○不要
3) 保温を施す膨張タンク等の蓋の保温 必要 ○不要
4) エア抜管の保温厚は20mmとし、仕様は当該配管の項に準ずる。また、保温を行う範囲はエア抜きまでとする。
5) 露出配管の保温外装種類は、下記による。
・屋内 ○合成樹脂カパー1 ○合成樹脂カパー2 ○カラー亜鉛鉄板
・屋外用 ○ステンレス鋼板
6) 弁、ストレーナ等の金属製カバーの外装種類は、下記による。
・屋内 ○カラー亜鉛鉄板 ○ステンレス鋼板
・屋外用 ○カラー亜鉛鉄板 ●ステンレス鋼板 ○
7) 車庫内のダクト及び配管の保温は、機械室による。
8) 合成樹脂製受持受 硬質ウレタンフォームに準ずるもの
ピース法ポリスチレンフォームに準ずるもの

事

○塗装(露出施工部)

標準仕様書によるほか、下記により塗装(指定色)を行う。ただし、保温を行うものは除く。
屋外用(ダクト・配管) 屋内居室(ダクト・配管) 廊下(ダクト・配管)
屋内PS・EPS(ダクト・配管) 屋内機械室・電気室(ダクト・配管)

○吹出口及び吸込口ボックス

ボックスの材質について、特記がない場合は亜鉛鉄板製とする。ただし、グラスワール製とする場合はJIS A 4009(空調機及び換気設備用ダクトの構成部品)によるものとし、厚さ0.6mm以上の亜鉛鉄板で補強をしたものである。
ボックスの吊りは3点支持を標準とし、これによれない場合は監督職員との協議による。

○ステンレス製の板厚

ステンレス製ダクトの板厚は JIS A 4009 2017による

○ボックス

PF管で配管する場合とは、樹脂製ボックスを使用する。

●容量等の表示

機器側の能力、容量等は表示された数値以上とする。ただし、電動機出力、燃料消費量及び圧力損失は、表示された数値以下とする。

○誘導電動機

電動機出力が0.75kW以上の低圧三相かご形誘導電動機の規格は、JIS C 4213(低圧三相かご形誘導電動機-低圧トッパンナモータ)による。

○開放形膨張タンク等

開放形膨張タンク、補給水タンク及び消火用充水タンクの材質は次による
○鋼板製 ○ステンレス鋼板製

●電線及び電線管

電線及び電線管については標準仕様書第4編第1章第5節による

空	○鋼材	屋外露出部分 ○溶融亜鉛めっき2種35 ○ステンレス鋼製（SUS304）						
	○制御及び操作盤	構成 ○進相コンデンサー ○運転時間計 表示等 ○運転（赤色）及び停止（緑色）表示 ○保護継電器の動作表示 接点及び端子 ○遠方発停用端子 ○湿度調節器用端子 ○運転時間表示用端子 ○温水出入口温度用端子 ○冷水出入口温度用端子 ○消費電力表示用端子（ボイラーの場合、小型貫流ボイラーに適用） ○給水量表示用端子（ボイラーの場合、小型貫流ボイラーに適用） ○燃料消費量表示用端子（ボイラーの場合、小型貫流ボイラーに適用）						
	●主方式	○全空気方式（○中央 ○ファンコイル・ダクト併用方式 ●個別方式 ○空気熱源ヒートポンプユニット ●空冷冷水ポンプ式パッケージ形空気調和機（○EHP ●GHP ○）						
	●主要熱源機器	○吸収冷温水機 ○チリングユニット ○空気熱源ヒートポンプユニット ●空冷冷水ポンプ式パッケージ形空気調和機（○EHP ●GHP ○）						
	○設計時の温湿度条件	場 所	屋 外	屋 内（調整目標値）				
		時 期	温度（DB）	湿度（RH）	温度（DB）	湿度（RH）	温度（DB）	湿度（RH）
		冬 期		%		%		%
		夏 期		%		%		%
	○長方形ダクトの工法	○アングルフランジ工法 ○コーナーボルト工法（○共板フランジ工法 ○スライドオンフランジ工法）						
	○ダクトの分岐方法	○割込み工法 ○直付け工法						
気	●配管材料 （図面特記部分は除く）	冷温水管	○配管用炭素鋼鋼管（白） ○一般配管用ステンレス鋼鋼管（SUS304）					
	冷却水管	○配管用炭素鋼鋼管（白） ○硬質塩化ビニルライニング鋼管（SGP-VA、SGP-FVA）						
	ドレン管	○配管用炭素鋼鋼管（白）（○ねじ接合 ○MDジョイント） ○水配管用亜鉛めっき鋼管 ●硬質ポリ塩化ビニル管（VP） 屋内は保温付 ○リサイクル硬質ポリ塩化ビニル発泡二層管（RF-VP）						
	蒸気配管	給気管	○配管用炭素鋼鋼管（黒） ○					
	還 管	○圧力配管用炭素鋼鋼管（黒） ○						
	補給水管	○配管用炭素鋼鋼管（白） ○						
	膨張管	○配管用炭素鋼鋼管（白） ○						
	エア抜管	○配管用炭素鋼鋼管（白） ○						
	加湿給水管	○硬質塩化ビニルライニング鋼管（SGP-VA、SGP-FVA） ○一般配管用ステンレス鋼鋼管（SUS304）						
	冷媒管	○銅管 ●断熱材被覆鋼管（ガス管：ハイグレード仕様） ○パッケージ形空気調和機の2次側電気配管配線の仕様は製造者の標準仕様とする。 ●火無工法とする。（ファイアレスジョイント使用）						
調	●冷媒管接続方法	○工業用バイメタル式温度計 ○ガラス製棒状温度計 ○ガラス製二重管温度計						
	○温度計	○工業用バイメタル式温度計 ○ガラス製棒状温度計 ○ガラス製二重管温度計						
	○定風量ユニット 変風量ユニット	○メカニカル形 ○風速センサー形（○プロベラ形センサー ○熱線センサー）						
	○カセット形ファンコイル ユニット	風量分配ダクト	○結露防止措置を施した亜鉛鉄板製 ○自己消火性のポリスチレンフォーム					
	○ボイラー燃焼制御方式	○オン・オフ制御式（○直接始動式 ○低燃費始動式） ○ハイ・ロー・オフ制御式 ○比例制御式						
	○遠心・スクリーユ冷凍機	電動機盤	進相コンデンサー（○要 ○不要）					
	○吸収式冷温水機	排熱投入型再生器	○有り ○無し					
	○高温再生器の構造	図面による。						
	○コージェネレーション装置	発電方式	○原動機、発電機 ○燃料電池 熱回収装置 ○温水熱交換機 ○排ガスボイラー ○排ガス熱交換機 ○熱回収用ポンプ ○その他 その他装置等 ○補機付属制御装置 ○冷却塔（放熱用） ○					
	和	●集中管理リモコン	表示機能	●屋外機吸込温度 ●空調エネルギー使用量按分 ●運転時間積算 ●室内温度				
○吸収式冷温水機		データー管理機能	●屋外機吸込温度 ●空調エネルギー使用量按分 ●運転時間積算 ●室内温度					
○高温再生器の構造		○外部記憶媒体への出力						

A2 594 × 420

機械設備工事特記仕様書 No.2

項目	特記事項										
空調設備	○鋼板製煙道（ボイラー） 厚さ ③ 3.2mm ④ 4.5mm ○ばい煙濃度計の取付座 ○ばいじん量測定口 ○伸縮継手 ○掃除口 ○ばい煙濃度計（ボイラー） 送風機付き ○送風機なし（電源は熱源機器付属制御盤より取出し、配管配線共本工事に含む） ○瞬間流量計 ○固定形 個 ○着脱可能形（測定用タッピング 個 本体 個） ●保温 1）冷媒管の保温外装は下記による。 ・屋内 隠れ部 ●不要 ○必要 露出部 ○保温化粧ケース（塩化ビニル樹脂製） ○ ・屋外 ●ステンレス鋼板 ○保温化粧ケース（樹脂製 ○アルミ合金製 ○ステンレス鋼板製 ○溶融亜鉛めっき鋼板製） ・保温化粧ケースの下部カバー ○必要 ○不要 2）ファンコイルユニット等のドレン管の保温は、給排水設備工事の排水管による。 3）加温用給水水管の保温は膨張タンクに準ずる。 4）トラフ内の油管はプラスチックテープ1/2重ね1回巻きとする。										
換気設備	○ダクトの工法 ○アングルフランジ工法 ○コーナーボルト工法（○共板フランジ工法 ○スライドオンフランジ工法） ○スパイラルダクト ○アルミフレキシブルダクト ○ダクトの分岐方法 給気ダクト ○割込み方式 ○直付け方式 排気ダクト ○割込み方式 ○直付け方式 ○厨房排気ダクトの板厚 厨房排気ダクトは亜鉛鉄板製とし、板厚は下記による。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>ダクトの長辺</th><th>板厚</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>450mm以下</td><td>0.6mm</td></tr> <tr> <td>450mmを超え1200mm以下</td><td>0.8mm</td></tr> <tr> <td>1200mmを超え1800mm以下</td><td>1.0mm</td></tr> <tr> <td>1800mmを超えるもの</td><td>1.2mm</td></tr> </tbody> </table> ○排気フード 1）排気フードの補強・支持金物・接合剤等は、亜鉛鉄板製ダクトの当該事項によるものとし、材質は下記による。 ステンレス鋼板（補強共） 2）排気フード廻りに取付ける幕板は、上記フードと同材質とする。 ○本工事 ○別途工事 3）グリッドフィルターの予備 ○不要 ○必要 ○保温 浴室・厨房（多湿箇所）の外気取入ダクトの保温 ○不要 ○必要 外気取入ダクトの保温（空調を行っている室について） ○不要 ○必要 全熱交換器までの外気取入ダクトの保温（空調を行っている室について） ○不要 ○必要 全熱交換器以降の外気取入ダクトの保温（空調を行っている室について） ○不要 ○必要 保温を行う場合の仕様は標準仕様書第2編第3章第1節による。	ダクトの長辺	板厚	450mm以下	0.6mm	450mmを超え1200mm以下	0.8mm	1200mmを超え1800mm以下	1.0mm	1800mmを超えるもの	1.2mm
ダクトの長辺	板厚										
450mm以下	0.6mm										
450mmを超え1200mm以下	0.8mm										
1200mmを超え1800mm以下	1.0mm										
1800mmを超えるもの	1.2mm										
排煙設備	○排煙対象部分 ○廊下 ○事務室 ○図示 ○最大面積 m2 ○ダクトの種別 ○高圧1ダクト ○高圧2ダクト ○ダクトの工法 ○アングルフランジ工法 ○ダクトの材料 亜鉛鉄板製 ○鋼板製（1.5mm以上） ○排煙口 1）形状 ○スリットフェーヌ形 ○パネル形 ○ダンパー形 2）排煙口の開放 ○手動（○機械式 ○電気式） ○煙感知器連動 3）復帰装置 ○手元復帰式（○手動式 ○電気式） ○遠方復帰式 4）ダンプバ 本体及び操作箱との渡り配線は本工事とし、それ以降の制御配管配線は別途工事とする。 ○保温 床下及び暗渠内の保温 不要 ○必要（図示） 図面による。										
自動制御設備											
衛生器具設備	○小便器用節水装置 電気供給方式 ○AC電源 ○乾電池 ○自己発電 ○自動水栓 電気供給方式 ○AC電源 ○乾電池 ○自己発電 ○手動スイッチ ○無し ○有り ○大便器用洗浄弁 操作方式 ○手動式 ○電気開閉式（○センサー式 ○タッチスイッチ式） ○水石けん入れ ○手洗器一機型 ○手洗器分離型 ○車椅子使用者用器具 1）大便器用洗浄弁 ○センサー式 ○タッチスイッチ式 ○レバー式 2）洗面器の水栓は自動水栓とする。										
給水設備	○給水方式 ○水道直結方式 ○高圧タンク方式 ○水道直結増圧方式（水道用直結加圧形ポンプユニット） ○ポンプ直送方式（小型給水ポンプユニット） ○配管材料（図面特記部分は除く） 屋内配管 ○一般配管用ステンレス鋼管（SUS304）（呼び径60Su以下は拡管式、呼び径75Su以上は溶接接合） ○水道用硬質ポリ塩化ビニル管（HIVP） ○ポリエチレン粉末ライニング鋼管（SGP-PA、SGP-FPA） ○硬質塩化ビニルライニング鋼管（SGP-VA、SGP-FVA） ○ 地中配管〔屋内〕 ○一般配管用ステンレス鋼管（SUS316）（呼び径60Su以下は拡管式、呼び径75Su以上は溶接接合） ○水道用ポリエチレン二層管（50A以下）（1種 ○2種）（接合方法 メカカル ○電気融着） ○水道用硬質ポリ塩化ビニル管（HIVP） ○ポリエチレン粉末ライニング鋼管（SGP-PD、SGP-FPD） ○硬質塩化ビニルライニング鋼管（SGP-VD、SGP-FVD） ○ 地中配管〔屋外〕 ○一般配管用ステンレス鋼管（SUS316）（呼び径60Su以下は拡管式、呼び径75Su以上は溶接接合） ○水道用ポリエチレン二層管（50A以下）（1種 ○2種）（接合方法 メカカル ○電気融着） ○水道用硬質ポリ塩化ビニル管（HIVP） ○ポリエチレン粉末ライニング鋼管（SGP-PD、SGP-FPD） ○硬質塩化ビニルライニング鋼管（SGP-VD、SGP-FVD） ○緊急遮断弁装置 ○必要 ○不要 駆動方式 ○電気式 ○機械式 ○量水器 ○現地表示式（直読式） ○遠隔表示式（バルブ式）										

項 目		特 記 事 項	
給 水 設 備	○水栓柱	○合成樹脂製（70×70×1300H） ○ステンレス製（ ） ○不凍水栓柱（ ） 特記なき場合、水栓取付け高さは約600とする。	
	○管の埋設深さ	1）一般敷地 ○300mm 2）構内車両通路 ○600mm 3）寒冷地では凍結深度以上とする。	
	○埋戻し及び盛土	○良質土 ○再生コンクリート砂 ○山砂	
排 水 設 備	○加入金・負担金	○不要 ○必要（○別途 ○本工事）	
	○本管引込工事	○本工事（○舗装本復旧まで ○舗装仮復旧まで） ○別途工事	
	○排水方式	汚水と雑排水 [屋内] 汚水・雑排水と雨水 [屋外] ポンプアップ排水	
水 配 管 材 料 （図面特記部分は除く）	○放流式	汚水 雑排水 雨水ポンプアップ排水 湧水ポンプアップ排水	
	○配管材料	屋内雑排水管 水道用亜鉛めっき鋼管 配管用炭素鋼鋼管（白）（○ねじ接合 ○MDジョイント） 排水用硬質塩化ビニルライニング鋼管 硬質ポリ塩化ビニル管（VP） リサイクル硬質ポリ塩化ビニル発泡三層管（RF・VP） 排水・通気用耐火二層管（VP）	
	○配管材料	屋内汚水管 排水用硬質塩化ビニルライニング鋼管 硬質ポリ塩化ビニル管（VP） リサイクル硬質ポリ塩化ビニル発泡三層管（RF・VP） 排水・通気用耐火二層管（VP）	
給 湯 設 備	○配管材料	水道用耐熱性硬質塩化ビニルライニング鋼管（SGP・HVA） 一般配管用ステンレス鋼管 鋼管（壁又は床埋設をする場合は、保温付被覆鋼管を使用してもよい。） 被覆鋼管	
	○保温	ガス沸湯部の排気筒の隠蔽面所の保温は、標準仕様書第2編3.1.5の表2.3.5による。	
	○配管材料	屋内配管 配管用炭素鋼鋼管（白） 圧力配管用炭素鋼鋼管（白 Sch 40） 一般配管用ステンレス鋼管	
消 火 設 備	○消火設備の種類	屋内消火栓 ○スプリンクラー 泡消火 ○不活性ガス消火（ ） 連結給水管 ○	
	○配管材料	屋内配管 配管用炭素鋼鋼管（白） 圧力配管用炭素鋼鋼管（白 Sch 40） 一般配管用ステンレス鋼管	
	○保温	消火用充水タンクの保温を 消火用呼水タンクの保温を 屋外露出管の保温を 屋内露出管の保温を トレンチ内の保温を	
ガ ス 設 備	●ガスの種類	●都市ガス（発熱量 ●45,000kJ/Nm3 ○ kJ/Nm3） ○液化石油ガス（○50kg 本立 ○20kg 本立）	
	●ガスメーター	親メーター 子メーター	
	●配管材料	屋内配管 配管用炭素鋼鋼管（白） 配管用ステンレス鋼管	
設 計 備	●配管材料	屋内配管 配管用炭素鋼鋼管（白） 配管用ステンレス鋼管	
	●配管材料	屋内配管 配管用炭素鋼鋼管（白） 配管用ステンレス鋼管	
	●配管材料	屋内配管 配管用炭素鋼鋼管（白） 配管用ステンレス鋼管	
設 計 備	●配管材料	屋内配管 配管用炭素鋼鋼管（白） 配管用ステンレス鋼管	
	●配管材料	屋内配管 配管用炭素鋼鋼管（白） 配管用ステンレス鋼管	
	●配管材料	屋内配管 配管用炭素鋼鋼管（白） 配管用ステンレス鋼管	
設 計 備	●配管材料	屋内配管 配管用炭素鋼鋼管（白） 配管用ステンレス鋼管	
	●配管材料	屋内配管 配管用炭素鋼鋼管（白） 配管用ステンレス鋼管	
	●配管材料	屋内配管 配管用炭素鋼鋼管（白） 配管用ステンレス鋼管	
設 計 備	●配管材料	屋内配管 配管用炭素鋼鋼管（白） 配管用ステンレス鋼管	
	●配管材料	屋内配管 配管用炭素鋼鋼管（白） 配管用ステンレス鋼管	
	●配管材料	屋内配管 配管用炭素鋼鋼管（白） 配管用ステンレス鋼管	
設 計 備	●配管材料	屋内配管 配管用炭素鋼鋼管（白） 配管用ステンレス鋼管	
	●配管材料	屋内配管 配管用炭素鋼鋼管（白） 配管用ステンレス鋼管	
	●配管材料	屋内配管 配管用炭素鋼鋼管（白） 配管用ステンレス鋼管	
設 計 備	●配管材料	屋内配管 配管用炭素鋼鋼管（白） 配管用ステンレス鋼管	
	●配管材料	屋内配管 配管用炭素鋼鋼管（白） 配管用ステンレス鋼管	
	●配管材料	屋内配管 配管用炭素鋼鋼管（白） 配管用ステンレス鋼管	
設 計 備	●配管材料	屋内配管 配管用炭素鋼鋼管（白） 配管用ステンレス鋼管	
	●配管材料	屋内配管 配管用炭素鋼鋼管（白） 配管用ステンレス鋼管	
	●配管材料	屋内配管 配管用炭素鋼鋼管（白） 配管用ステンレス鋼管	
設 計 備	●配管材料	屋内配管 配管用炭素鋼鋼管（白） 配管用ステンレス鋼管	
	●配管材料	屋内配管 配管用炭素鋼鋼管（白） 配管用ステンレス鋼管	
	●配管材料	屋内配管 配管用炭素鋼鋼管（白） 配管用ステンレス鋼管	
設 計 備	●配管材料	屋内配管 配管用炭素鋼鋼管（白） 配管用ステンレス鋼管	
	●配管材料	屋内配管 配管用炭素鋼鋼管（白） 配管用ステンレス鋼管	
	●配管材料	屋内配管 配管用炭素鋼鋼管（白） 配管用ステンレス鋼管	
設 計 備	●配管材料	屋内配管 配管用炭素鋼鋼管（白） 配管用ステンレス鋼管	
	●配管材料	屋内配管 配管用炭素鋼鋼管（白） 配管用ステンレス鋼管	
	●配管材料	屋内配管 配管用炭素鋼鋼管（白） 配管用ステンレス鋼管	
設 計 備	●配管材料	屋内配管 配管用炭素鋼鋼管（白） 配管用ステンレス鋼管	
	●配管材料	屋内配管 配管用炭素鋼鋼管（白） 配管用ステンレス鋼管	
	●配管材料	屋内配管 配管用炭素鋼鋼管（白） 配管用ステンレス鋼管	
設 計 備	●配管材料	屋内配管 配管用炭素鋼鋼管（白） 配管用ステンレス鋼管	
	●配管材料	屋内配管 配管用炭素鋼鋼管（白） 配管用ステンレス鋼管	
	●配管材料	屋内配管 配管用炭素鋼鋼管（白） 配管用ステンレス鋼管	
設 計 備	●配管材料	屋内配管 配管用炭素鋼鋼管（白） 配管用ステンレス鋼管	
	●配管材料	屋内配管 配管用炭素鋼鋼管（白） 配管用ステンレス鋼管	
	●配管材料	屋内配管 配管用炭素鋼鋼管	

章	項	目	特	記	事	項
浄化槽設備	○形式 ○処理方法		○ユニット形 ○現場施工形 ○小規模合併処理（図面による） ○合併処理（図面による）			
設備	医療ガス		図面による。			

その他	○コア抜き (ダクト穴明け) ●校正記録 ●交通誘導員 ●保安器材 ●鉄板敷き ●冷媒フロン回収	鉄筋探査機により探査し鉄筋、配管類の位置に墨出しを行う。 参考メーカー 日本無機機 ハンディサッチRCレーダー NJJ-85型同等品 試験機器類の校正記録を提出する。 機器類搬入時、撤去材搬出時、外部掘削前に配置する。 カラーコーン、コーンウエイト、コンバーにて囲いながら掘削する。 1,524×6,096×厚22mm 「フロン類の使用の合理化及び監理の適正化に関する法律」冷媒フロン回収について 第一種冷媒フロン類取扱技術者が取扱う。 回収・破壊完了の証明書を提出する。
	●各種調整	●空調機器類

別表 付属品・予備品

○工具箱（ドライバー、モンキーレンチ、組スパー、ハンマー）
○マンホールフック ○パイプレンチ ○ポンプブライヤー ○ラバーカップ（大、小）
○イージーキャビネット 箱 ○キーボックス
○盤類予備品（ランプ及びヒューズの100%）

試験・検査

○ 水圧試験	○ 排水満水試験	○ 排水通水試験		
● 気密試験	● 点火試験	● 機器類動作試験	● 風量測定	● 吹出口温度測定
● 騒音測定	● 振動測定	● 絶縁試験		
○ 消防設備試験	○ 水質検査	○ 水槽水張り試験	● アンカー引張試験	

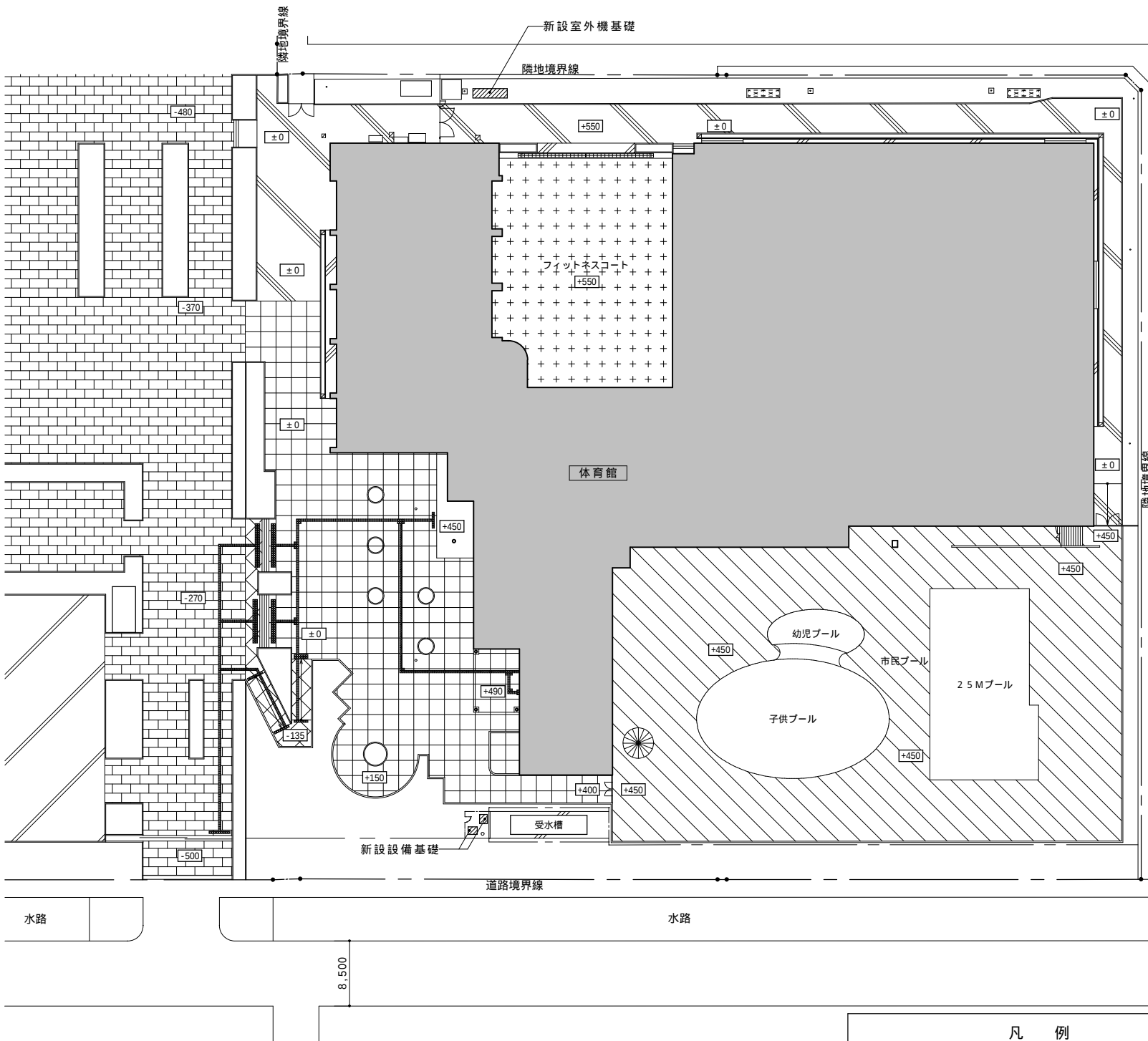
参考メーカーリスト

機 器	メーカ-			
ガスH/Pエアコン	ダイキン工業(株)	パナソニック(株)	ヤンマーエネルギーシステム(株)	



工事場所：宇治市小倉町蓮池 2 0 - 1

付近見取図 1/5,000



配置図 1/500

凡 例

	工事対象建築物を示す。
	数値は下記からの高低差を示す。 建物北側敷地入口=±0
	洗い出しコンクリート舗装 範囲を示す。
	コンクリート舗装 範囲を示す。
	アスファルト舗装 範囲を示す。
	インターロッキングブロック(300角)舗装 範囲を示す。
	タイル貼り(類300角)仕上 範囲を示す
	インターロッキングブロック(100×200)舗装 範囲を示す。
	人工芝張り 範囲を示す。
	ビニル床シート貼り 範囲を示す。



株式会社 コム・キューブ 一級建築士事務所

一級建築士 第311729号 内田 陽介

R7 年 2 月 28 日

施設名

西宇治公園

工事名

西宇治公園体育館空調設備改修工事

図 名

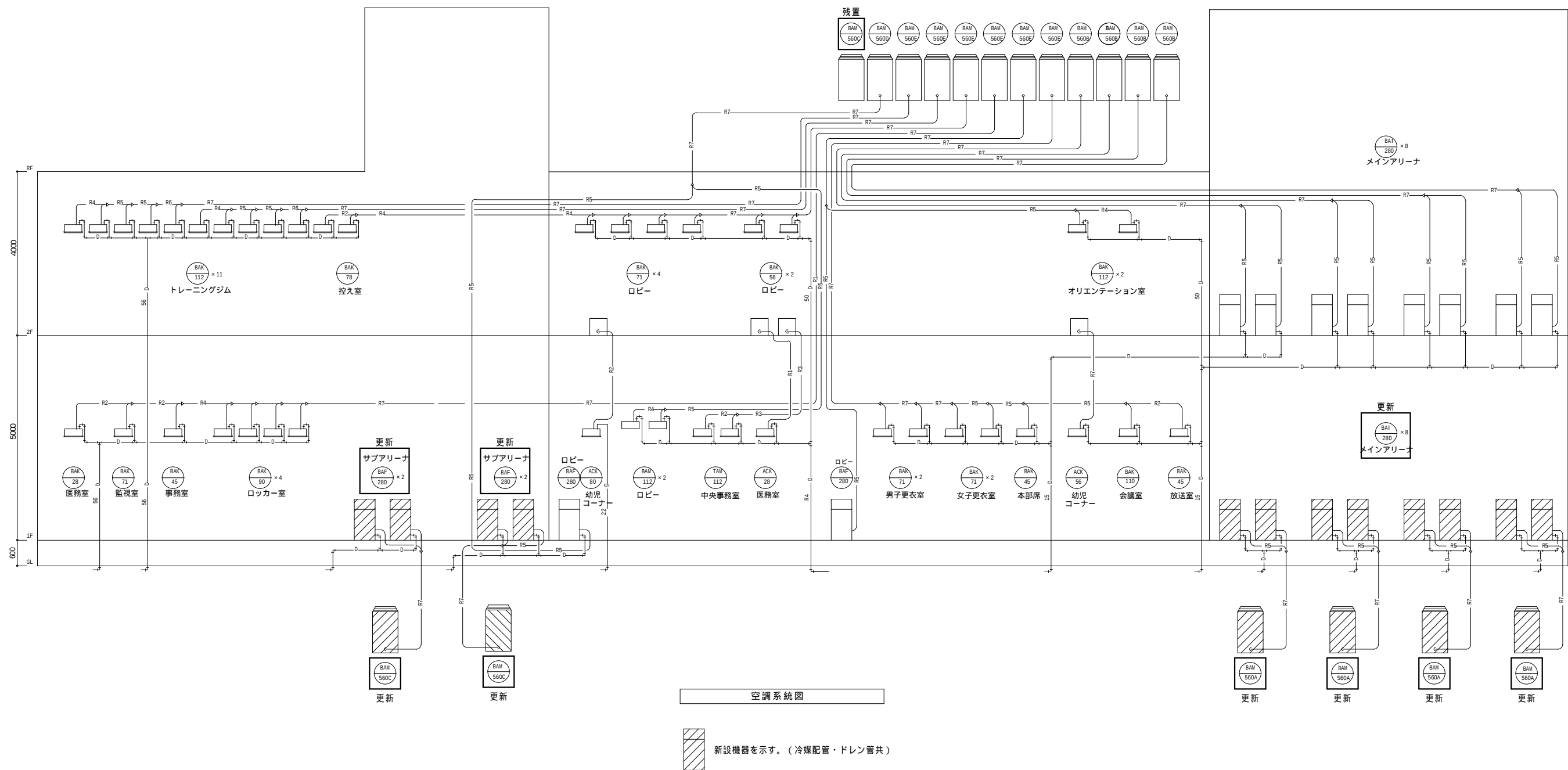
付近見取図・配置図

縮 尺

1/500・1/5,000

図面

No. M-05



[illegible]

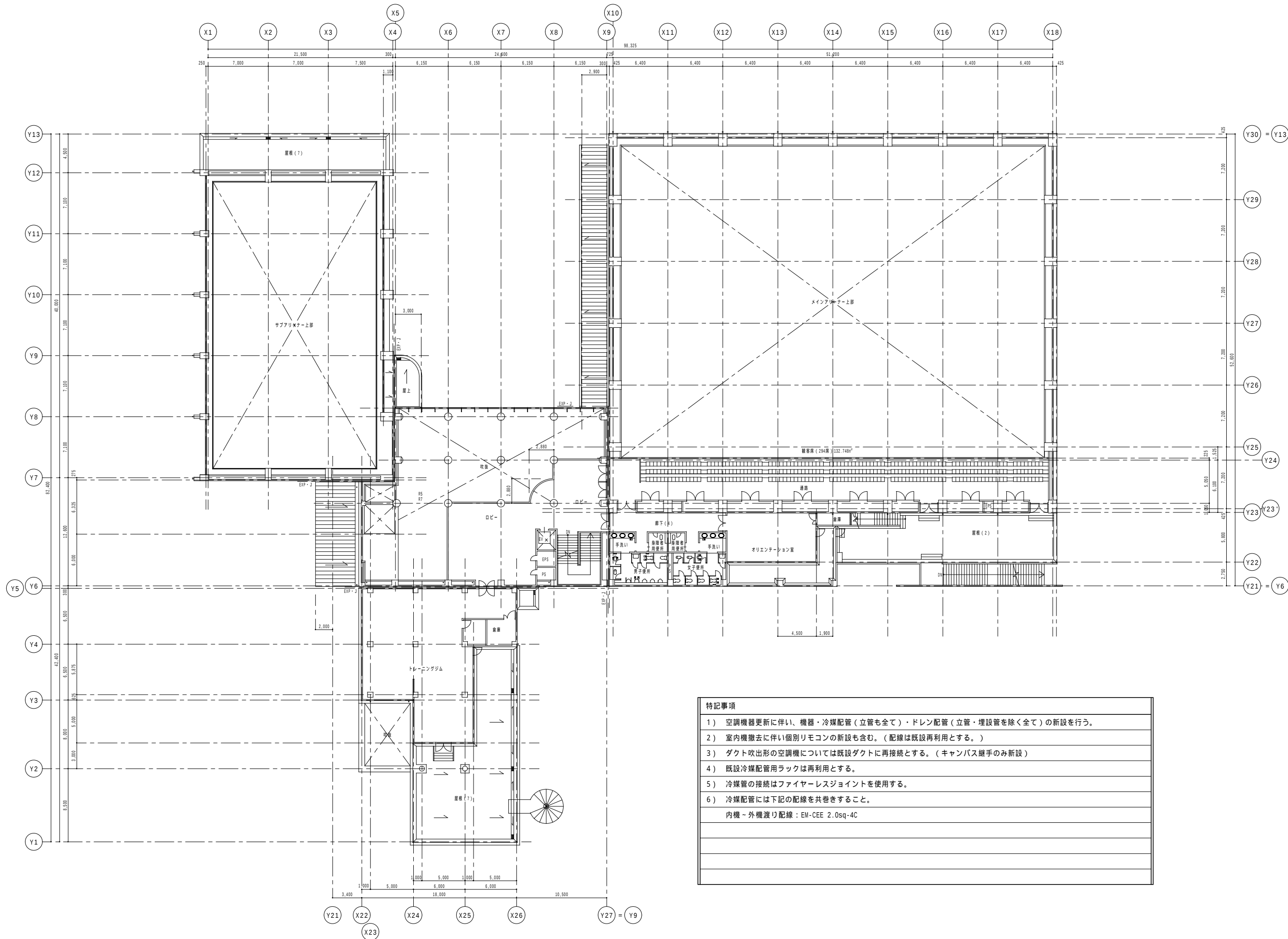
記号	機器名称	機器性能・仕様	電気関係	台数	設置場所	備考
BAC-71	空気・ードポンプエアコン	天井カセット2方向吹出し 冷房能力 1.1kw 暖房能力 0.7kw 化熱(16L・フルオート・ドレンアップス・その他標準付属品)	三相・200V 送風機 55w 参考騒音値 37 (dB)	5	1階用・文書収室 印刷機室 ボール紙機室	三菱 RPY-J71LMD-B
BAC-55	空気・ードポンプエアコン	天井カセット2方向吹出し 冷房能力 0.8kw 暖房能力 0.5kw 化熱(16L・フルオート・ドレンアップス・その他標準付属品)	三相・200V 送風機 55w 参考騒音値 34 (dB)	2	印刷機室	三菱 RPY-J55LMD-B
BAC-45	空気・ードポンプエアコン	天井カセット2方向吹出し 冷房能力 0.5kw 暖房能力 0.3kw 化熱(16L・フルオート・ドレンアップス・その他標準付属品)	三相・200V 送風機 55w 参考騒音値 34 (dB)	3	印刷機・搬送室 ボール紙機室	三菱 RPY-J45LMD-B
BAC-58	空気・ードポンプエアコン	天井カセット2方向吹出し 冷房能力 0.8kw 暖房能力 0.5kw 化熱(16L・フルオート・ドレンアップス・その他標準付属品)	三相・200V 送風機 55w 参考騒音値 32 (dB)	2	ボール紙機室 トレーニングジム付室	三菱 RPY-J58LMD-B
BAC-112	空気・ードポンプエアコン	ビル用マルチ室内機(ビルトイン型) 冷房能力 11.2kw 暖房能力 12.0kw 風量 2400m ³ /h 騒音値は 55dB 吐出フランジ・吸込フランジ・フィルタ・ドレンアップス・その他標準付属品	三相・200V 送風機 75w 参考騒音値 41 (dB)	2	印刷機室	三菱 RPY-J112MA
PAK-112	パッケージエアコン	天井カセット4方向吹出し 標準タイプ 冷房能力 13.0kw 暖房能力 13.2kw リモコン・化熱(16L・フルオート・ドレンアップス・その他標準付属品)	単相・200V 圧縮機 3.3kw 送風機 230w 参考騒音値 42 (dB)	1	中央事務室	三菱 RPA-J112NAC-M
AKC-80	パッケージエアコン	天井カセット1方向吹出し 標準タイプ 冷房能力 7.1kw 暖房能力 0.0kw リモコン・化熱(16L・フルオート・ドレンアップス・その他標準付属品) 集中コントローラ・機能アダプター	単相・200V 圧縮機 1.23kw 送風機 86w 外機 送風機 105w 内機	1	印刷コーナー2	ダイキン SFR30CV
AKC-55	パッケージエアコン	天井カセット2方向吹出し 標準タイプ 冷房能力 5.0kw 暖房能力 0.8kw リモコン・化熱(16L・フルオート・ドレンアップス・その他標準付属品) 集中コントローラ・機能アダプター	単相・200V 圧縮機 1.7kw 送風機 110w 参考騒音値 42 (dB)	1	印刷コーナー(1)	三菱 RPA-J55PAC-M
AKC-28	パッケージエアコン	天井カセット1方向吹出し 標準タイプ 冷房能力 2.8kw 暖房能力 0.0kw リモコン・化熱(16L・フルオート・ドレンアップス・その他標準付属品) 集中コントローラ・機能アダプター	単相・200V 圧縮機 0.75kw 送風機 51 w 参考騒音値 41 (dB)	1	印刷室	三菱 RPA-J28KAS-1N
CO-1	集中コントローラ	全ての空調機は集中コントローラ並びにプログラムタイマーにより制御する 配線並び人線工事は電気工事とし、経路調整は本工事とする 制御内容：発着（一括/グループ）、運転モード切り換え、優先指示、風速切り換え 監視、スケジュールタイマー	単相 100V	1	中央事務室	ダイキン CC401B

特記事項)

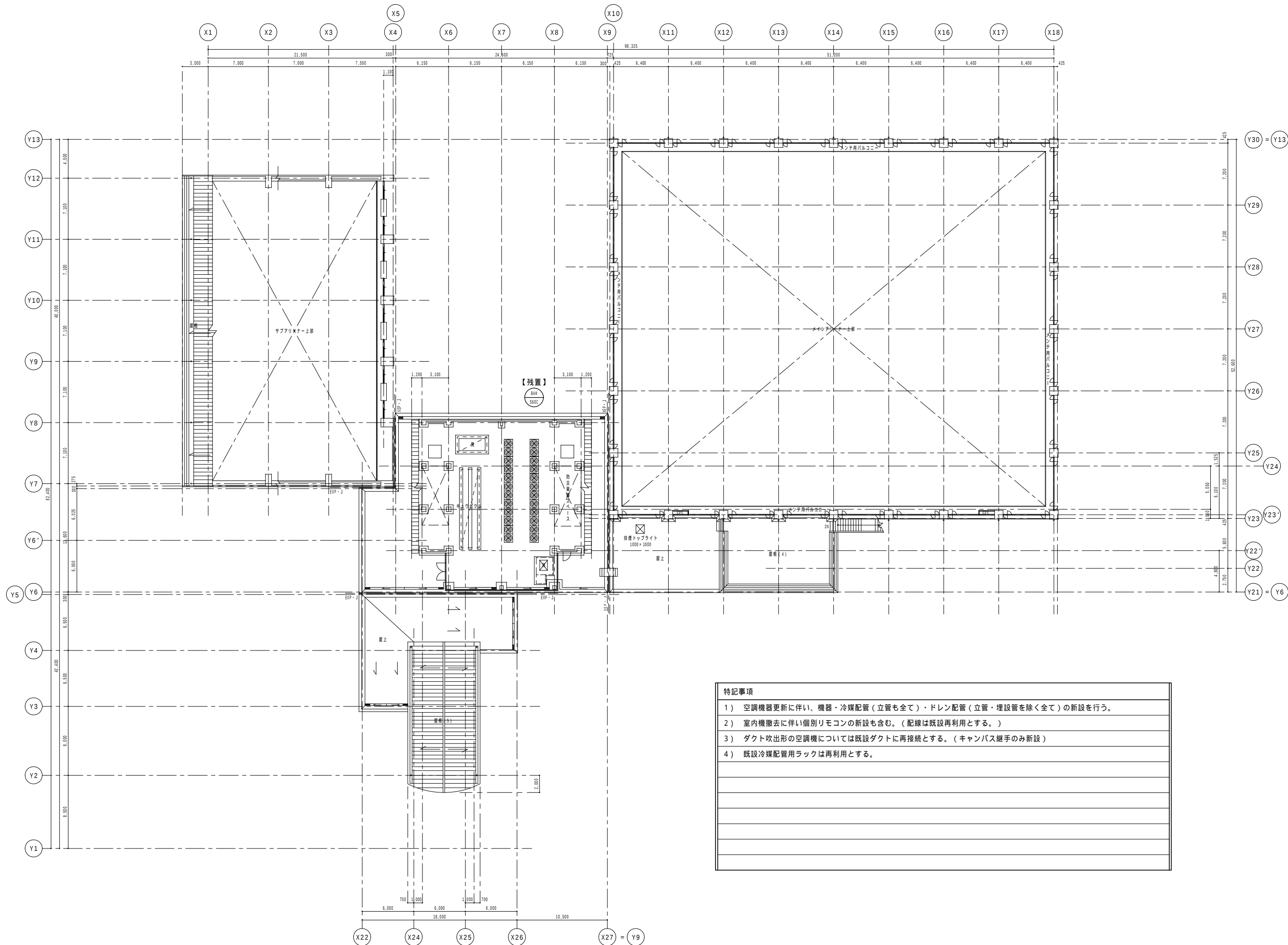
1. 電気容量は参考とする。(電源周波数: 60Hz)
2. 表示冷房・暖房能力は、JIS条件時に補正した定格能力(冷媒配管補正値)を示す。
3. 空調機冷媒は新冷媒とする。
4. フィルターはロングライフフィルターとし、予備は100%とする。
5. 空調機はグリーン購入法の良品とする。(対応機器全て)

 工事範囲外部分

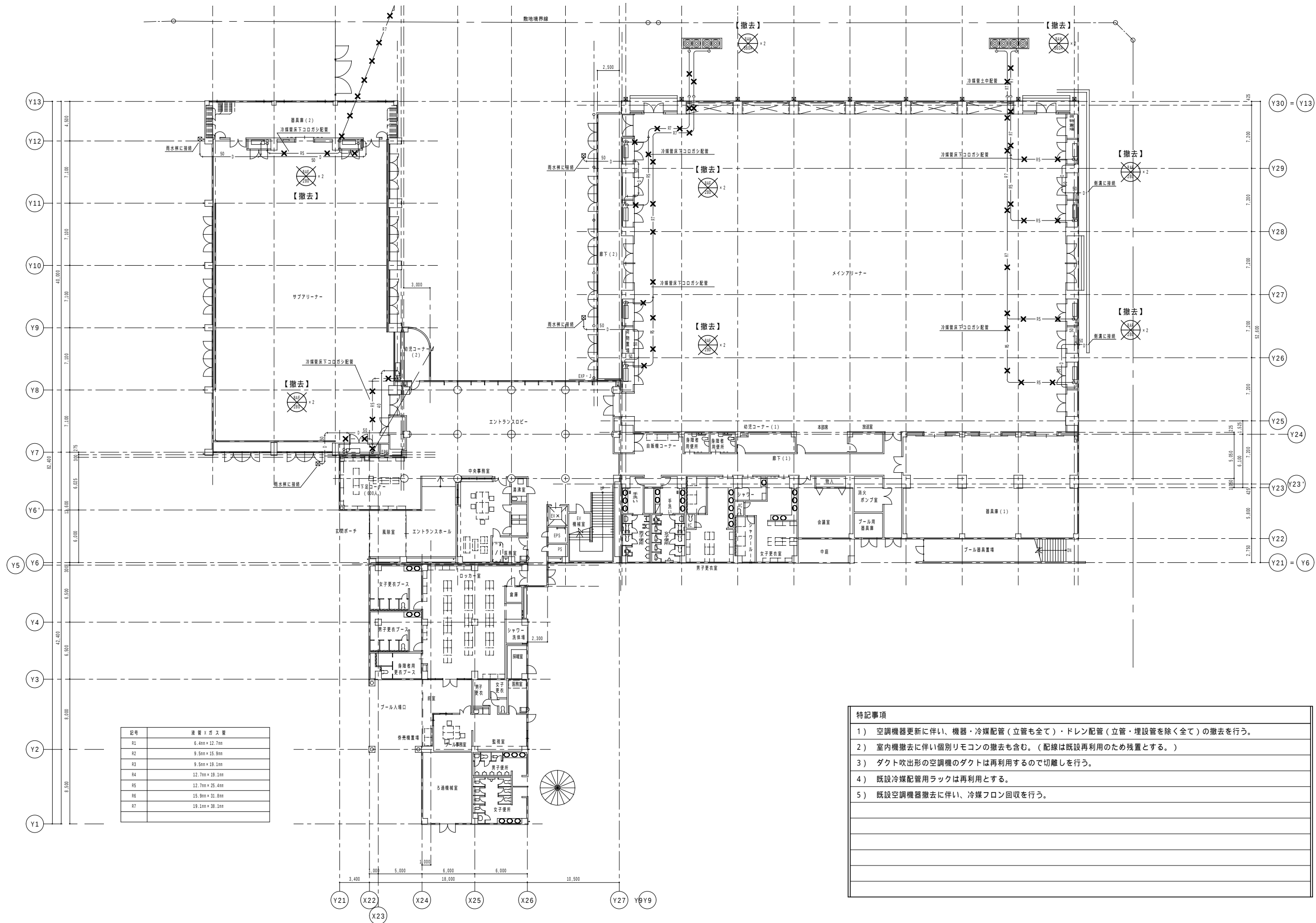
	 株式会社 コム・キューブ 一級建築士事務所 一級建築士 第311729号 内田 陽介 R7 年 2 月 28 日	施設名	西宇治公園	図 名	空調設備 機器リスト【改修】	図面
		工事名	西宇治公園体育館空調設備改修工事	縮 尺	—	No. M-07



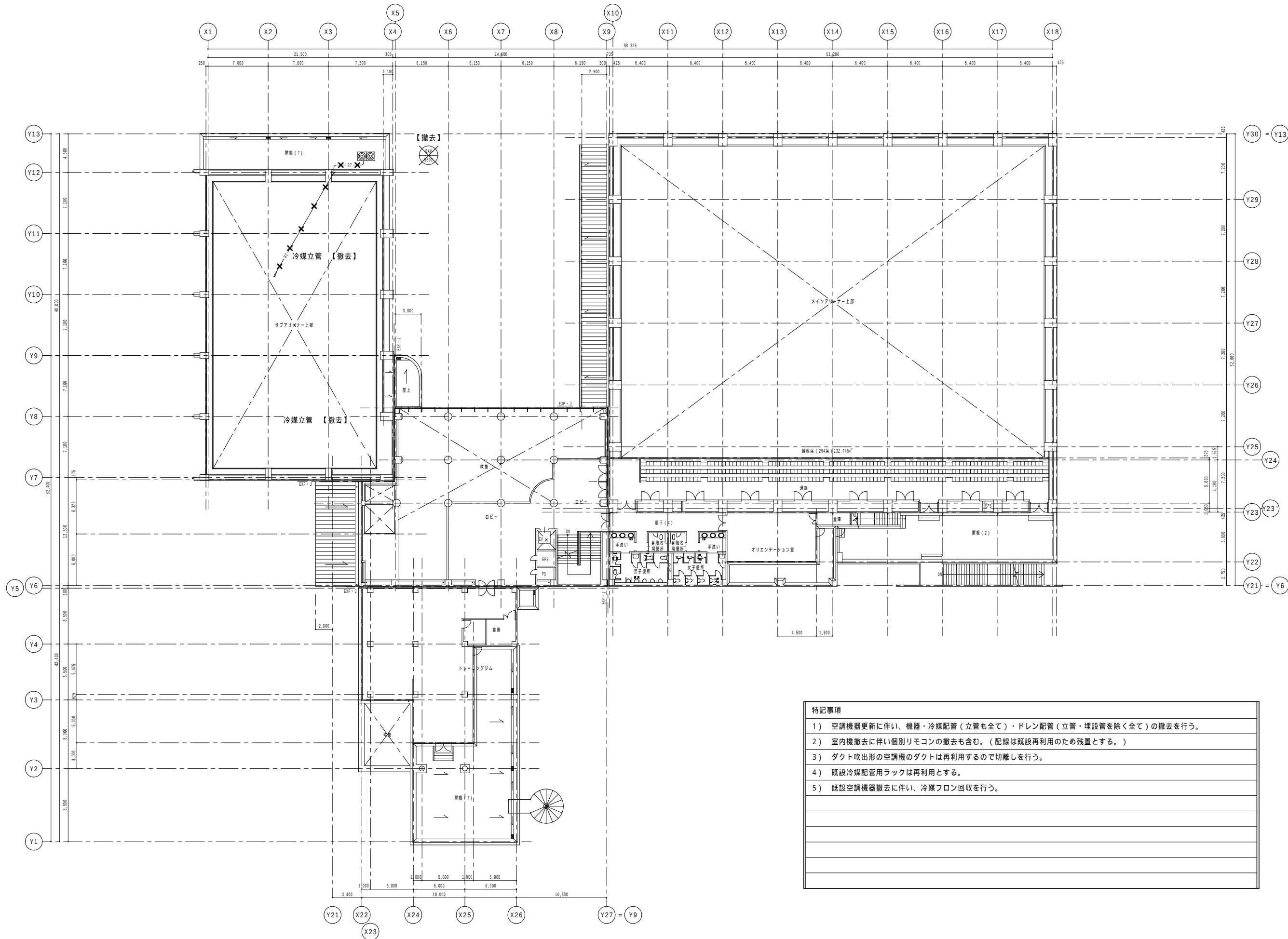
特記事項
1) 空調機器更新に伴い、機器・冷媒配管(立管も全て)・ドレン配管(立管・埋設管を除く全て)の新設を行う。
2) 室内機撤去に伴い個別リモコンの新設も含む。(配線は既設再利用とする。)
3) ダクト吹出形の空調機については既設ダクトに再接続とする。(キャンパス継手のみ新設)
4) 既設冷媒配管用ラックは再利用とする。
5) 冷媒管の接続はファイヤーレスジョイントを使用する。
6) 冷媒配管には下記の配線を共巻きすること。
内機～外機渡り配線：EM-CEE 2.0sq-4C



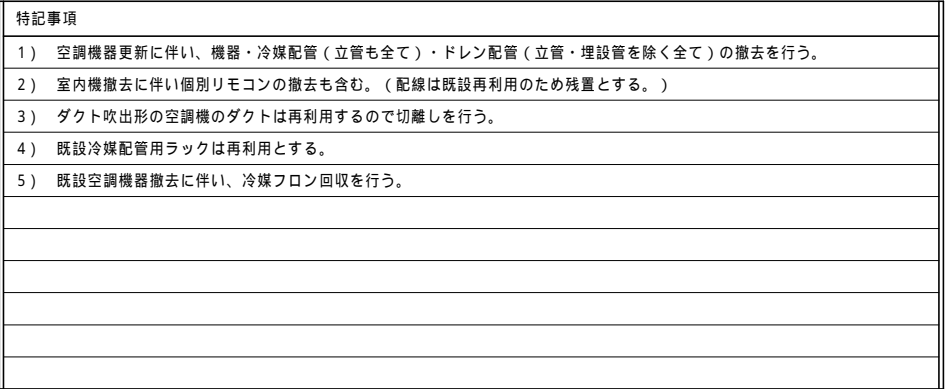
特記事項
1) 空調機器更新に伴い、機器・冷媒配管（立管も全て）・ドレン配管（立管・埋設管を除く全て）の新設を行う。
2) 室内機撤去に伴い個別リモコンの新設も含む。（配線は既設再利用とする。）
3) ダクト吹出形の空調機については既設ダクトに再接続とする。（キャンバス継手のみ新設）
4) 既設冷媒配管用ラックは再利用とする。

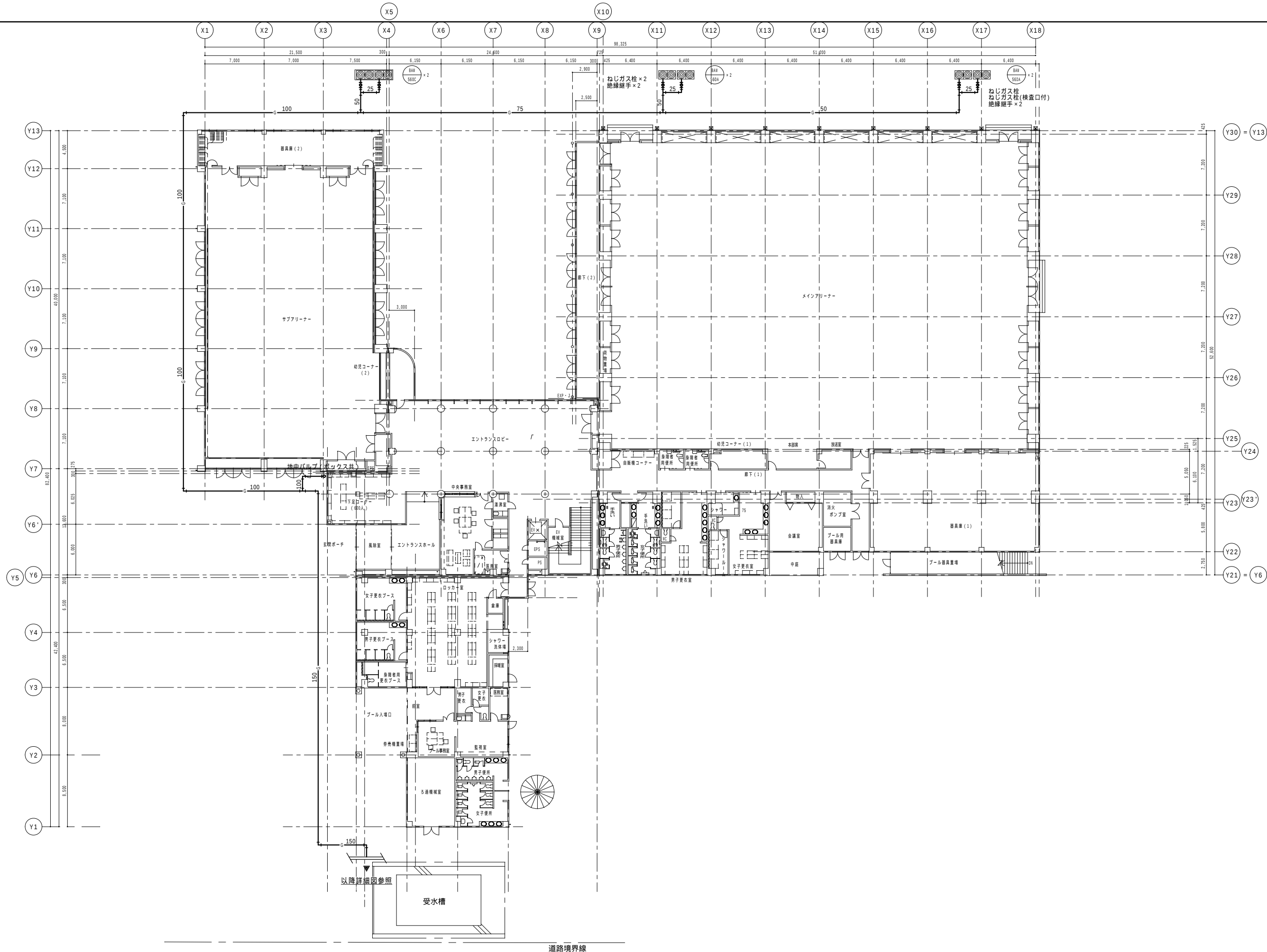


特記事項	
1)	空調機器更新に伴い、機器・冷媒配管（立管も全て）・ドレン配管（立管・埋設管を除く全て）の撤去を行う。
2)	室内機撤去に伴い個別リモコンの撤去も含む。（配線は既設再利用のため残置とする。）
3)	ダクト吹出形の空調機のダクトは再利用するので切離しを行う。
4)	既設冷媒配管用ラックは再利用とする。
5)	既設空調機器撤去に伴い、冷媒フロン回収を行う。



特記事項	
1)	空調機器更新に伴い、機器・冷媒配管（立管も全て）・ドレン配管（立管・埋設管を除く全て）の撤去を行う。
2)	室内機撤去に伴い個別リモコンの撤去も含む。（配線は既設再利用のため残置とする。）
3)	ダクト吹出形の空調機のダクトは再利用するので切離しを行う。
4)	既設冷媒配管用ラックは再利用とする。
5)	既設空調機器撤去に伴い、冷媒フロン回収を行う。





		株式会社 コム・キューブ 一級建築士事務所 一級建築士 第311729号 内田 陽介 R7 年 2 月 28 日	施設名	西宇治公園	図 名	ガス設備 1 階平面図	図面 No. M-16
			工事名	西宇治公園体育館空調設備改修工事	縮 尺	1/300	

章

項

目

特

記

事

項

【4】工 事 仕 様

1.設計図書による。設計図書に記載されていない事項は、「改修標仕」のほか別記の適用基準による。

2.項目は、番号に○印の付いたものを適用する。

3.特記事項は、●印の付いたものを適用する。●印の付かない場合は、○印の付いたものを適用する。

4.項目及び特記事項に記載の()内表示番号は「改修標仕」の当該項目、当該図又は当該表を示す。

②

土・鉄筋・コンクリート工事

①

埋め戻し及び盛土 (3.2.3)

○ A種 砂質土（山砂の類）を水締め又は機器による締固め

● B種 根切り土の中の良質土を機器による締固め

○ C種 他現場の建設発生土の中の良質土を機器による締固め

○ D種 再生コンクリート砂を水締め又は機器による締固め

○ その他（材料 工法）

○ 建設発生土（盛土材）の外部からの受入土量（発生場所（））

②

建設発生土の処理 (3.2.5)

下記に定めるほかは、現場説明書による

● 構外指示の受入場所に処分

受入場所 ●（一財）城陽山砂利採取地整備公社

土壌調査 ● 行う（受入場所指定の検査）

○ 京都府土砂等による土地の埋立等々の規制に関する条例施行規則第7条第3項13号及び第4項に規定する方法

仮置場所 ○

○ 構内指示の場所に敷き均し

○ 構内指示の場所にたい積

③

鉄筋の種類 (5.2.1)

	種類の記号	径 (mm)	備 考
異形鉄筋	S D 2 9 5	D 1 6 以下	
	S D 3 4 5	D 1 9 以上	
	○		

④

溶接金網 (5.2.2)

網目の形状、寸法 150×150 鉄線の径 6.0 mm

⑤

コンクリートの種類 (6.2.1)

種類 普通コンクリート

類別 類 ○ 類

⑥

コンクリートの強度 (6.2.2) (6.2.4) (6.10.2) (6.14.1)

設計基準強度 (F_c)

打 設 部 位	F _c (N/mm ²)	スランブ (cm)	備 考
構造体	基礎	○ 2 4 ○	○ 1 5 ○ 1 8
	上部	○ 2 4 ○	○ 1 5 ○ 1 8
土間コンクリート	● 1 8 ○	● 1 5 ○ 1 8	犬走り・機械基礎
捨てコンクリート	● 1 8 ○	● 1 5 ○ 1 8	
軽量コンクリート	○ 2 1 ○	2 1 ○ 1 8	
無筋コンクリート	1 8 ○	○ 1 5 ○ 1 8	標仕6.14.1による

構造体コンクリートの発注強度は以下のとおりとする。
{ F_c + 構造体強度補正值(S) } N/mm²
(6.14.1によるもの及び土間コンクリートは構造体強度補正は行わない)

⑦

セメントの類別 (6.3.1)

普通ポルトランドセメント又は混合セメントの A 種

○ 高炉セメント B 種（適用箇所）

○ シリカセメント

○ フライアッシュセメント B 種（施工箇所）

⑧

骨材 (6.3.1)

粗骨材 砂利 (JIS A5308), 砕石 (JIS A5005)

○ 高炉スラグ 再生骨材H

○ 電気炉酸化スラグ

○ 鋼スラグ 再生骨材H

○ 鋼スラグ 再生骨材H

アルカリシリカ反応性による区分 A（無害）

⑨

混和材料 (6.3.1)

○ 混和剤 AE剤、AE減水剤又は高性能AE減水剤の 種 (JIS A 6204)

○ 防錆剤 鉄筋コンクリート用防錆剤 (JIS A 6025)

○ 混和材 フライアッシュ (JIS A 6201) 種、 種若しくは 種

○ コンクリート用高炉スラグ微粉末 (JIS A 6206)

○ コンクリート用シリカフェューム (JIS A 6207)

○ コンクリート用膨張材 (JIS A 6202)

②

土・鉄筋・コンクリート工事

⑩

構造体強度補正值 (6.3.2)

気温による構造体強度補正值 (S) (表6.3.2)

予想平均気温 ()	補正值	期 間 (打 設 日)			
普通	早強	(S)	南部地域	中部地域	北部地域
8以上	5以上	3	3/6 ~ 6/30	3/11 ~ 7/20	3/11 ~ 7/10
		N/mm ²	9/11 ~ 11/15	9/1 ~ 11/5	9/1 ~ 10/31
0以上	0以上	6	11/16 ~ 3/5	11/ 6 ~ 3/10	11/ 1 ~ 3/10
8未満	5未満	N/mm ²			

南部地域（京都市（一部を除く）、旧八木町、旧園部町以南の市町村）
北部地域（宮津市、旧加悦町以北の市町）
中部地域（上記以外の市町、旧美山町及び旧京北町含む）

⑪

コンクリートの試験 (6.9.2) ~ (6.9.5)

フレッシュコンクリートの試験

○ 省略する

12

軽量コンクリート (6.10.1) ~ (6.10.3)

常時土又は水に直接接する部分の使用

種類 ○ 1種 ○ 2種

施工箇所

気乾単位容積質量 t/m³

13

寒中コンクリート (6.11.1)

予想平均気温が表6.3.2に示す予想平均気温未満の場合には標仕第6章第11節（寒中コンクリート）による。

14

暑中コンクリート (6.12.2)

暑中における構造体強度補正值 (S)

地 域	日平均気温が25度を超える期間 (打設日)	補 正 値
北 部 地 域	7 月 1 1 日 ~ 8 月 3 1 日	6 N / mm ² ○ 3 N / mm ²
中 部 地 域	7 月 2 1 日 ~ 8 月 3 1 日	
南 部 地 域	7 月 1 日 ~ 9 月 1 0 日	

コンクリート砂-車の過積載防止対策等

受注者は、出荷伝票等を整理・保管し、監督職員の請求があった場合は、遅滞なく提出するとともに、検査時に提示しなければならない。また、ミキサー車 1 台毎の積載量が把握できる運搬管理表を検査時に提出しなければならない。

⑥

内装改修工事

②

他の部分との取り合い等 (6.1.3)

既存壁の撤去に伴う当該壁の取り合う天井、壁、床の改修範囲

壁厚程度とし、既存仕上げに準じた仕上げを行う。

○ 図示による

○ 範囲() 仕上げ ()

天井内の既存壁の撤去に伴う当該壁の取り合う天井の改修範囲

壁面より両側600mm程度とし、既存仕上げに準じた仕上げを行う。

○ 図示による

○ 範囲() 仕上げ ()

天井の撤去に伴う取合部の壁面の改修

既存のまま

○ 図示による

○ 範囲() 仕上げ ()

③

既存床の撤去等 (6.2.2)

種 別	工 法	施 工 箇 所
● ビニル床シート等	○ 下地材の除去	図示による ○
○ 合成樹脂塗床材	○ 機械的除去工法 ○ 目荒し工法	図示による ○
● フローリング張り床材		
○ 床タイル		
● 床組		図示による

コンクリート又はモルタル面の下地処理に用いるポリマーセメントモルタル及びエポキシ樹脂モルタルは、4章外壁改修工事による。

②

内装改修工事

4

既存壁の撤去等 (6.3.2)

間仕切壁撤去に伴う構造体の補修

改修標仕4.3.10によるモルタル塗り

（塗り厚25mmを超える場合の補修 ○ 行う ○ 行わない）

○

5

木下地等 (6.5.1) ~ (6.5.9)

材料のホルムアルデヒド放散量

F 又は改修標仕6.5.2(1)(ウ)(b)による

含水率 下地材 A 種 (15%以下) ○ B 種 (20%以下)

造作材 A 種 (15%以下) ○ B 種 (18%以下)

以下に規定されているものは、その規定による。

JAS 1083 (製材) に基づく製材

○ 下地用製材

使用箇所	樹 種	寸 法	等級	含水率	保存処理
			○ 1 級		
			2 級		

○ 造作用製材

使用箇所	樹 種	寸 法	等級	含水率	保存処理
			○ 無節		
			○ 上小節		
			○ 小節		
			○ 並		

○ 広葉樹製材

使用箇所	樹 種	寸 法	等級	含水率	保存処理
			○ 特等	10%以下	
			1 等		
			○ 2 等		

○ JAS 1083 (製材) 以外の製材 (表12.2.2)

使用箇所	樹 種	寸 法	材面の品質	防虫処理	含水率
			A 種 ○ B 種		

使用木材のうち杉、ひのきについては京都府産木材とする。

○ 工事完成までに、ウッド・マイル・C02京都の木認証書（京都府産木材証明書及びウッド・マイル・C02計算書）（注1）を提出する事を原則とする。当該認証を受けた木材の使用が困難な場合には、京都の木証明書（京都府産木材証明書）（注2）を提出すること。

証明書及び計算書の発行に係る手続きについては次の機関による。

一般財団法人京都府木材組合連合会

TEL：075-802-2991

注1)認証書

注2)証明書は製材助、流通業者の全てが取扱事業体又は認証機関登録事業体でなければ発行されない。

詳細は上記法人のホームページを参照すること。

○ 工事完成までに、京都府産木材の産地証明書を提出すること。

京都木材規格 (KTS) 法を使用する場合は、京都木材規格 (KTS) 材証明書（発行機関：（一社）京都府木材組合連合会）を提出すること。

「集成材の日本農林規格」による造作用集成材

○ 造作用集成材

使用箇所	品 名	樹 種	見付材面数	寸 法	見付材面の品質
					1 等 ○ 2 等

○ 化粧ばり造作用集成材

使用箇所	品 名	樹 種	寸法	化粧板厚薄	見付材面数	見付材面の品質
				化粧材 芯材		1 等 ○ 2 等

「集成材の日本農林規格」以外の造作用集成材

○ 造作用集成材

使用箇所	樹 種	寸 法	見付材面の品質	含水率
				15%以下 ○

○ 化粧ばり造作用集成材

使用箇所	化粧樹種名	芯材樹種名	寸法	化粧板厚薄	見付材面の品質	含水率
						15%以下 ○

JAS 0701 (単板積層材) に基づく造作用単板積層材

○ 造作用単板積層材

使用箇所	品名	寸法	表面の品質	防虫処理
			○ 表面化粧加工なし ○ 1 等 ○ 2 等 ○ 3 等 ○ 表面化粧加工あり ○ 天然木化粧加工 ○ 塗装加工	○ 適用する ○ 適用しない

⑥

内装改修工事

JAS 0701 (単板積層材) 以外の造作用単板積層材

○ 造作用単板積層材

使用箇所	寸法	表面の品質	含水率	防虫処理
		○ 表面化粧加工なし ○ 14%以下 ○ 適用する ○ 適用しない		

○ JAS 3079 (直交集成板)

施工箇所	品名	曲げ性能 (強度等級)	種別	接着性能 (使用環境)	樹種	寸法 (mm)

合板等

「合板の日本農林規格」による普通合板

使用箇所	品名	厚さ	樹種名	接着程度	板面の品質	その他処理
押入れ、物入れ		5.5mm ○		1 類 ○ 2 類	広葉樹 2 等以上 ○ 針葉樹 C - D 以上 ○	○ 防虫処理 ○ 難燃処理 ○ 防炎処理

「合板の日本農林規格」による構造用合板

使用箇所	品名	等級	厚さ	樹種名	接着程度	板面の品質	保存処理	その他処理
畳床下地材、70-リッパ張り下地材		2 級 以上 ○	12mm ○		1 類 ○ 特類	C - D 以上 ○		○ 防虫処理 ○ 強度等級

「合板の日本農林規格」による化粧ばり構造用合板

使用箇所	品名	厚さ	単板の樹種名	接着程度	防虫処理
				○ 1 類 ○ 特類	

「合板の日本農林規格」による天然化粧合板

使用箇所	化粧板に使用する単板の樹種名	厚さ	接着程度	防虫処理
			○ 1 類 ○ 2 類	

「合板の日本農林規格」による特殊加工化粧合板

使用箇所	品目	厚さ	接着程度	単板の樹種名	化粧加工の方法	防虫処理
			○ 1 類 ○ 2 類			

工

事

名

西宇治公園体育館空調設備改修工事

図 番

№ A-01

設 計 番 号

設計年度

令和 7 年 2 月

Ver. R04 (R05_02)

[illegible]

⑦

塗装改修工事

③

素地ごしらえ
(7.3.2) ~ (7.3.7)

4

錆止め塗料塗り
(7.4.2) (7.4.3)

⑤

塗装工程
(7.5.2) ~ (7.13.2)

(表7.3.2) ~ (表7.3.7)

下地面等		種 別	
木部	不透明塗料塗りの場合	A種 ○ B種	
	透明塗料塗りの場合	○ A種 ○ B種	
鉄鋼面 (DP以外)		○ A種 ○ B種 C種	
鉄鋼面 (DP)		○ A種 B種 ○ C種	
亜鉛めっき鋼面		○ A種 ○ B種	
鉄鋼面及びせつこうアスター面 (DP)		○ A種 B種	
コンクリート面 (DP以外) 及びALCパネル 鉄面		○ A種 B種	
押出成形セメント板面及びコンクリート面 (DP)		○ A種 ○ B種	
コンクリート面 (DPのみ)		○ A種 B種	
せつこうボード面及び その他のボード面	目地: 継目処理工法	A種 ○ B種	
	目地: 継目処理工法以外	○ A種 B種	

錆止め塗料の種類別

素地面	塗装の種類	塗料の種類	工程の種類	備考	
鉄鋼面	SOP (工程の種類別は表7.4.3)	塗替え 新規見え掛り 新規見え隠れ	○ A種 ○ A種 ○ A種	C種 ○ A種 ○ B種 ○	
	EP-G (工程の種類別は表7.4.3)	塗替え 新規見え掛り 新規見え隠れ	○ A種 B種 ○ A種 B種 ○ A種 B種	C種 ○ A種 ○ B種	
	DP (工程の種類別は表7.4.4)	塗替え 新規 新規	7.4.2(1)(イ) (a)による 7.4.2(1)(イ) (a)による	○ B種 (下地調整時) ○ C種 (下地調整時) ○ A種	
	亜鉛めっき鋼面	SOP (工程の種類別は表7.4.5)	塗替え 新製鋼製建具等 規 其他	A種 ○ B種 A種 ○ B種 B種 ○	C種 ○ A種 ○ B種 ○
		EP-G (工程の種類別は表7.4.5)	塗替え 新製鋼製建具等 規 其他	○ C種 ○ ○ C種 ○ ○ C種 ○	C種 ○ A種 ○ B種 ○
		DP (工程の種類別は表7.4.6)	塗替え 新規	○ B種 ○ ○ B種 ○	- -

工程の種類別 (表7.5.1) ~ (表7.13.1)

記 号	名 称	種 別		
SOP	合成樹脂調査 ペイント塗り	木部	新規外部 新規内部 塗替え	A種 ○ B種 ○ C種 ○ A種 B種 ○ C種 ○ A種 B種 (外部の場合工程3, 工程4は行わない) ○ C種
			鉄鋼面	○ A種 B種 ○ C種
				亜鉛めっき面 鋼製建具 塗替え 其他塗替え ・新規
	CL	ｸﾘﾔﾗｯｶｰ塗り	○ A種 (着色塗料の種類) B種	
	NA D	ｱｸﾘﾙ樹脂系 非水分散形塗料塗り	○ A種 B種	
DP	耐候性塗料塗り	鉄鋼面	○	
		亜鉛めっき鋼面	○	
		ｺﾝｸﾘｰﾄ面及び 押出成形セメント板面	○ A-1種 ○ B-1種 ○ C-1種 ○ A-2種 ○ B-2種 ○ C-2種	
		上塗り	○ 1級 ふっ素樹脂系等 ○ 2級 シリコン系等 ○ 3級 ポリウレタン系等	
EP-G	つや有合成樹脂 ｸﾘｽﾀﾙﾊﾞｲﾝﾄ塗り	ｸﾞﾗﾝﾄﾞ面, せつこうｽﾀｰ面 鉄鋼面, せつこうボード面, 其他ボード面	○ A種 B種 ○ C種 しみ止め ○ しみ止めﾀｰﾅｰ (B種及びC種の場合)	
EP	合成樹脂 ｸﾘｽﾀﾙﾊﾞｲﾝﾄ塗り	木部	新規 塗替え	A種 ○ B種 ○ C種 ○ A種 B種 ○ C種
		鉄鋼面	○ A種 B種 ○ C種	
		亜鉛めっき鋼面	A種 ○ B種	
UC	ｸﾘﾔﾗ樹脂系塗り	○ A種 B種		
	ｽﾃｲﾝ塗り	○ ﾋﾞﾆﾙﾌﾞﾗｲﾄﾞ塗り (表7.13.1) ○ ﾀｲﾌﾞﾗｲﾝﾄ塗り (OS)		
WP	木材保護塗料塗り	○ A種 B種		

ｸﾘﾔﾗｯｶｰ塗りA種の工程2の運用

○ 適用する (着色剤: ○ 溶剤系着色剤 ○ 油性染料着色剤) ○ 適用しない

ｳﾚﾀﾝ樹脂ワニス塗りの工程1の着色の適用

○ 適用する ○ 適用しない

ｵｲﾙｽﾃｲﾝ塗り等の工程等

○

⑨

ユニット及びその他の工事

②7

フェンス

②9

ｽﾍﾟｰｼﾞ長尺弾性床材

②

排水工事

③

緑石 (21.3.1)

④

コンクリート側溝 (21.2.1) (21.3.1)

表 面 仕 上 等

種 類

門扉の仕様

● 亜鉛めっき ○ 樹脂塗装 ● ﾏｯｸﾞﾌｧｲﾊﾞｽ ○ ﾓﾙﾀﾙﾌｧｲﾊﾞｽ ● 片開き ○ ﾋﾞﾆﾙ被覆 ○ ﾓﾙﾀﾙﾌｧｲﾊﾞｽ ○ 両開き

● t=6.2 ｸﾘﾔﾏ(株): ﾀﾗﾌﾚｯｸｽｽﾎﾟｰﾂﾌﾛｱｰ同等品以上

本章の項目及び特記事項の()内表示番号は、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修 公共建築工事標準仕様書(令和4年版)の該当項目、該当図又は該当表を示す。

材 種 (表21.2.1)

管 の 種 類

呼び径

基床の厚さ

○ 遠心力鉄筋コンクリート管 外圧管(1 種)

○ 硬質ポリ塩化ビニル管 ○ V P ○ V U ○ R S - V U

○ 硬質ポリ塩化ビニル管継手 ○ D V ○ V U継手

○ 凍上抑制層に用いる材料 ○ 砂 (○ 砂の粒度試験) ○

○ 側塊の形状および寸法 図示による ○

○ 排水柵の種類 図示による ○

○ 鋼鉄製マンホールふたの種類

種 類

適 用 荷 重 (安全荷重)

○ 水封形 ○ 密閉形(ﾌｰﾊﾞｰﾊﾞｯﾁﾝ式) ○ T- 2用 (5KN) ○ T-6用 (115KN)

○ 中蓋付密閉形 ○ 簡易密閉形 (ﾊﾞｯﾁﾝ式) ○ T-20用 (50KN)

○ グレーチングふた

種 類

材 質

受 持

形 式

適用荷重

タイプ

上面形状

○ 溝ふた用 ○ 鋼製 ○ なし ○ 歩行用 ○ 普通目 ○ 平行

○ 樹ふた用 ○ ﾏｲﾌﾟﾙ製 ○ あり ○ T- 2用 ○ 細目

○ 高上げ用 ○ 鋳鉄製 ○ 図示 ○ T- 6用

○ U字溝用 ○ 樹脂製 ﾎﾙﾄ固定 なし ○ T-14用 ○ 図示 ○ T-20用

歩歩道境界ブロックのJIS による呼び名 A ● B

地先境界ブロックのJIS による呼び名 ● A ○ C ○

砂利地業の厚さ 100mm ● 50mm

鉄筋コンクリートL形のJIS による呼び名 ○ 250A 250B ○

コンクリートL形のJIS による呼び名 ○ 250A 250B ○

鉄筋コンクリートU形のJIS による呼び名 ○ 240 ○ 300A ○ 360A ● 図示による

現場打ちコンクリートの設計基準強度 F c(N/mm 2) 1 8 ○

スランブ(cm) ● 1 5 ○ 1 8 ○

現場打の鉄筋 種類 記号 SD295 ○

⑪

舗装工事

1

路床 (22.2.2) (22.2.3) (22.2.5)

②

路盤 (22.3.2) (22.3.3) (22.3.5)

3

アスファルト舗装 (22.4.2) ~ (22.4.6)

④

コンクリート舗装 (22.5.2) ~ (22.5.6)

5

カラー舗装 (22.6.2) ~ (22.6.4)

6

透水性アスファルト舗装 (22.7.2) ~ (22.7.6)

本章の項目及び特記事項の()内表示番号は、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修 公共建築工事標準仕様書(令和4年版)の該当項目、該当図又は該当表を示す。

路床の構成

○ 凍上抑制層 厚さ ○ 図示による ○

○ 透水性舗装 フィルター層の厚さ 車道部 ○ 図示による ○ 150mm ○

歩道部 ○ 図示による ○ 50mm ○

(凍上抑制層に用いる材料に砂を用いる場合の粒度試験)

○ 行う ○ 行わない

盛土に用いる材料 ○ A種 B種 ○ C種 ○ D種 (表3.2.1)

路床安定処理 ○ 行う ○ 行わない

路床安定処理用材料 添加材料による安定処理 (表22.2.1)

種 類 ○ 地盤改良材 () ○ 高炉セメントB種

○ 普通ポルトランドセメント ○ 生石灰 特号 ○ 生石灰 1号

○ フライアッシュセメントB種 ○ 消石灰 特号 ○ 消石灰 1号

添加量 kg/m3

路床土の支持力比(CBR)試験 ○ 行う(乱した土 ○ 乱さない土)

路床締固め度の試験 行う(埋戻し部、盛土部) ○ 行わない

路盤の厚さ 100・150 mm

材料 ● 再生クラッシュラン (RC-40,30,20)

○ クラッシュラン (C-40,30,20) ○ ﾏｯｸﾞﾗﾝ鉄鋼ｽﾀｰ (CS-40)

路盤締固め度の試験 行う

舗 装 の 種 類

表層(mm)

基層(mm)

カラー舗装の種類

アスファルト舗装

顔料混入加熱アスファルト混合物

アスファルト ○ 再生アスファルト (○ 60 ~ 80 ○ 80 ~ 100)

○ ストレートアスファルト

再生加熱アスファルト混合物の種類

区分

○ 一般地域

○ 寒冷地域

表層 ○ 密粒度アスファルト混合物 (13) 密粒度アスファルト混合物 (13F)

○ 細粒度アスファルト混合物 (13)

施工

アスファルト混合物の抽出試験 ○ 行う ○ 行わない

アスファルト締固め度、厚さの試験 ○ 行う ○ 行わない

構成

コンクリートの種類

部 位

厚さ(mm)

設計基準強度(N/m²)

スランブ(cm)

普通コンクリート

図示による

図示による

18N/m²

15cm

早強セメント 使用しない ○ 使用する

目地

注入目地材料 低弾性タイプ ○ 高弾性タイプ

種類 ○ 突合せ目地 ○ 収縮目地 ○ 伸縮調整目地 ○

間隔 ○ 5m程度ごと ○ 4m程度ごと ○ 3m程度ごと ○

コンクリート版厚さの試験 行う

種 類

部 位

配合その他

加熱系ｱｽﾌﾙﾄ混合物

添加材 ○ 着色骨材 ○ 自然石

結合材 ○ ｱｽﾌﾙﾄ ○ 石油樹脂 (添加量)

ｱｽﾌﾙﾄ混合物等の抽出試験

○ 適用する 適用しない

舗装の厚さ mm

○ 常温系ニート工法

○ 常温系塗布工法

着色部の下部

舗装の平たん性 ○ アスファルト舗装 ○ コンクリート舗装

通行の支障となる水たまりを生じない程度

舗装構成及び厚さ 図示による ○

表層の厚さの試験 行う ○ 行わない

開粒度ｱｽﾌﾙﾄ混合物の抽出試験 ○ 行う 行わない

⑦

ブロック系舗装 (22.8.2) (22.8.3)

⑪

舗装工事

○ コンクリート平板舗装

種 類

寸 法 (mm)

厚さ (mm)

目 地

普通平板(N) ○ カラー平板(C)

○ 300角

60

砂

○ 洗出平板(W) ○ 擬石(S) ○

○ モルタル

品質・規格

クッション材 砂 ○ 空練りモルタル

○ インターロッキングブロック舗装

種 類

部位

形状寸法(mm)

厚さ(mm)

曲げ強度(N/mm²)

色彩及び表面加工等

普通ブロック

車路

現状に合わせる

80

5.0

標準品

○ 京エッジ

歩行者用通路

60

3.0

○

○ 透水ブロック

-

80

○

○

○ 植生ブロック

60

80

100

品質・規格

クッション材 砂

● 鋪石舗装

種 類

形状寸法(mm)

厚さ(mm)

工 法

基 層

基層の厚さ(mm)

○ 花崗岩

300×300

● 80~100

○ うろこ張り

● エポキシ版

70

○

● 御影石

○

○ ｱｽﾌﾙﾄ混合物

50

○

品質・規格

クッション材 砂 ○ 空練りモルタル

工事名

西宇治公園体育館空調設備改修工事

図 番

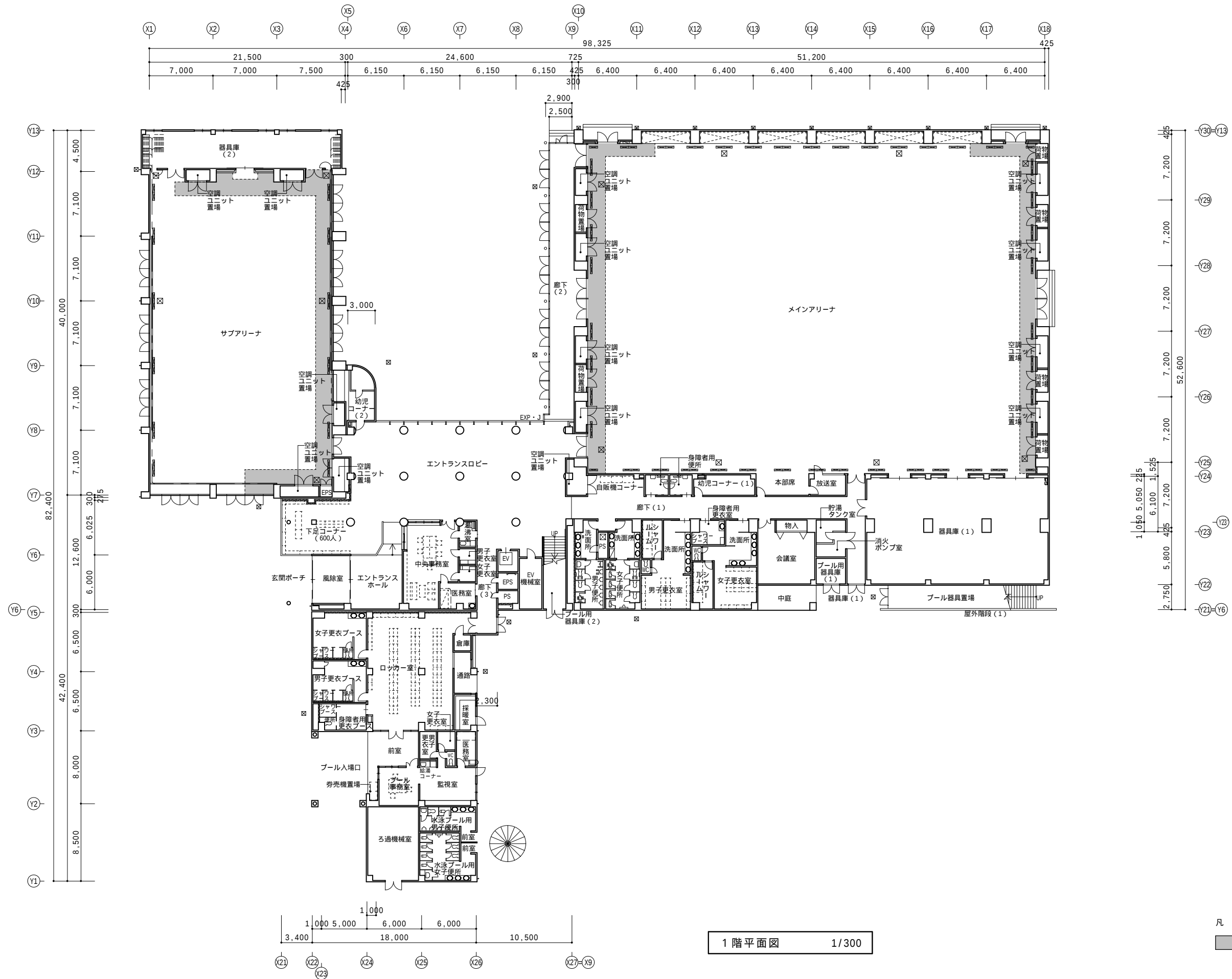
№ A-03

設計番号

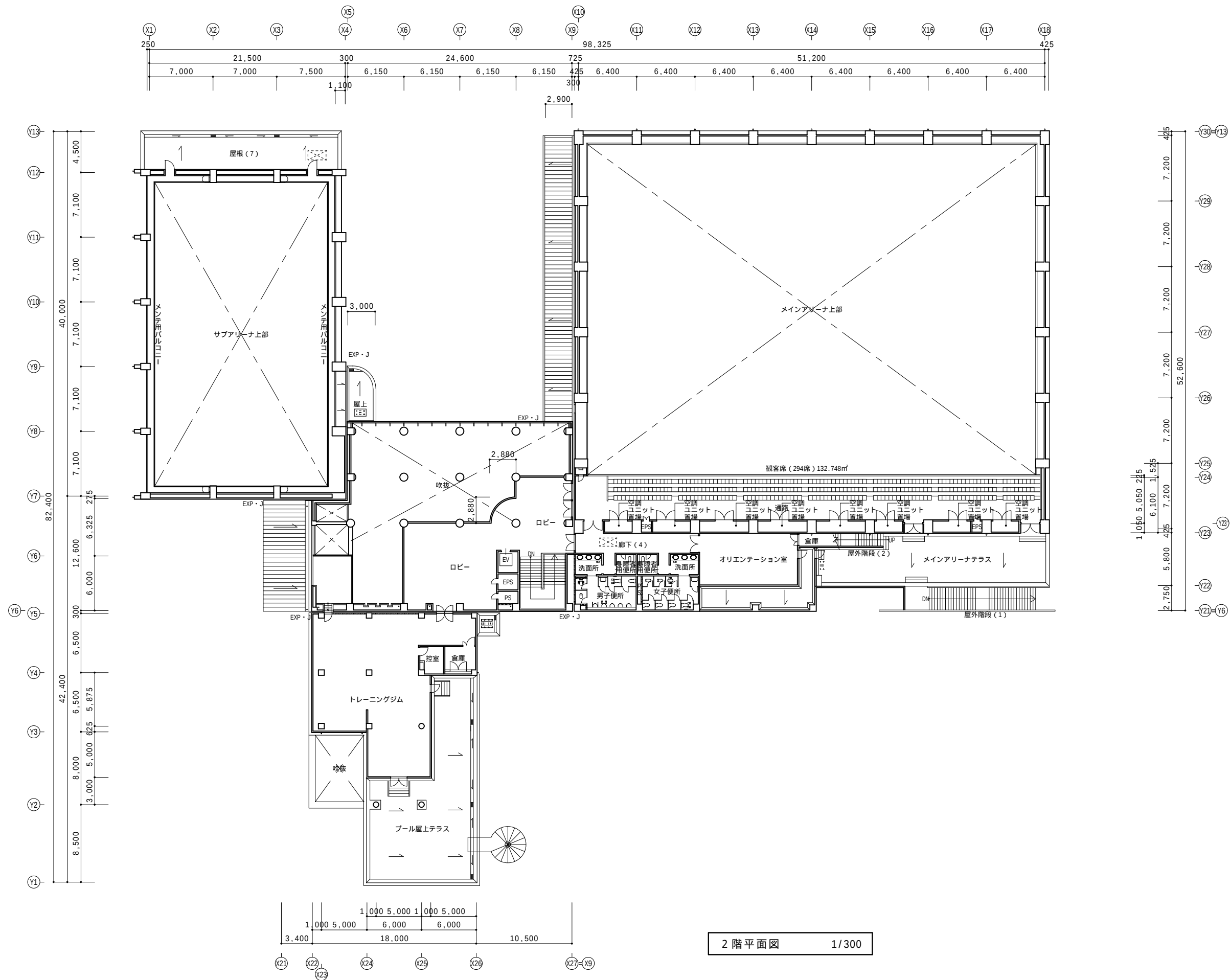
設計年度

令和 7 年 2 月

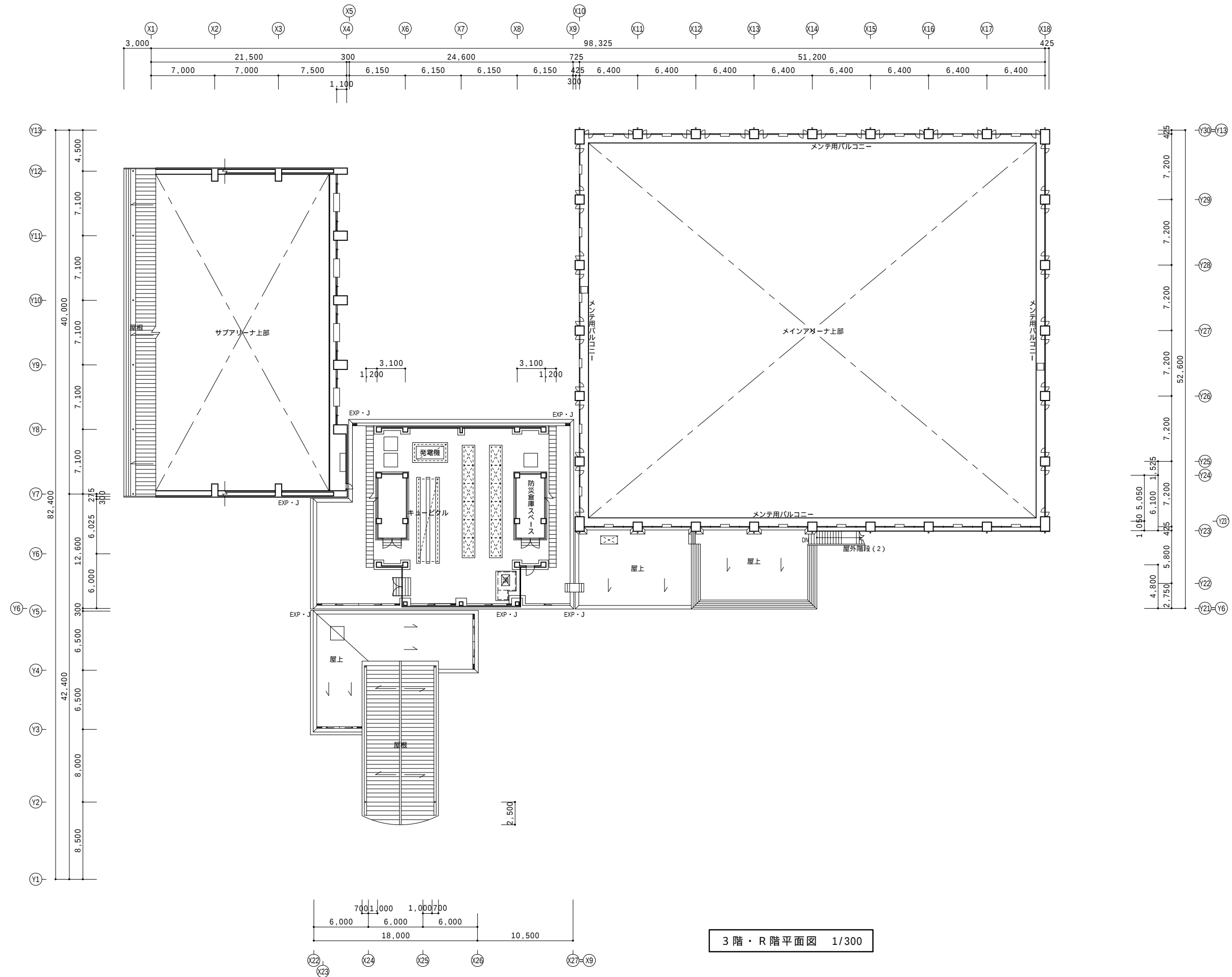
Ver. R04(R05_02)



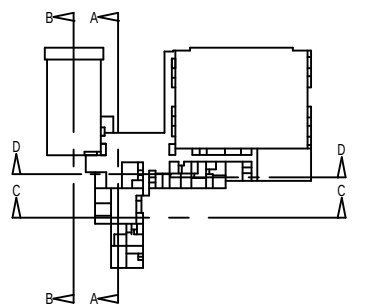
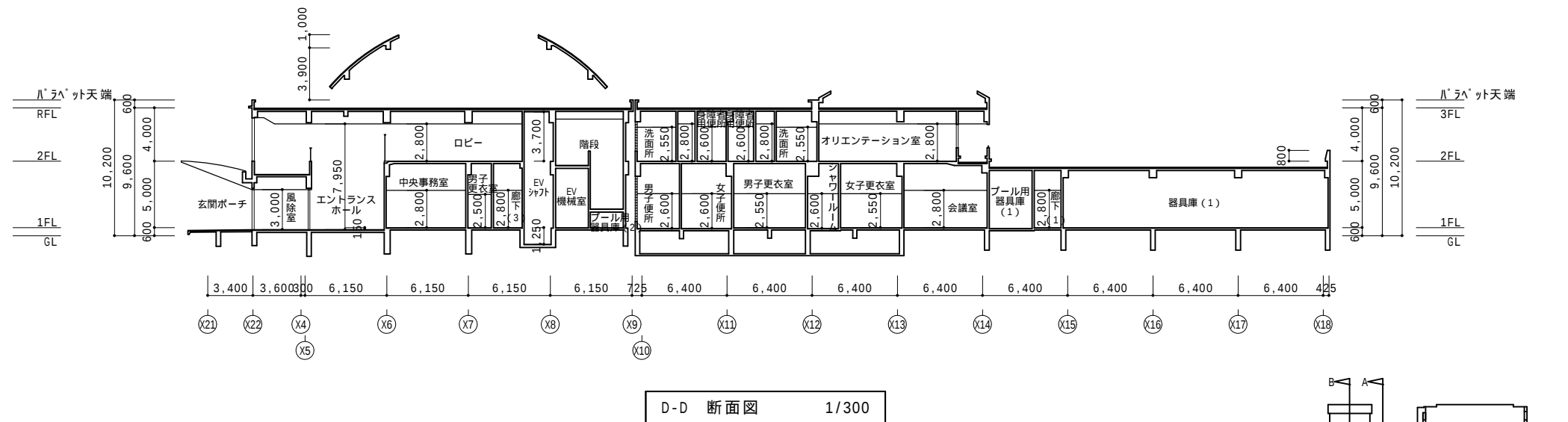
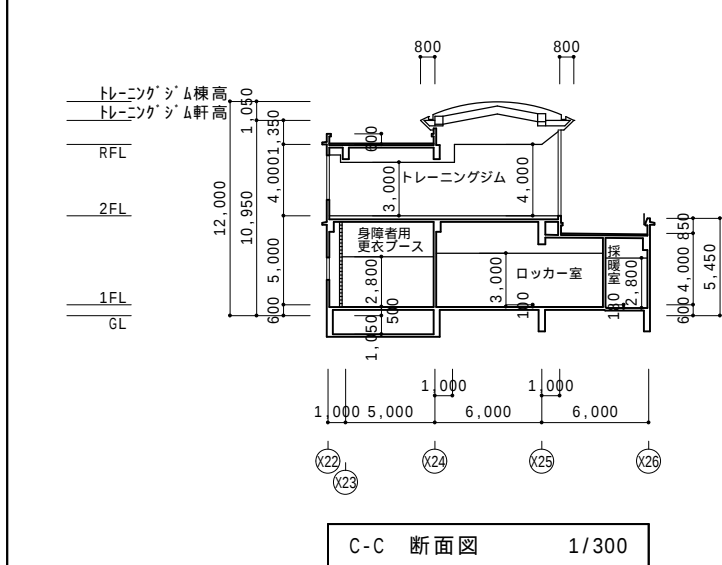
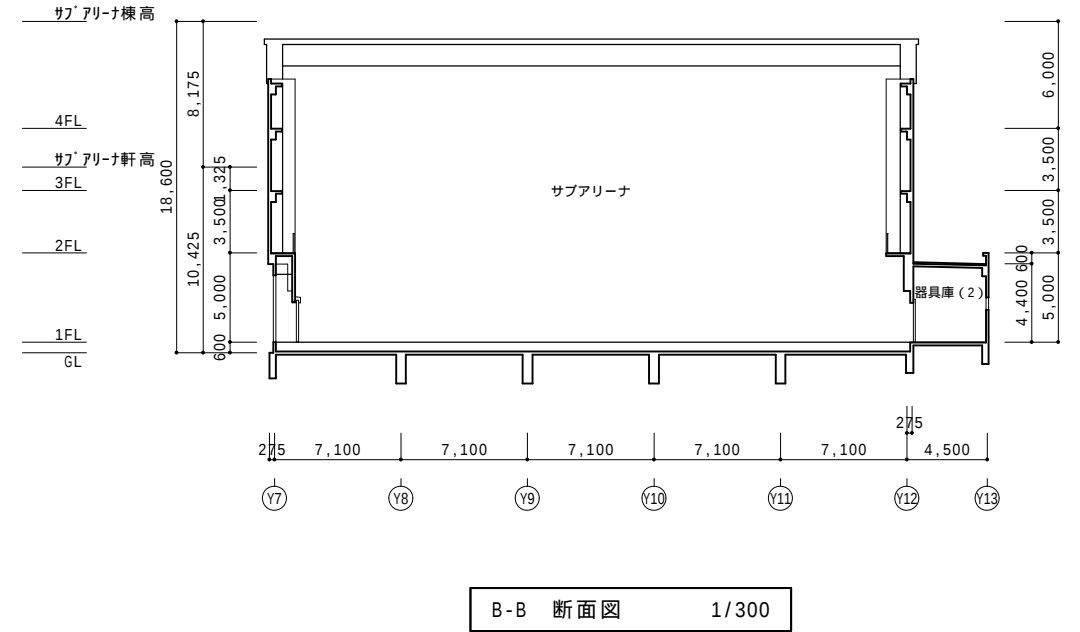
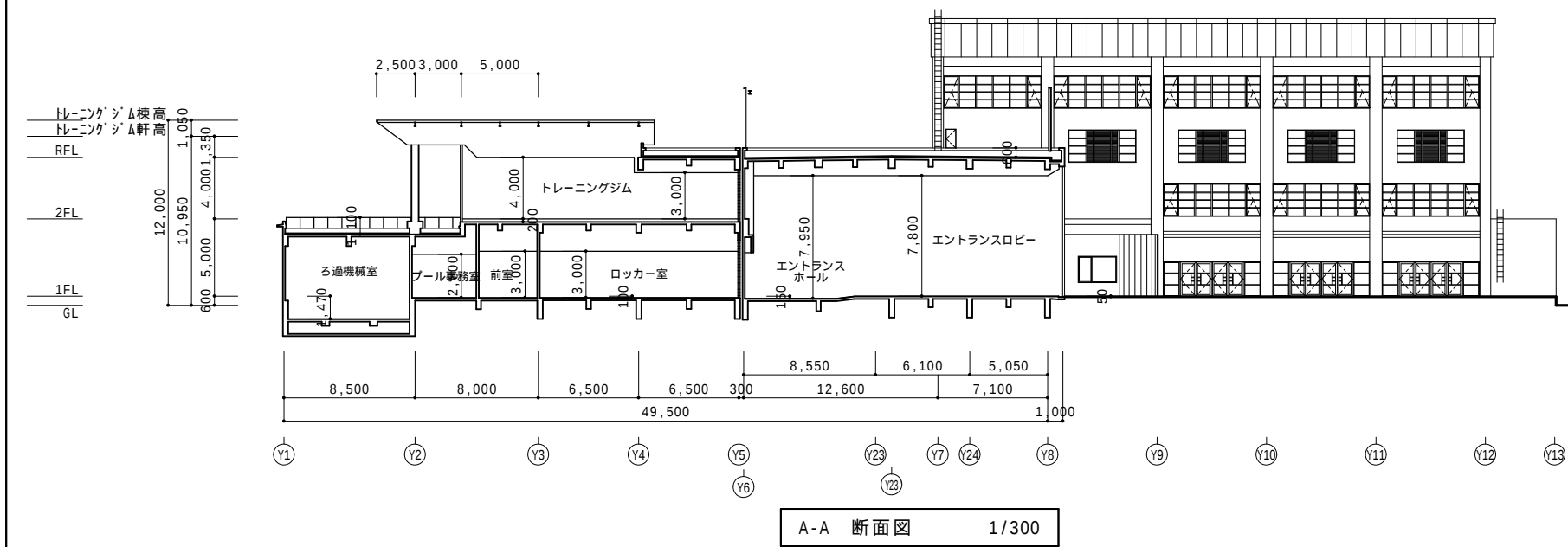
株式会社 コム・キューブ 一級建築士事務所			施設名	西宇治公園		図 名	1 階平面図		図面
一級建築士 第311729号 内田 陽介 R7 年 2 月 28 日			工事名	西宇治公園体育館空調設備改修工事		縮 尺	1/300		No. A-05



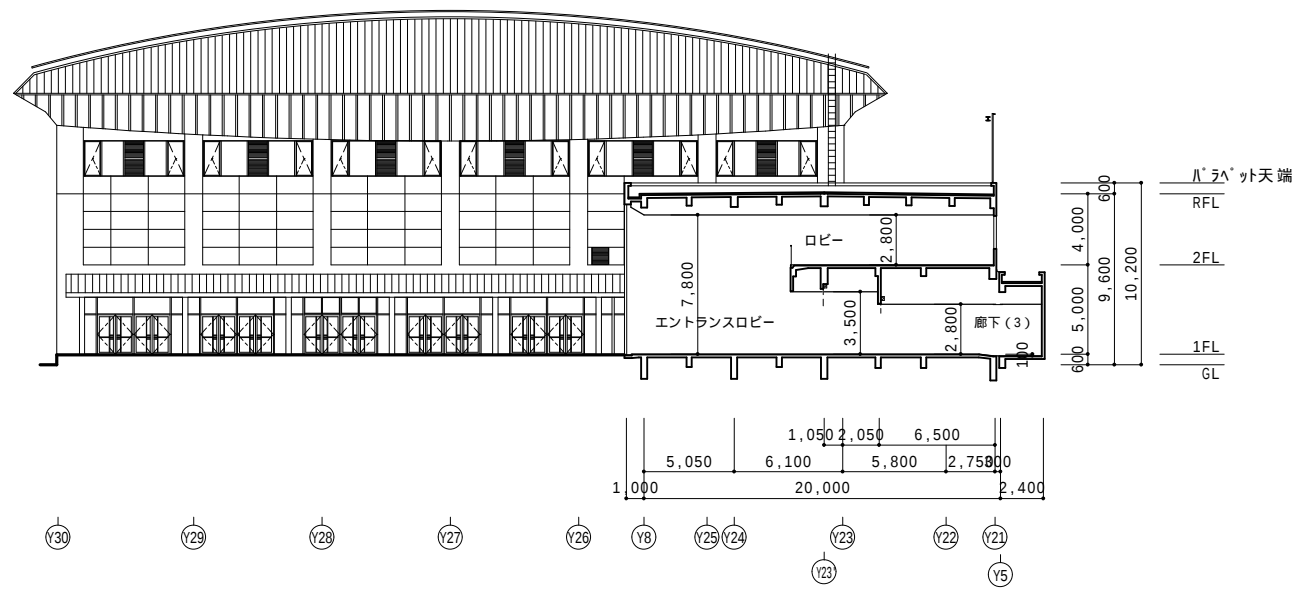
株式会社 コム・キューブ 一級建築士事務所			施設名	西宇治公園	図 名	2 階平面図 (参考図)	図面
一級建築士 第311729号 内田 陽介 R7 年 2 月 28 日			工事名	西宇治公園体育館空調設備改修工事	縮 尺	1/300	No . A-06



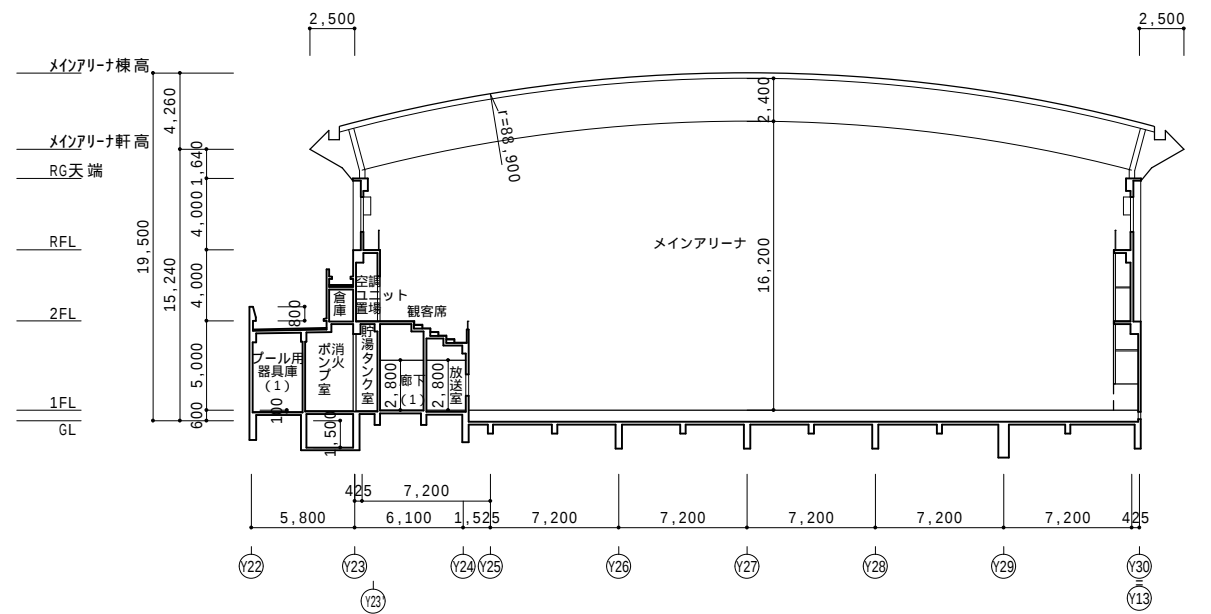
			株式会社 コム・キューブ 一級建築士事務所 一級建築士 第311729号 内田 陽介 R7 年 2 月 28 日	施設名	西宇治公園	図 名	3 階・R 階平面図（参考図）	図面 No. A-07
				工事名	西宇治公園体育館空調設備改修工事	縮 尺	1/300	



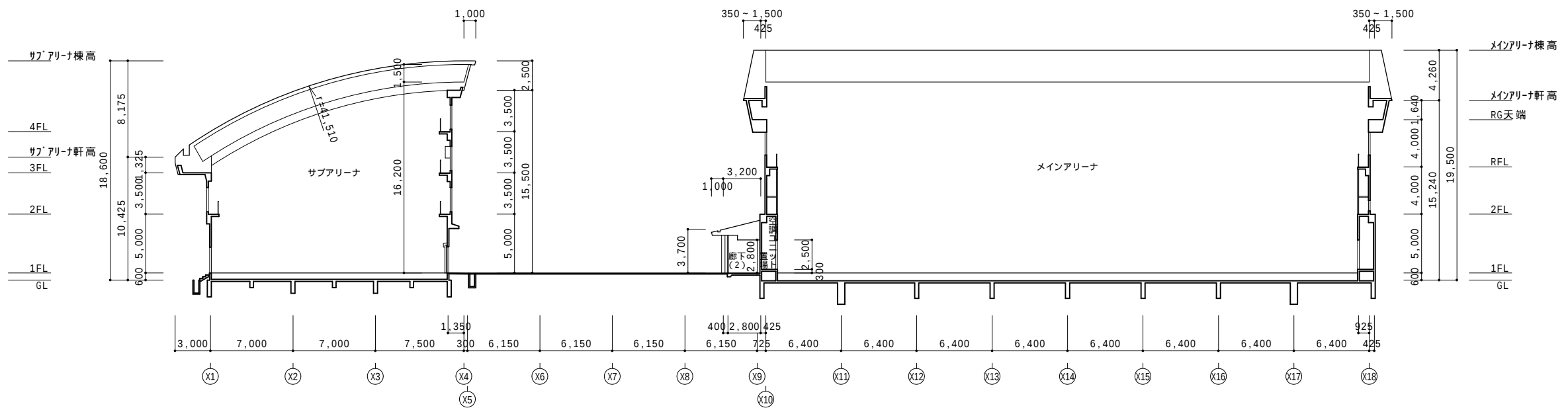
株式会社 コム・キューブ 一級建築士事務所			施設名	西宇治公園		図 名	断面図 1 (参考図)		図面
一級建築士 第311729号 内田 陽介 R7 年 2 月 28 日			工事名	西宇治公園体育館空調設備改修工事		縮 尺	1/300		No . A-08



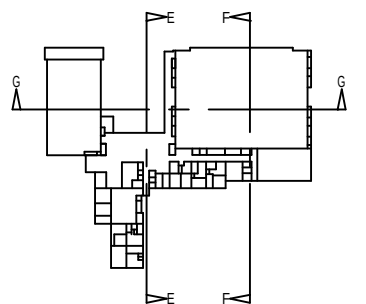
E-E 断面図 1/300

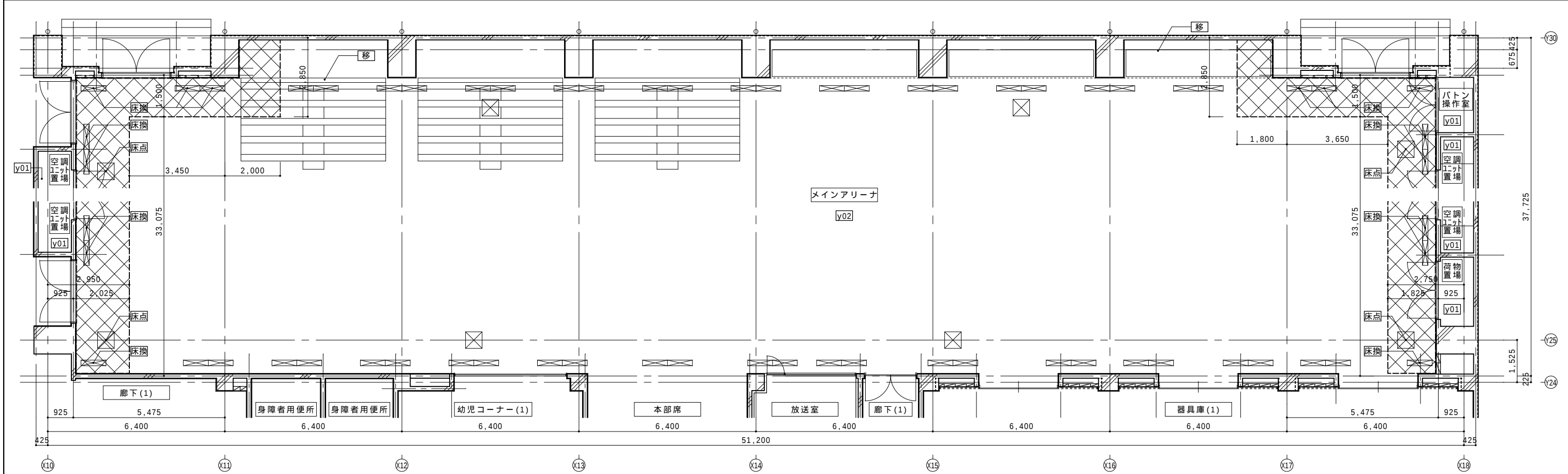


F-F 断面図 1/300



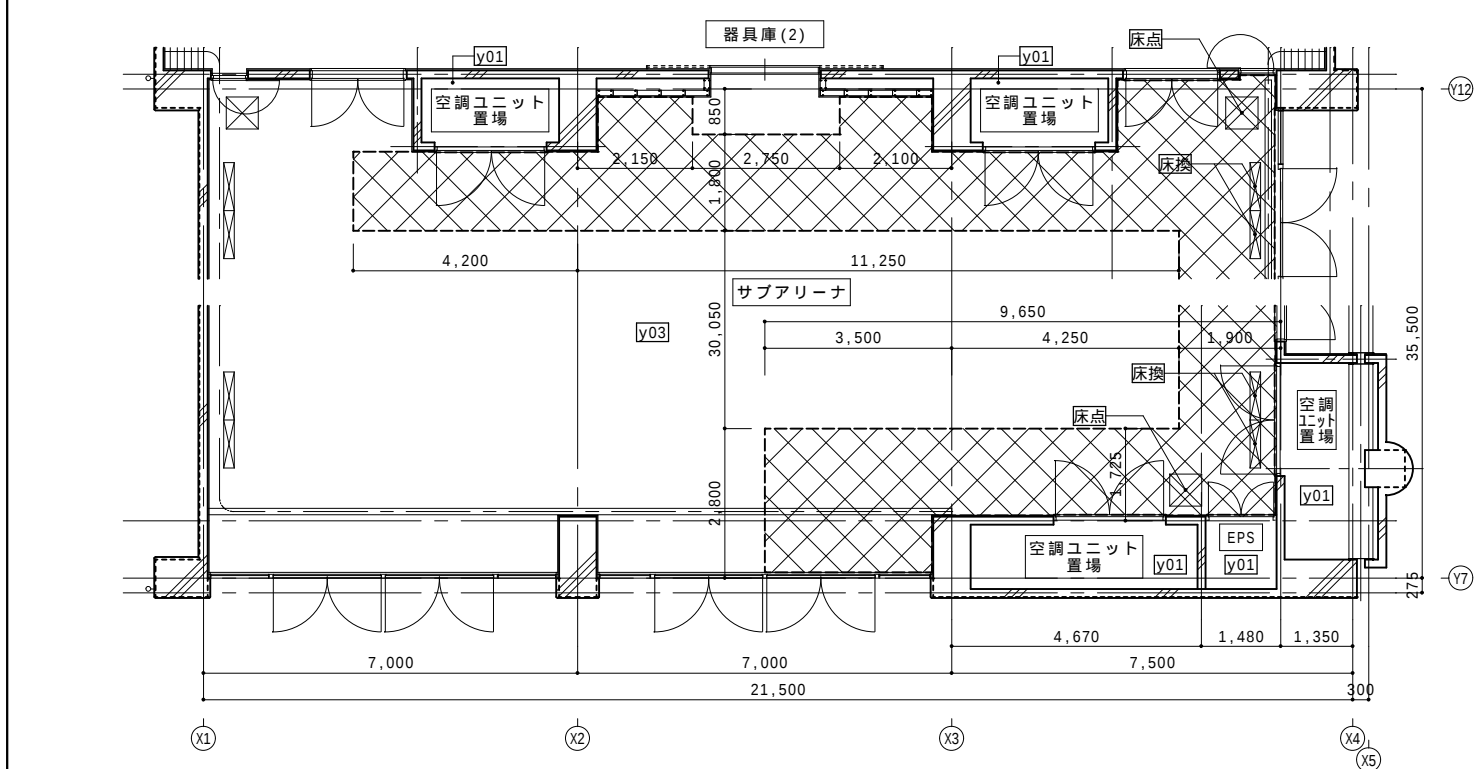
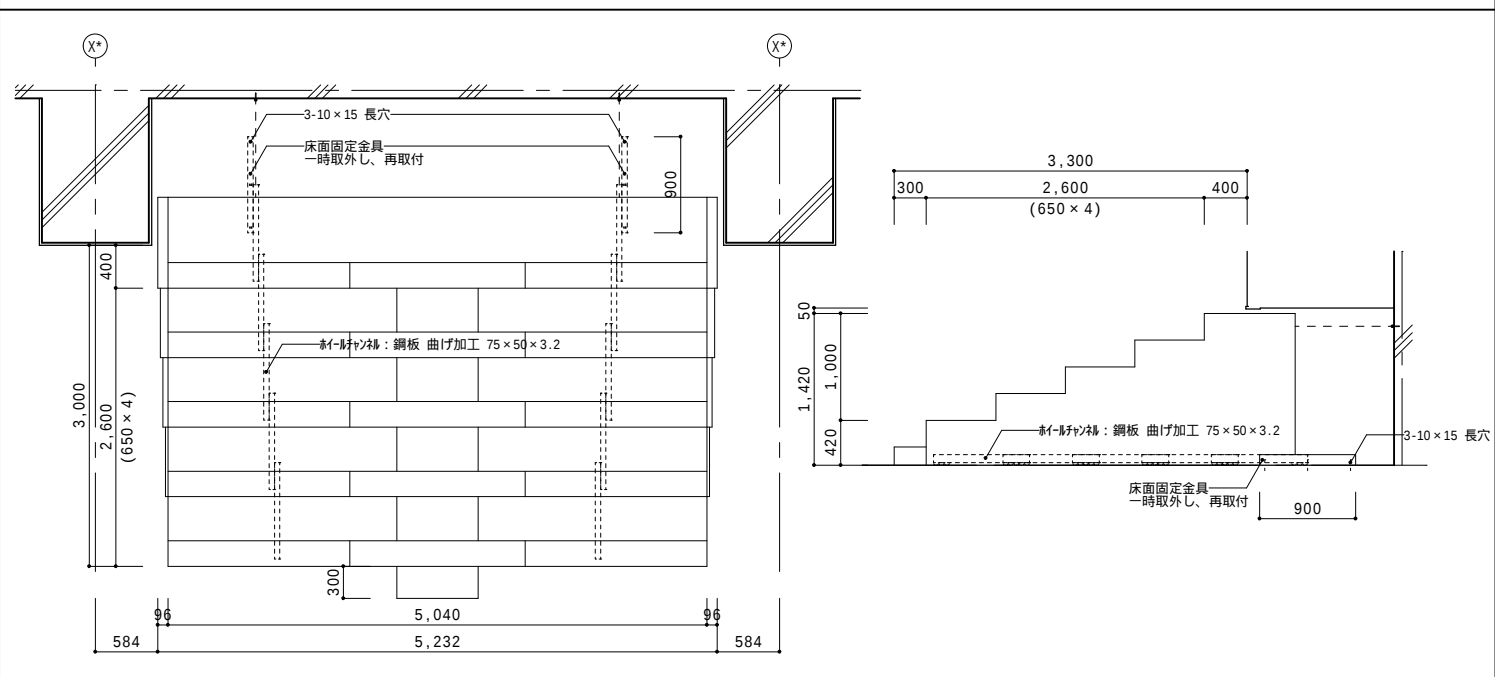
G-G 断面図 1/300





メインアリーナ 平面詳細図 1/100

移動観客席（参考図） 1/50



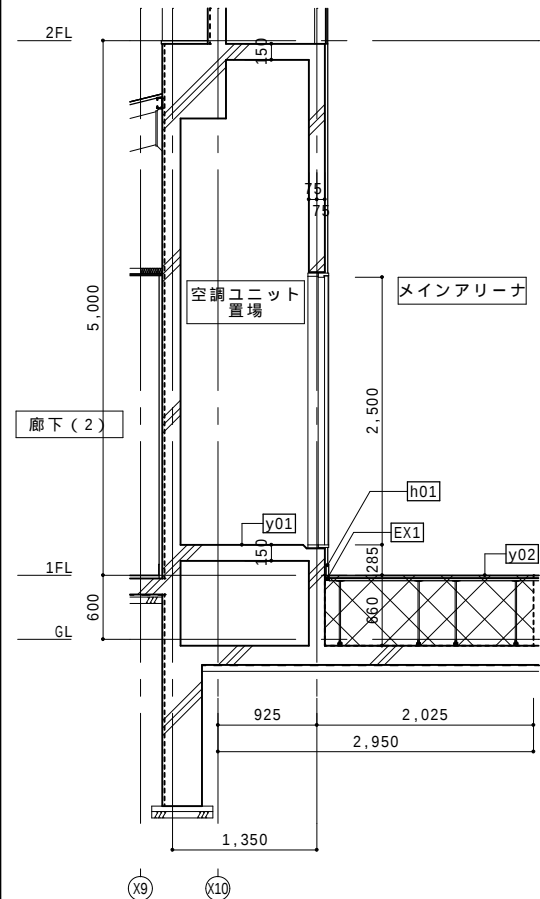
サブアリーナ 平面詳細図 1/100



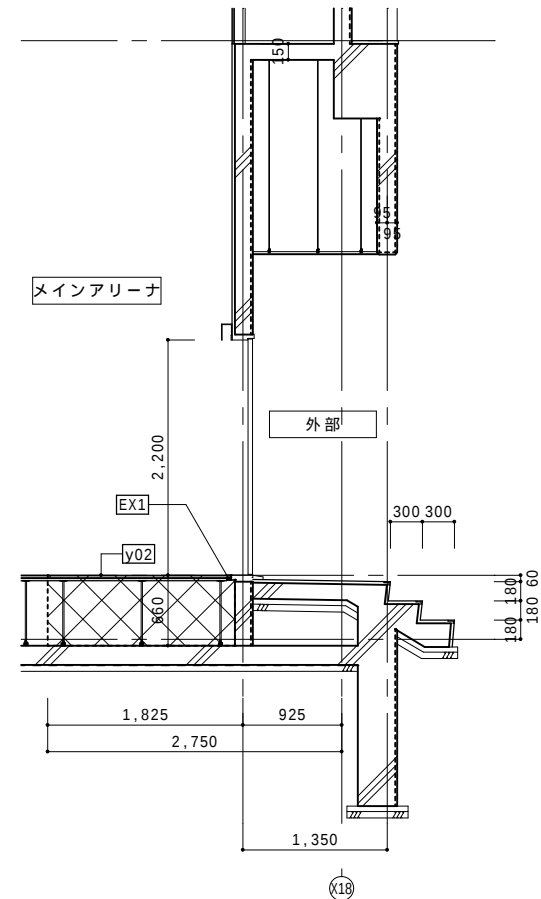
仕上・下地撤去新設範囲を示す

床撤去範囲については、シートA' 裃の繋ぎ目から撤去すること

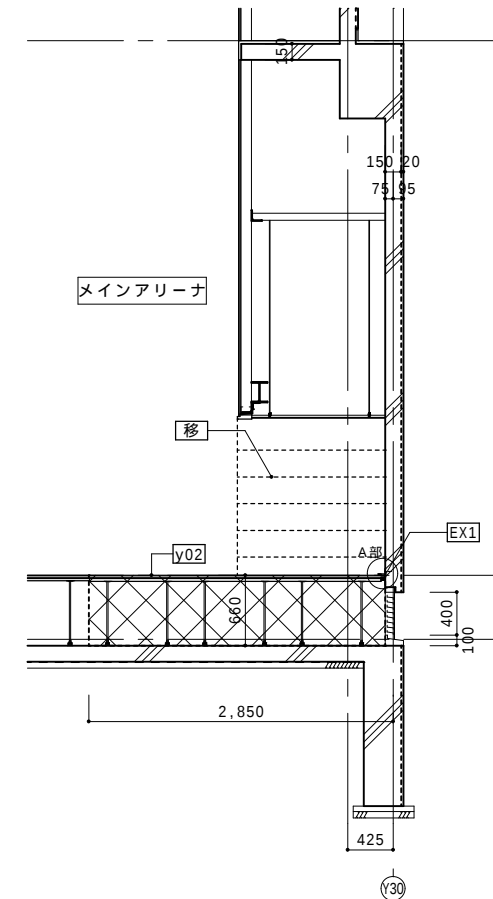
凡例		•：下地共撤去新設、○：仕上げのみ撤去新設 ：一時取外し、再取付	区分
床	[y01]	コンクリート金ゴテ押え	
	[y02]	加「ザラカ-リツ」特殊貼り t=18のうえ、タ「リカ」3回塗	●
	[y03]	下地：鋼製床下地のうえ、耐水タ「合板」 t=12	
		ス「-ツ」長尺弾性床材 t=6.2	●
		下地：鋼製床下地のうえ、タ「合板」 t=15	
その他	[移]	移動観客席	
	[床点]	床下点検口	○
	[床換]	床下換気口	○



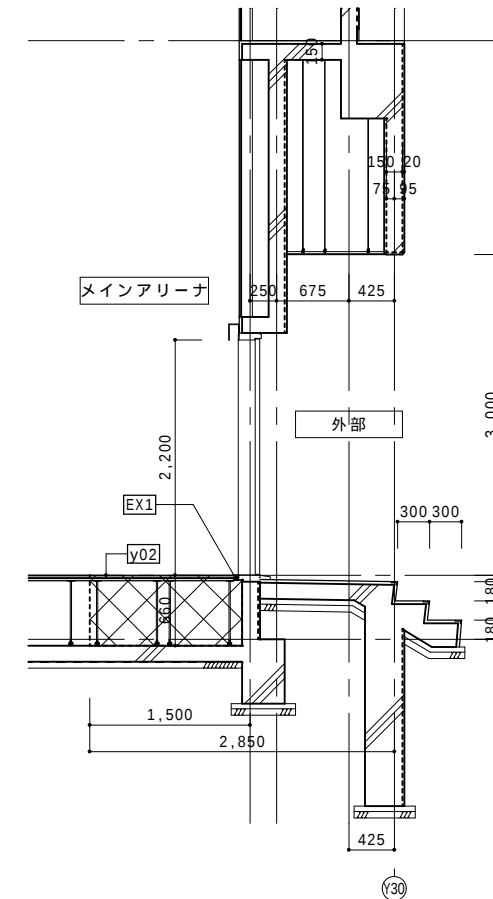
メインアリーナ A-A断面詳細図 1/50



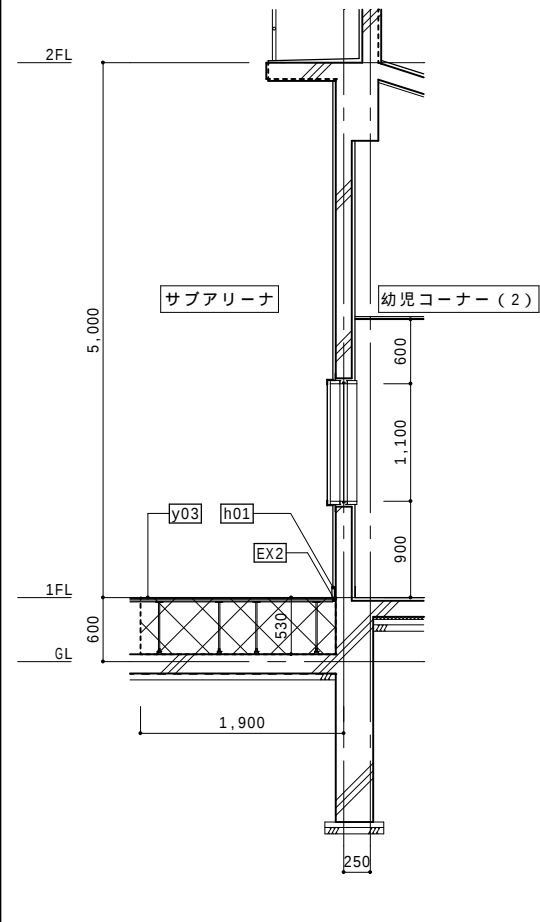
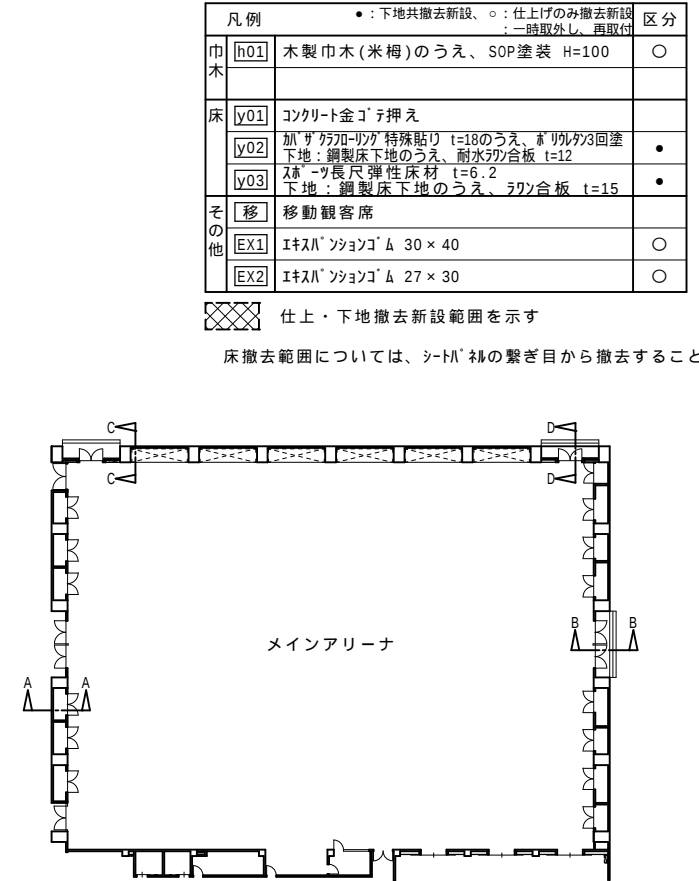
メインアリーナ B-B断面詳細図 1/50



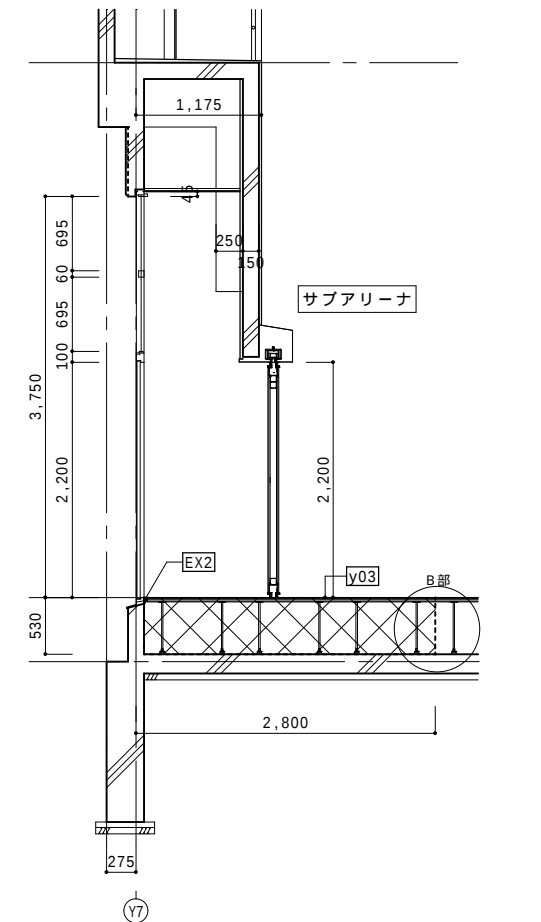
メインアリーナ C-C断面詳細図 1/50



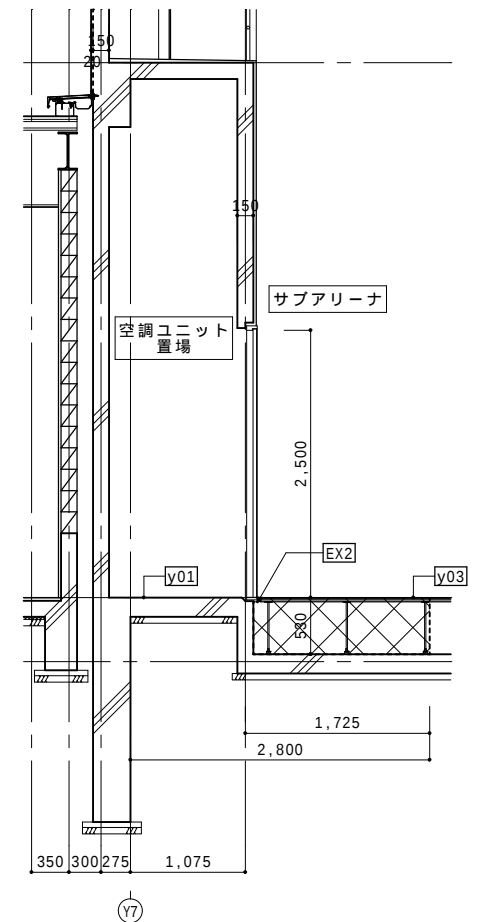
メインアリーナ D-D断面詳細図 1/50



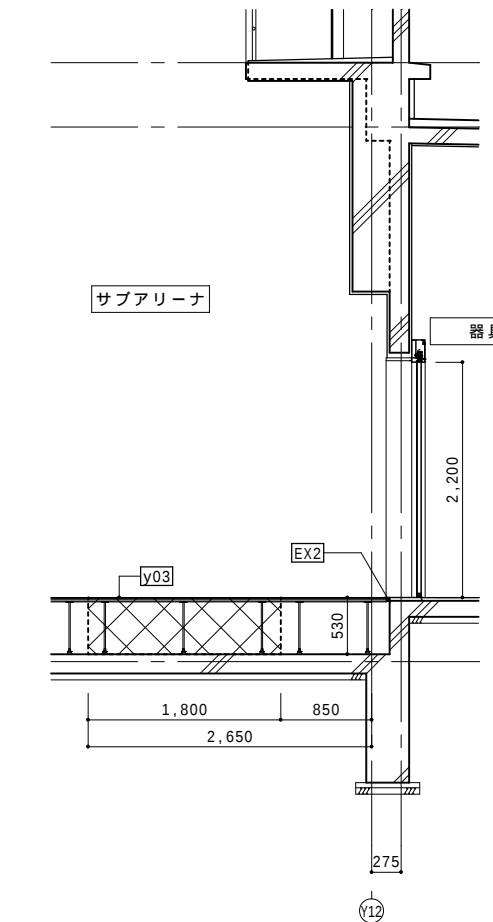
サブアリーナ A-A断面詳細図 1/50



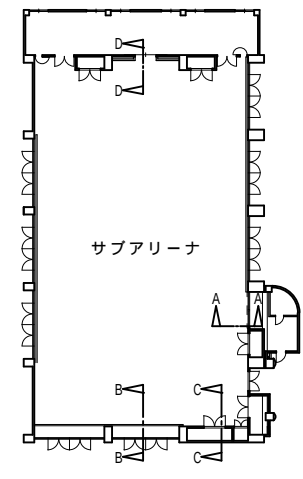
サブアリーナ B-B断面詳細図 1/50



サブアリーナ C-C断面詳細図 1/50



サブアリーナ D-D断面詳細図 1/50

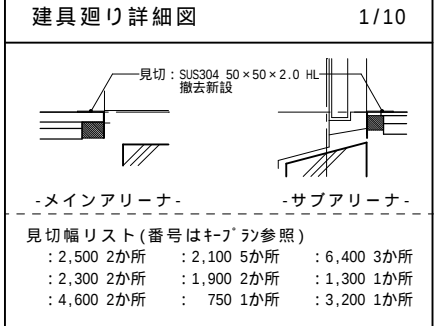
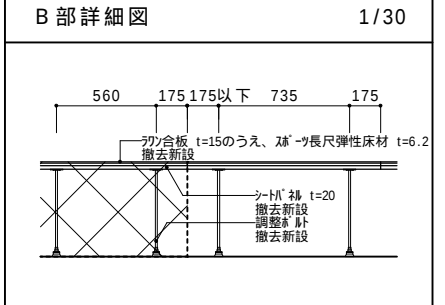
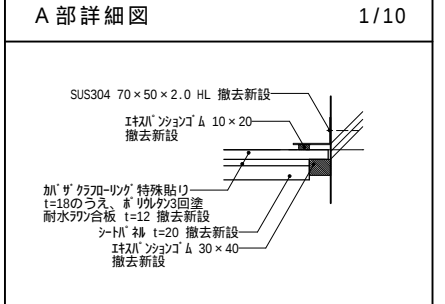


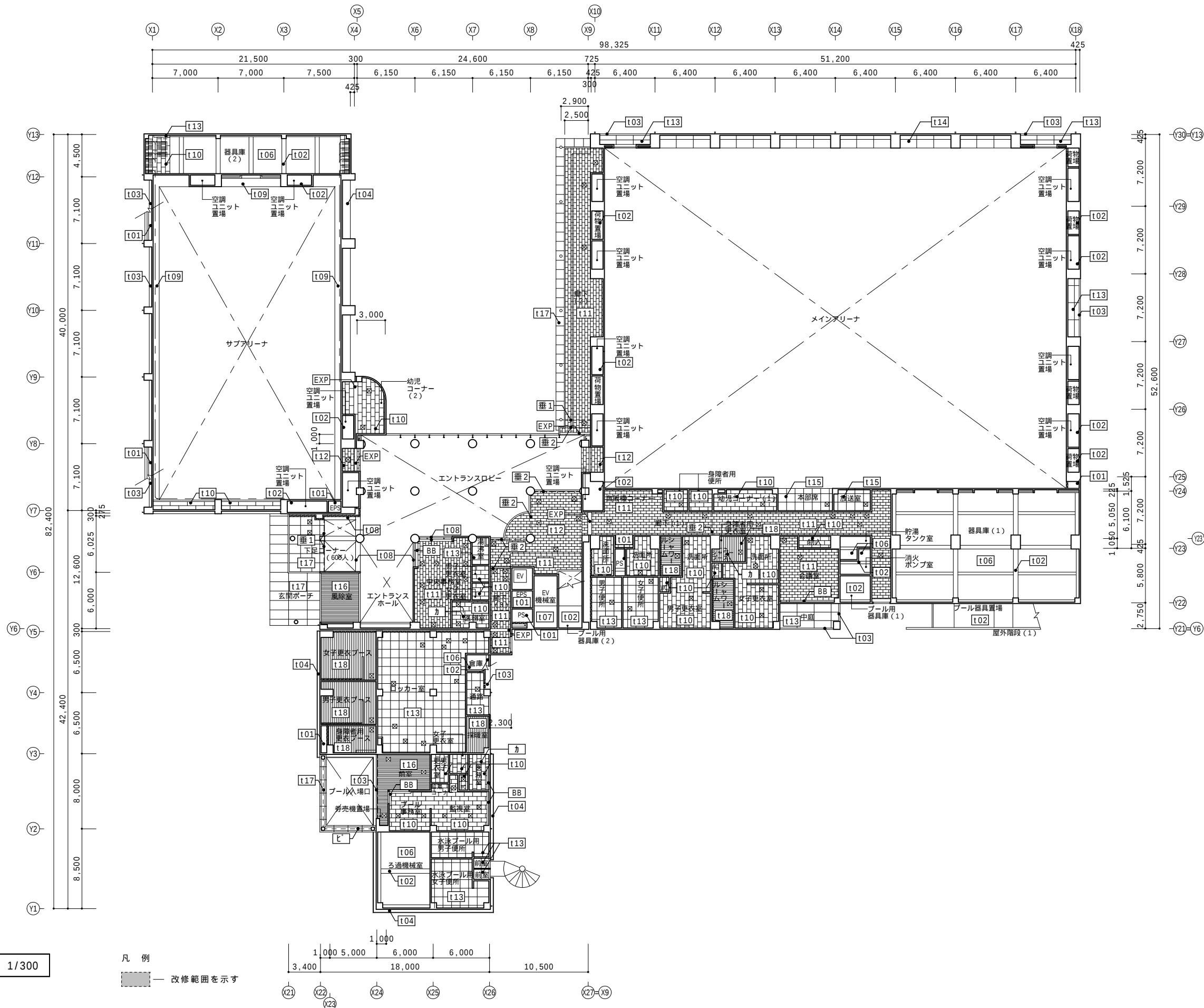
キープラン

凡例			区分
巾木	h01	木製巾木(米梅)のうえ、SOP塗装 H=100	○
床	y01	コンクリート金ゴテ押え	
	y02	加サケラフローリング 特殊貼り t=18のうえ、タリケラ3回塗	●
	y03	下地：鋼製床下地のうえ、耐水タタ合板 t=12	●
その他	移	移動観客席	
	EX1	エキスパンションゴ 30×40	○
	EX2	エキスパンションゴ 27×30	○

仕上・下地撤去新設範囲を示す
床撤去範囲については、シート材の繋ぎ目から撤去すること

キープラン





凡例		区分
天井・梁型	t01	コンクリート打放しのみ
	t02	コンクリート打放し補修
	t03	複層仕上塗材 下地：コンクリート打放し
	t04	樹脂コーティング 下地：コンクリート打放し
	t06	AEP塗装 下地：コンクリート打放しのうえ木毛板打込み
	t07	ガラス繊維保温板 t=25(40K)のうえ、 下地：コンクリート打放し
	t08	複層仕上塗材 下地：モルタルコシ
	t09	AEP塗装 下地：モルタルコシ
	t10	GB-NC9.5(化粧) 下地：LGS
	t11	GB-NC9.5のうえ、DR9 下地：LGS
	t12	GB-NC9.5のうえ、DR12(立体模様) 下地：LGS
	t13	FK6のうえ、VE塗装 下地：LGS
	t14	FK6のうえ、AEP塗装 下地：LGS
	t15	有孔FK8のうえ、AEP塗装 下地：LGS(GW t=50(24K))
	t16	アルミサッシ 下地：LGS
	t17	アルミサッシ t=2.0 曲げ加工 下地：LGS
	t18	浴室天井 下地：LGS
その他	BB	ブラインドボックス
	カ	天井吊りカーテンレール
	ビ	アルミ製ビッチャーレール
	垂1	防煙垂れ壁(固定式)
	垂2	防煙垂れ壁(可動式)
	EXP	SUS製EXP.Jカーテン
	☒	天井点検口(アルミ製 450角)

1 階天井伏図 1/300

凡例
— 改修範囲を示す



株式会社 コム・キューブ 一級建築士事務所
一級建築士 第311729号 内田 陽介 R7年 2月 28日

施設名

西宇治公園

図名

1 階天井伏図

図面

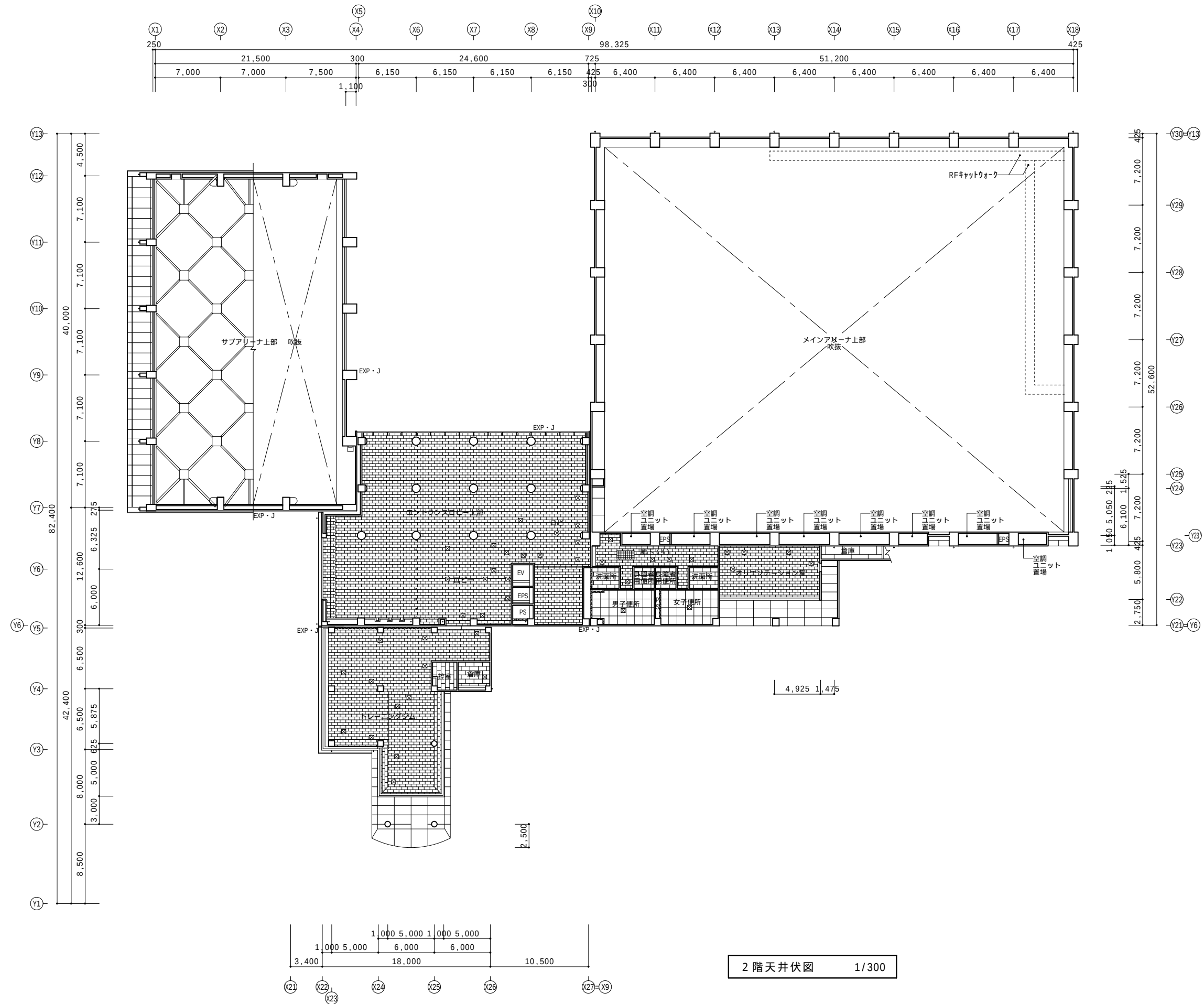
工事名

西宇治公園体育館空調設備改修工事

縮尺

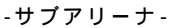
1/300・1/100

No. A-12

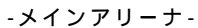


2 階天井図 1/300

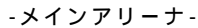
株式会社 コム・キューブ 一級建築士事務所			施設名	西宇治公園	図 名	2 階天井図 (参考図)	図面
一級建築士 第311729号 内田 陽介 R7 年 2 月 28 日			工事名	西宇治公園体育館空調設備改修工事	縮 尺	1/300	No . A-13



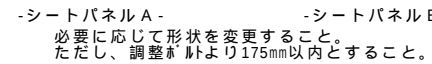
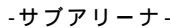
特記なき限りシート⁸ 祢はAとする



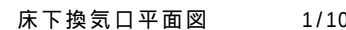
鋼製床下地詳細図



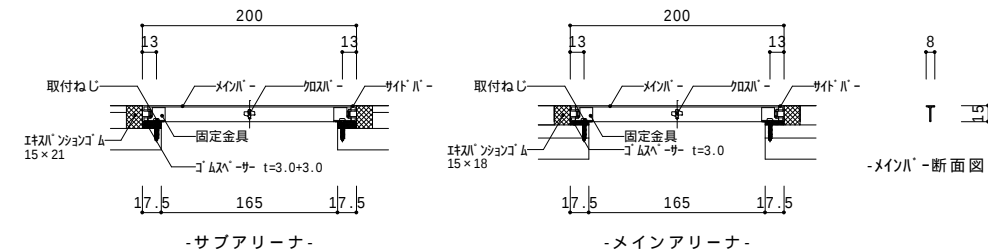
床伏図(参考図)



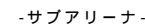
シートパネル詳細図 1/30



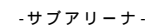
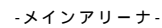
換気口			
規格寸法 (単位:mm)			
溝幅φ3	固定R/L	ビッパ	固定金具(個)
200	900	14	6
換気口部材仕様			
部材名	材料	備考	
メインバ -	SUS304		
クロバ -	SUS304		
サバ -	SUS304		
固定金具	SUS304		
バ - サ -	天然ゴム	t3×20×30	
取付ねじ	銅	φ6×t3×20	



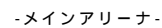
床下換気口断面図 1/5



床下点検口平面図 1/10

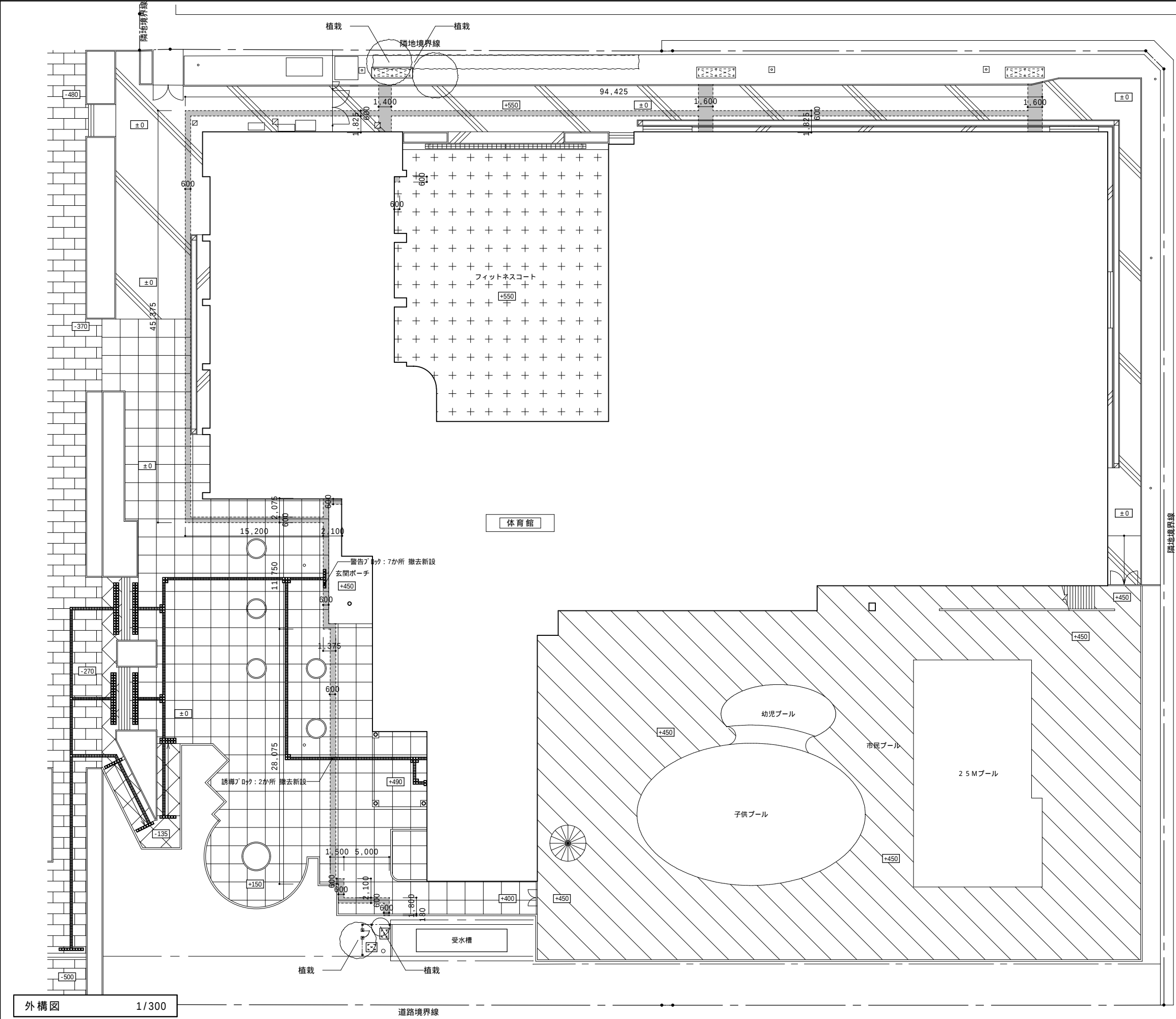


床下点検口断面図 1/10



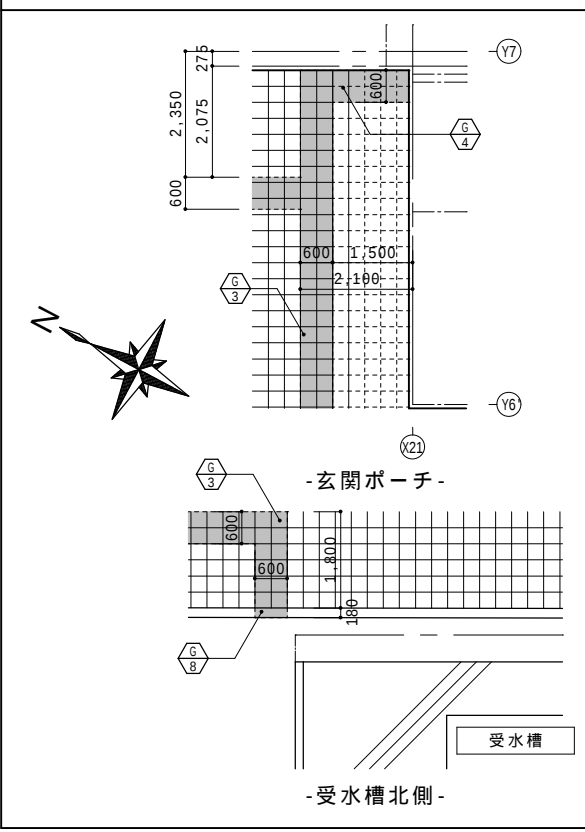
点検口		
外枠	7A12Ni4Al金押出成形材 A6063S-T5	陽極酸化塗装 複合被膜
内枠	7A12Ni4Al金押出成形材 A6063S-T5	陽極酸化塗装 複合被膜
底板	溶融亜鉛めっき鋼板 SGHC-227	
取手	7A12Ni4Al金押出成形材 A6063S-T5	陽極酸化塗装 複合被膜
ハッチ	クロメレングム	
ハッチサ	天然ゴム	
取付ねじ	鋼	電気亜鉛めっき

点検口		
外枠	汎ミハ合金押出成形材 A6063S-T5	陽極酸化塗装 複合被膜
内枠	汎ミハ合金押出成形材 A6063S-T5	陽極酸化塗装 複合被膜
底板	溶融亜鉛めっき鋼板 SGHC-Z27	
取手	冷間仕上アルミ鋼棒 SUS304	
化粧枠	汎ミハ合金押出成形材 A6063S-T5	陽極酸化塗装 複合被膜
ハッパン	天然ゴム	
スパー	天然ゴム	
取付ねじ	軟鋼線材 SWRM10	電気亜鉛めっき



外構図 1/300

外構詳細図 1/100



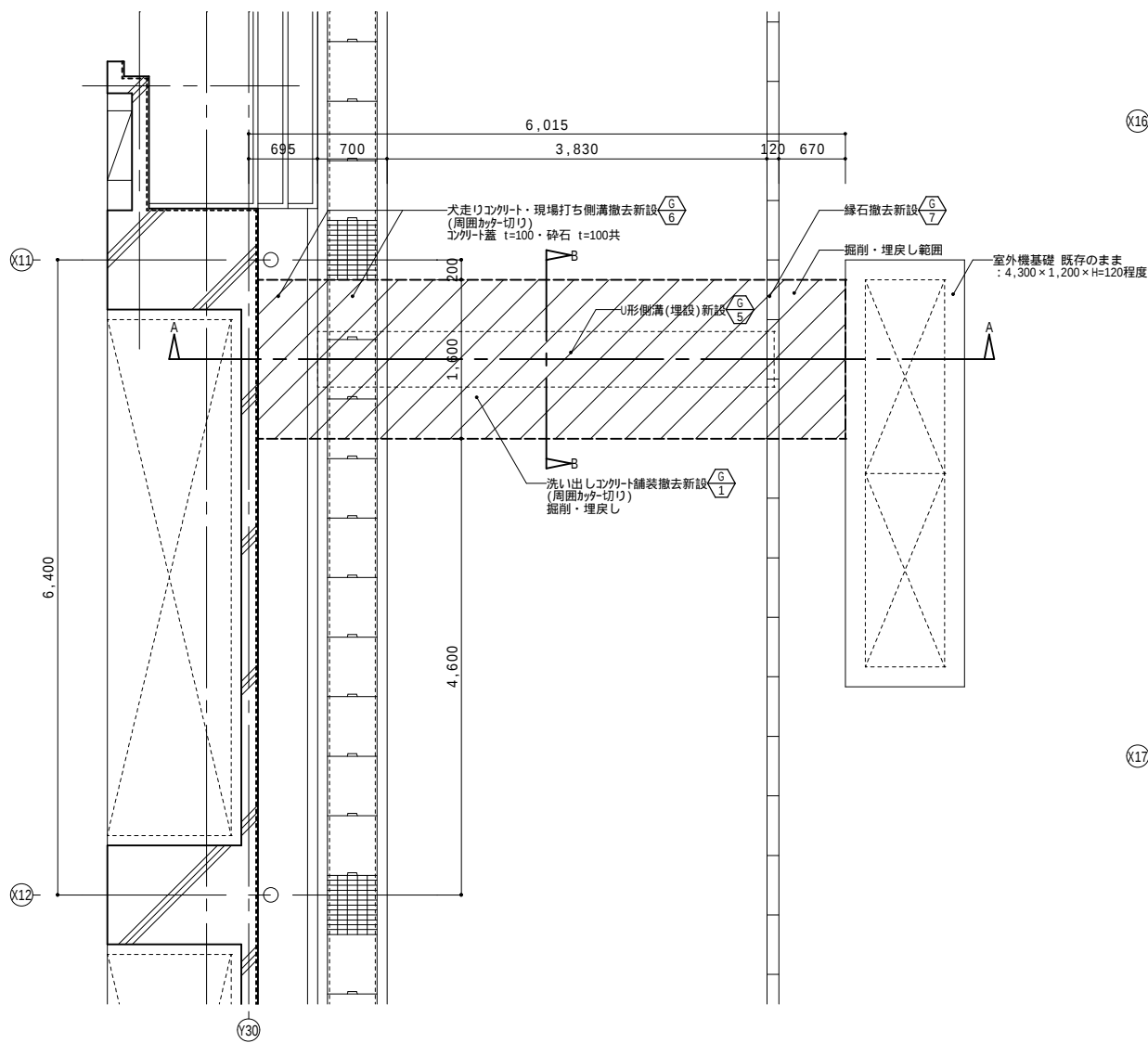
植栽リスト					
番号	樹種	H(m)	C(m)	W(m)	備考
	クロガネモチ	5.0	0.5	2.0	伐採・伐根 2本
	低木	1.5			伐採・伐根 約7㎡
	クロガネモチ	5.0	0.5	2.0	伐採・伐根
	高木	3.0	0.6	4.0	剪定

剪定・伐採・伐根は最小限とし、上記以外に伐採等が発生する場合は、監督職員と協議のうえ、決定すること。

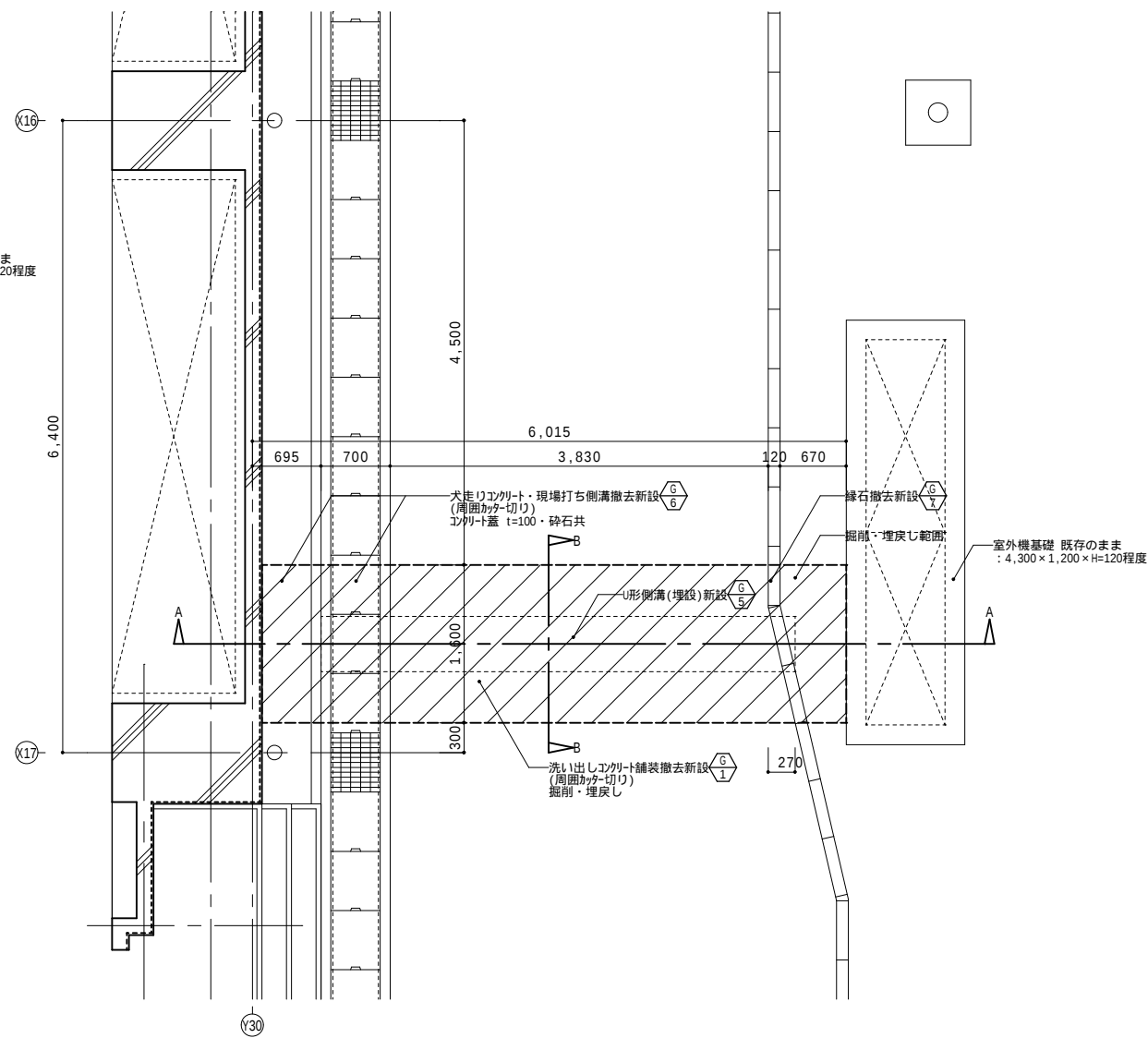
凡 例	
	撤去新設範囲を示す
	数値は下記からの高低差を示す。 建物北側敷地入口=±0
	洗い出しコンクリート舗装 範囲を示す。 (復旧はコンクリート舗装とする。)
	コンクリート舗装 範囲を示す。
	人工芝張り 範囲を示す。
	インターロッキングブロック(300角)舗装 範囲を示す。
	御影石・磁器質タイル貼り仕上 範囲を示す。
	タイル貼り(類300角)仕上 範囲を示す
	インターロッキングブロック(100×200)舗装 範囲を示す。
	ビニル床シート貼り 範囲を示す。
	点字ブロックを示す。
コンクリート舗装(洗い出し含む)の撤去の際は、周囲カッター切とする。 インターロッキングブロック舗装の撤去は、目地位置にて行うこと。	

6 1 洗い出しコンクリート舗装 詳細図 1/10	6 2 人工芝張り 詳細図 1/10	6 3 インターロッキングブロック舗装 詳細図 1/10	6 4 御影石・磁器質タイル貼り 詳細図 1/10
特記なき限り撤去新設とする。 -現況- -改修- コンクリート強度：Fc18 スランブ：15cm ローラー転圧を示す。	下地等の仕様については現地を確認のうえ、決定すること。 撤去範囲については機械設備業者と調整のうえ、決定すること。 -現況- -改修- コンクリート強度：Fc18 スランブ：15cm ローラー転圧を示す。	特記なき限り撤去新設とする。 -現況- -改修- ローラー転圧を示す。	特記なき限り撤去新設とする。 -現況- -改修- コンクリート強度：Fc18 スランブ：15cm ローラー転圧を示す。

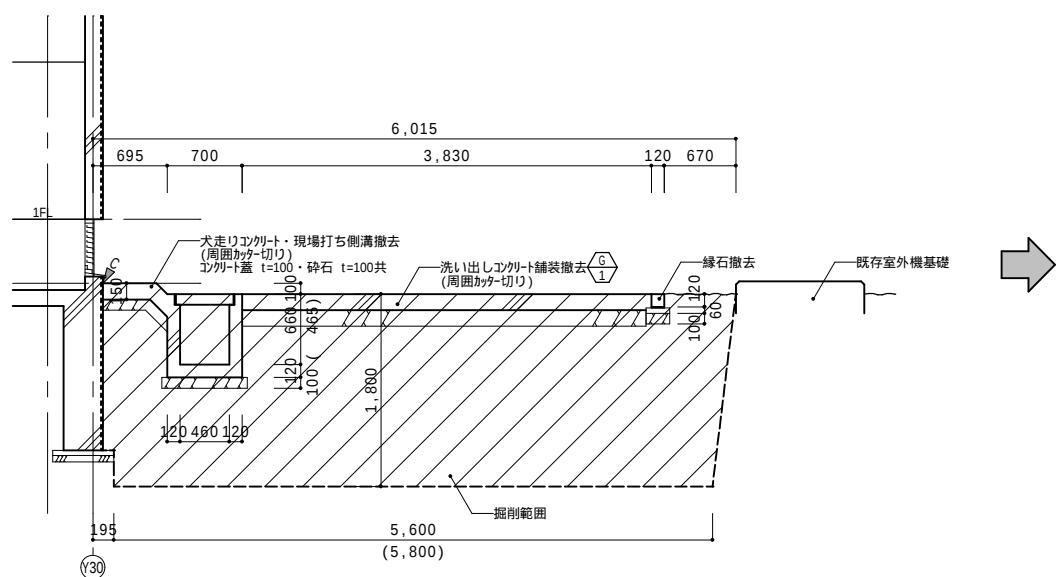
6 5 U形側溝 詳細図 1/20	6 6 現場打ち側溝 詳細図 1/20	6 7 縁石 詳細図 1 1/10	6 9 点状ブロック 詳細図 1/10
-端部-	工事時に再調査にて寸法を決定 コンクリート強度：Fc18 スランブ：15cm -現場打ち側溝-	特記なき限り撤去新設とする。 -縁石 詳細図 2- -縁石 詳細図 2-	特記なき限り撤去新設とする。 JIS T9251 -警告- -誘導-



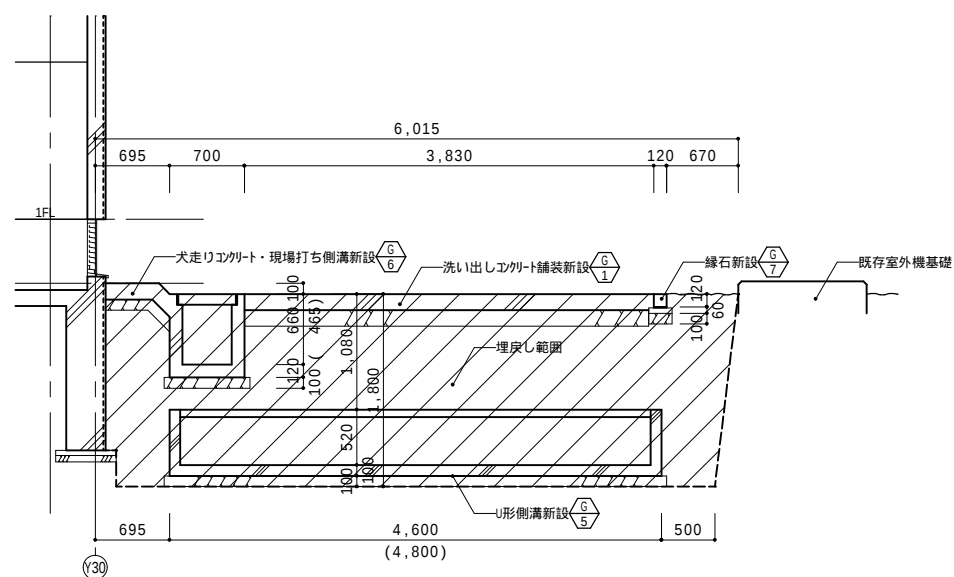
北側 平面詳細図 1/50



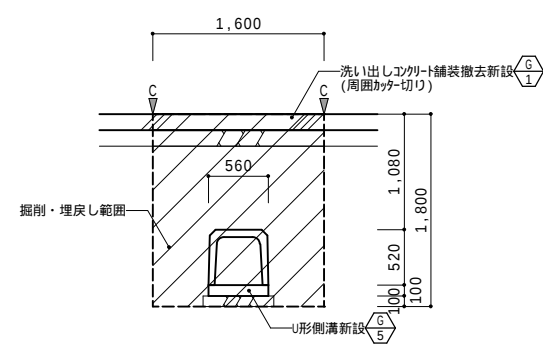
南側 平面詳細図 1/50



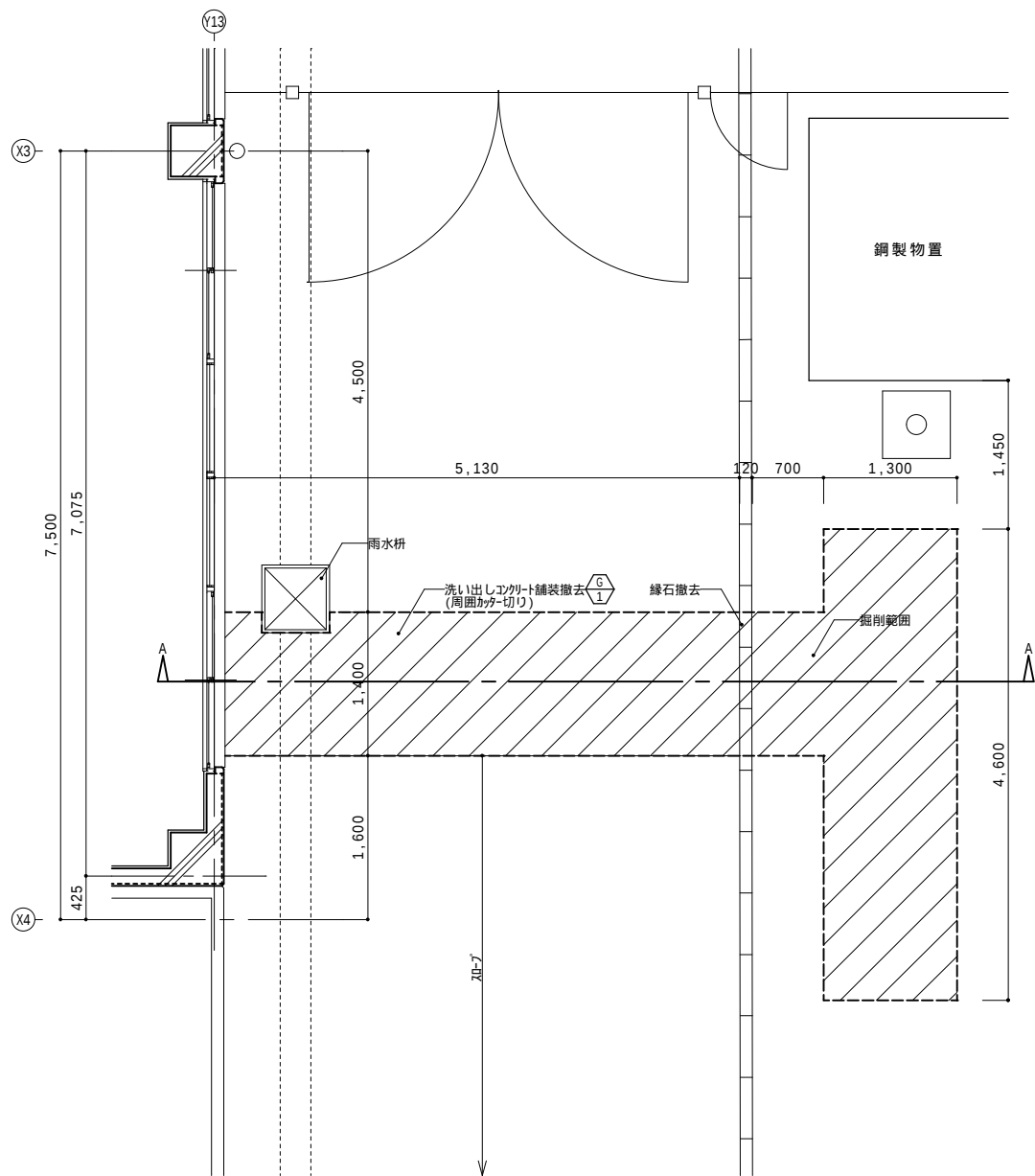
()は南側を示す。
現況 A-A断面詳細図 1/50



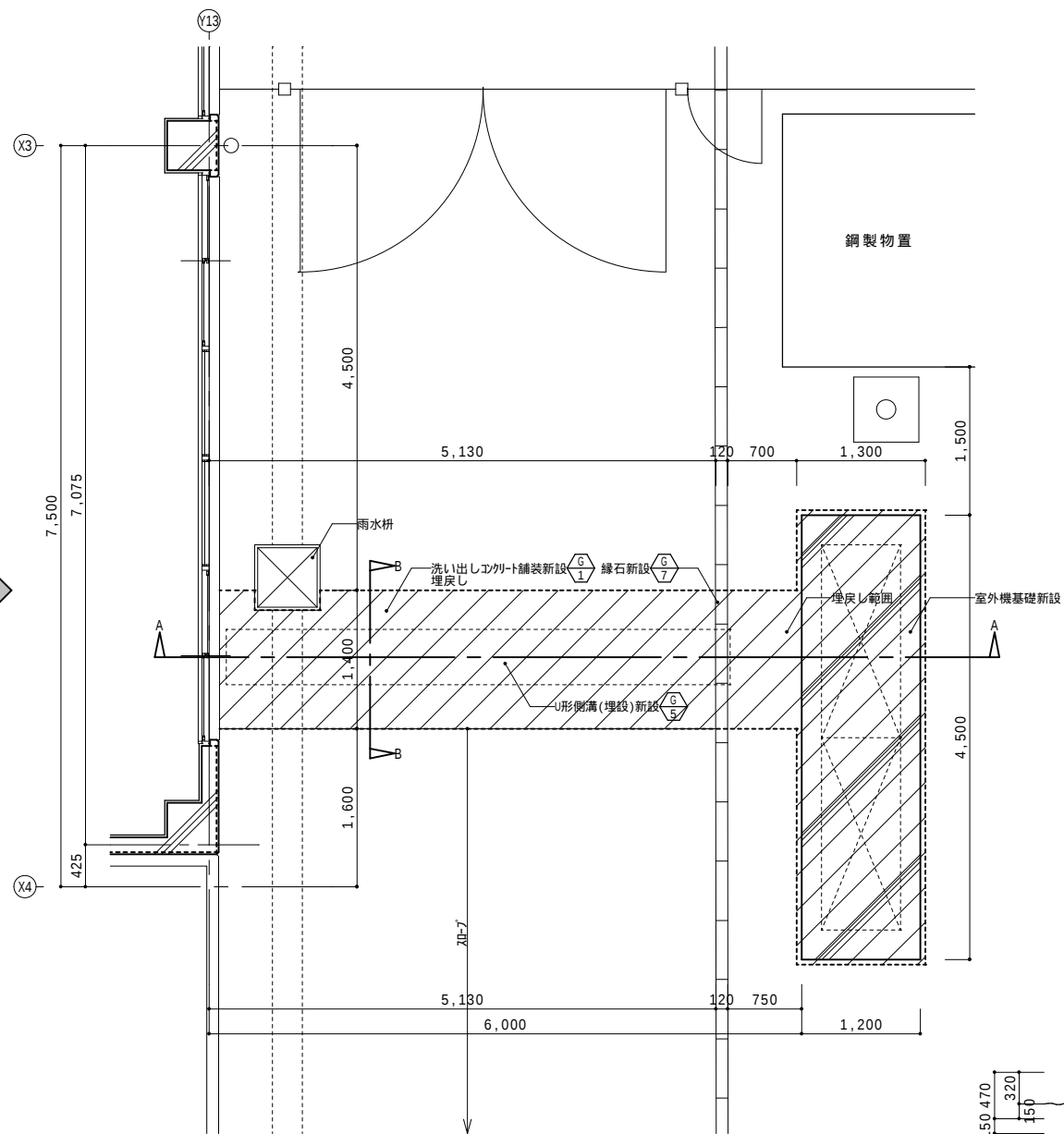
()は南側を示す。
改修 A-A断面詳細図 1/50



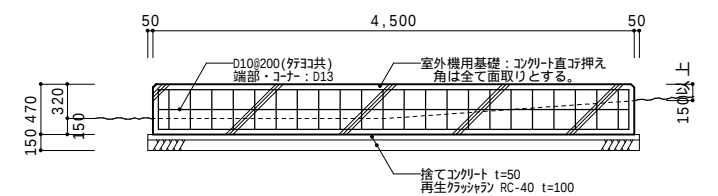
改修 B-B断面詳細図 1/50



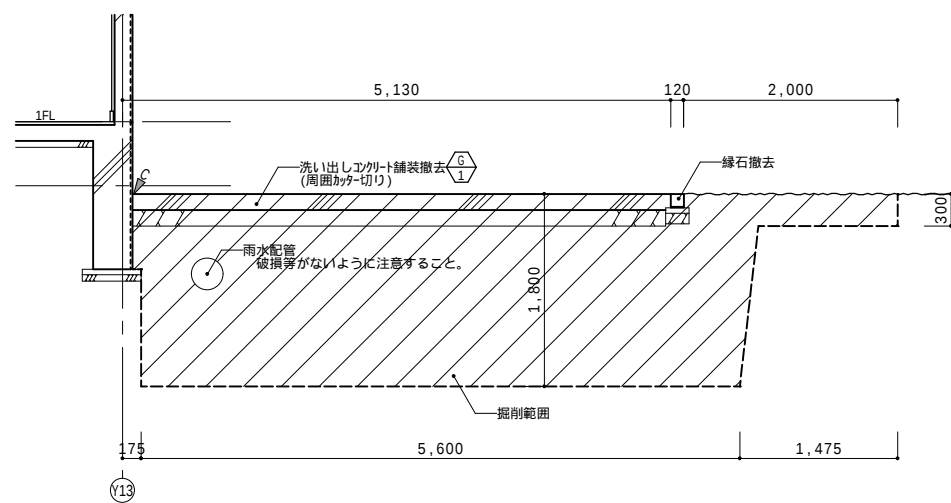
現況 平面詳細図 1/50



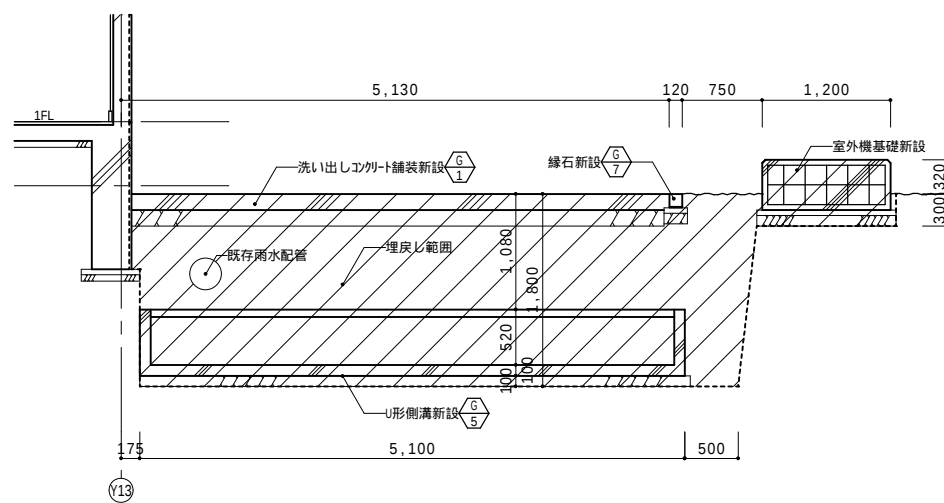
改修 平面詳細図 1/50



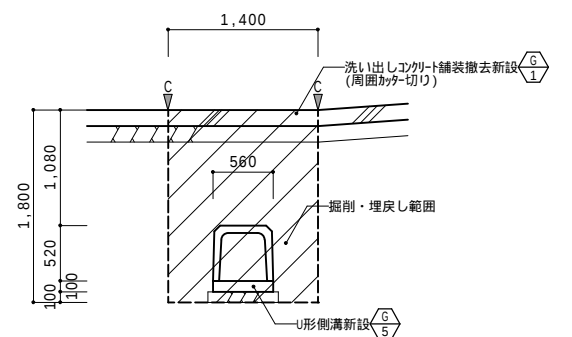
室外機基礎断面詳細図 1/50



現況 A-A断面詳細図 1/50

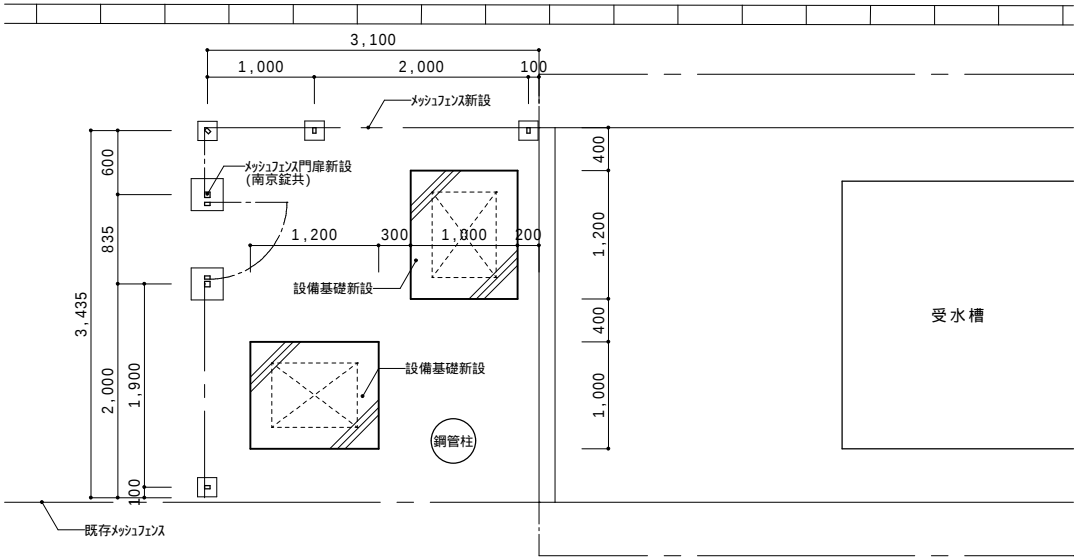


改修 A-A断面詳細図 1/50

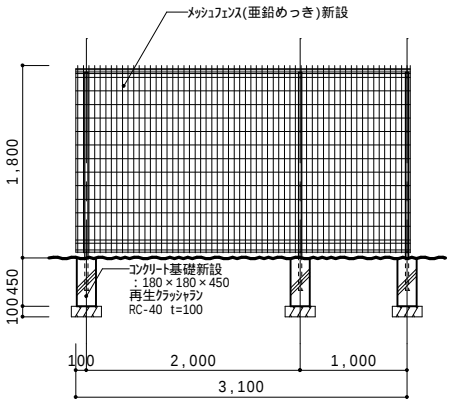


改修 B-B断面詳細図 1/50

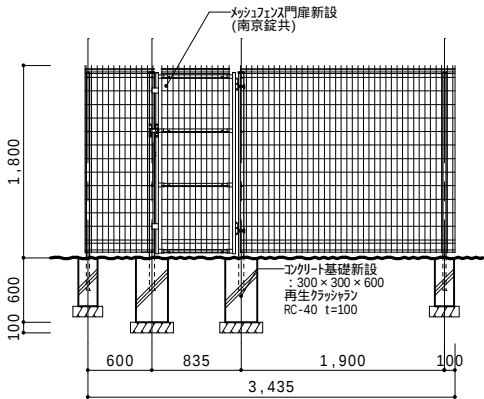
基礎・フェンス位置については、既存設備配管等の位置を確認のうえ、決定すること。



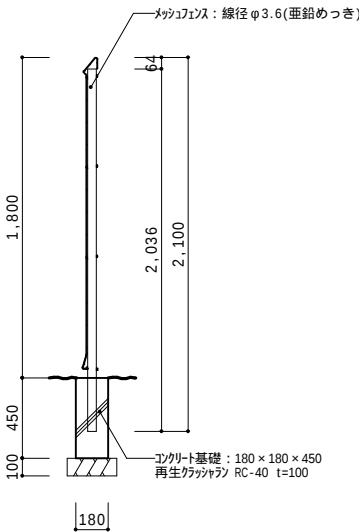
受水槽廻り平面図 1/50



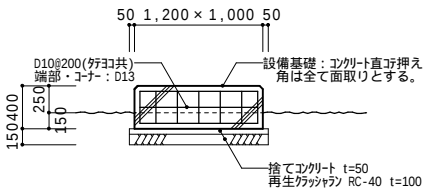
東立面図 1/50



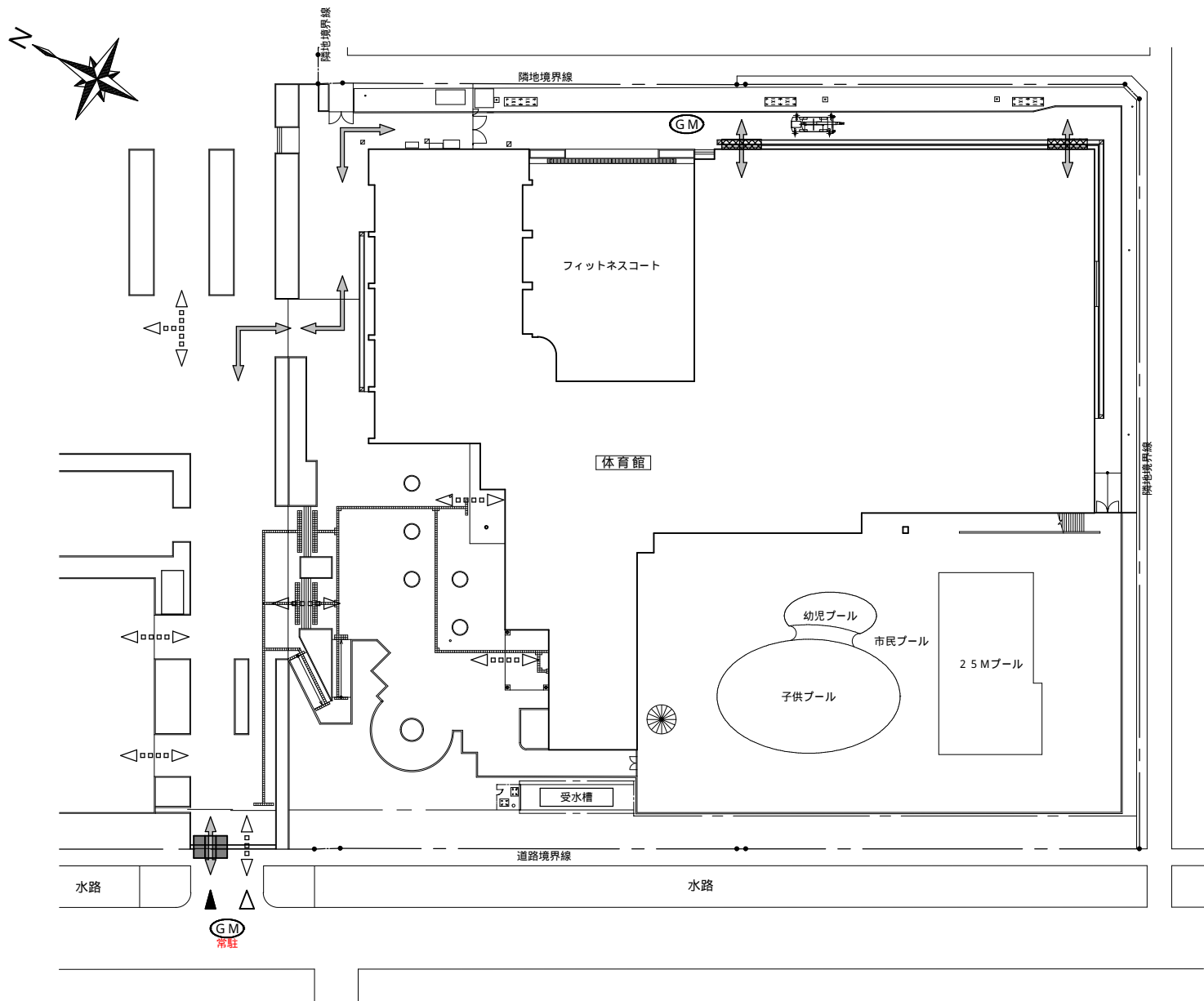
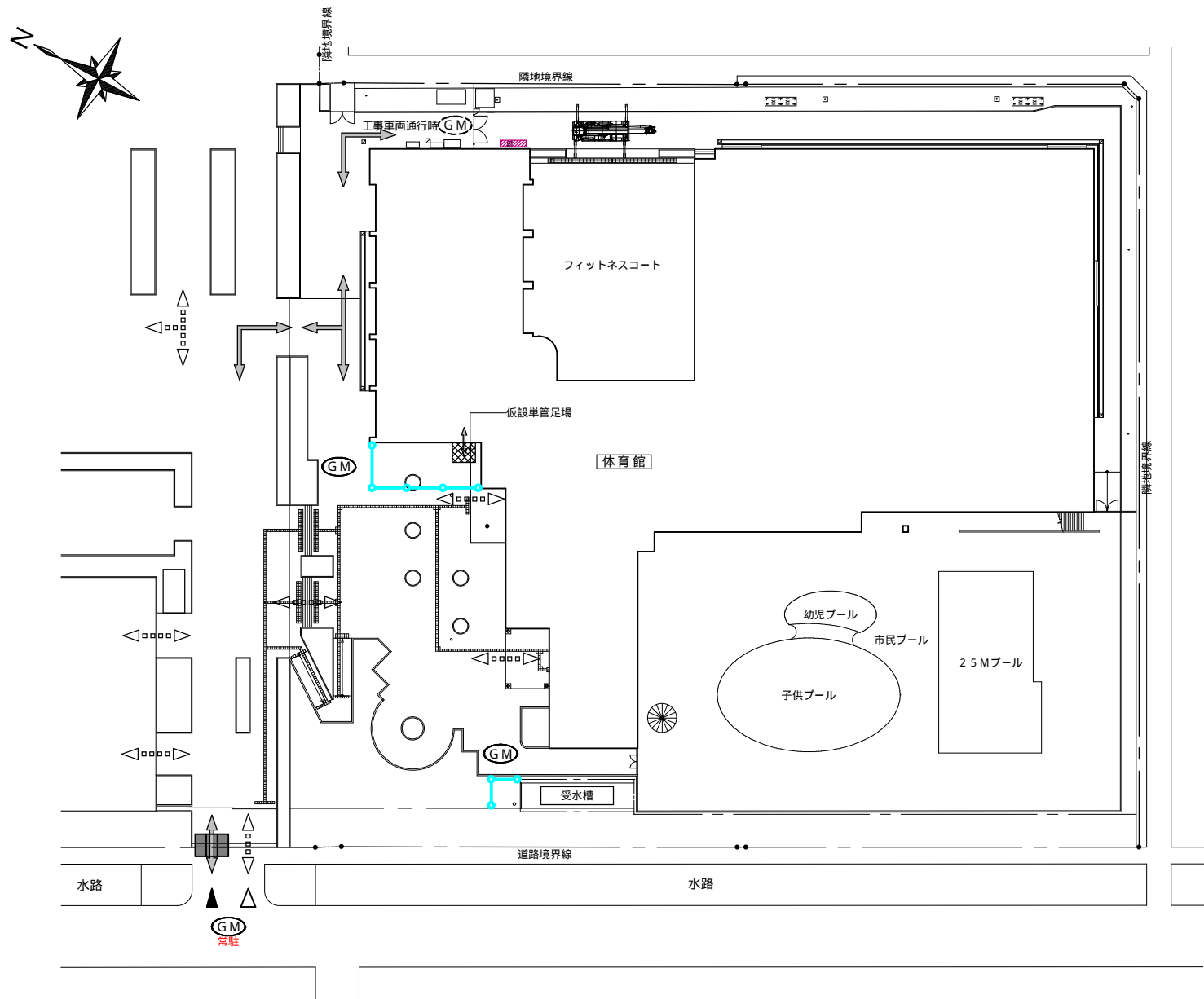
北立面図 1/50



メッシュフェンス断面図 1/30



設備基礎断面詳細図 1/50

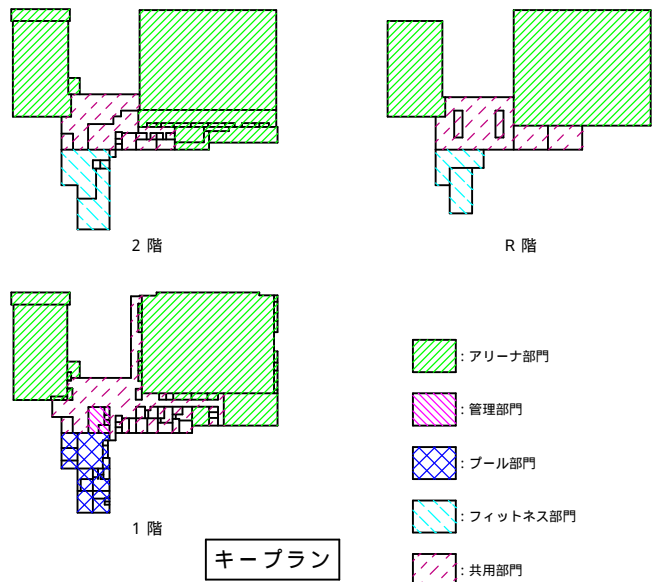


工事工程表(案)

特記事項

凡 例

種 別	工事時期																											
	9月				10月				11月				12月				1月				2月				3月			
	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4
全体工程	契約				工事着手																完成検査・手直し							
	準備期間																								引渡し			
期工事					アリーナ部門(サブアリーナ)、外構																							
期工事													アリーナ部門(メインアリーナ)															
備考	・ 工区毎に随時各検査を行う。 ・ 工事区画外の改修は休館日に行うこと。 ・ 舗装改修時(ガス設備工事)はフェンス/ガード・カーコン等を設置し、第三者が工事区画内に侵入しない措置を講ずること。																											



(仮設計画)

外部足場の周囲、工事関係車両の周囲には、工事関係者以外の第三者が立ち入らないよう、フェンス・ガード及び養生シートにより区画を行うこと。また、必要に応じて、図示以外の場所にもフェンス・ガードを設置すること。仮囲い範囲は各種外部利用計画と消防との協議により決定すること。

(『消防計画作成届出書』を所轄消防署に提出し、協議のこと)

本工事は使用しないので工事であるため、工事契約書第33条に基づく部分使用について、監督職員と協議を行うこと。

屋内消火栓等の消防用設備や避難器具は位置を写真表示等で明確にし、常時使用できる状態としておくこと。建物内は仮設間仕切り等によって工事範囲を区画し、廊下は通行できるようにしておくこと。

工事範囲への作業員の出入り及び資材搬入は原則工事区画内を行うとし、工事区画外を通行する場合は事前に監督職員及び、施設職員と協議を行い、利用者に注意すること。養生を行うとともに、使用後は清掃すること。

図面№20-22(仮設計画図1～3)に示す仮囲い、工事区画等は参考であり、監督職員と十分協議のうえ、決定すること。

(資材搬入)

工事車両の進入口には、交通誘導警備員を配備させることとし、レッカー車使用作業他、安全対策上必要な場合は適宜増員すること。

工事車両進入経路にある舗装、側溝、会所及び設備(ホール等)については、工事用車両の通行により損傷しない様、適宜鋼板敷き等の養生を行うこと。破損した場合は、復旧すること。

(汚損・破損)

本工事は現在使用中の建物について行うため、施工にあたっては、施工以外の部分に事故、汚損のないよう十分注意し、事故汚損があった場合は受注者において、速やかに現状復旧及び処理をすること。

(その他)

敷地内に駐車が可能であるが、それ以上に駐車する必要がある場合は、工事敷地外に入ることを確保すること。工事区画外の用地を使用する場合、それに要する費用は受注者の負担とする。

施工中は周辺への騒音や臭気等に十分注意すること。

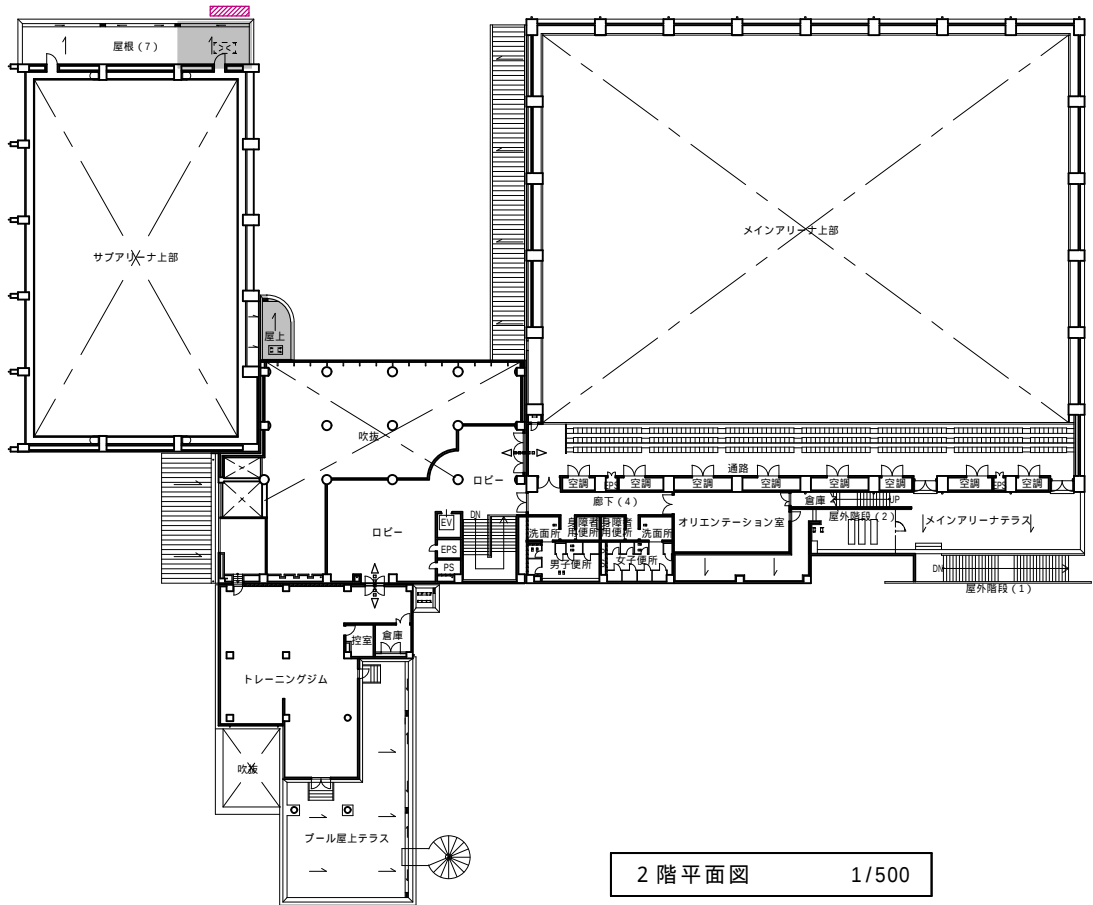
可燃物(塗料材等)は防火防犯のため、毎日持ち帰ること。

施工日時、作業時間等については、施設運営に支障をきたさないよう、監督職員と協議のうえ、決定すること。

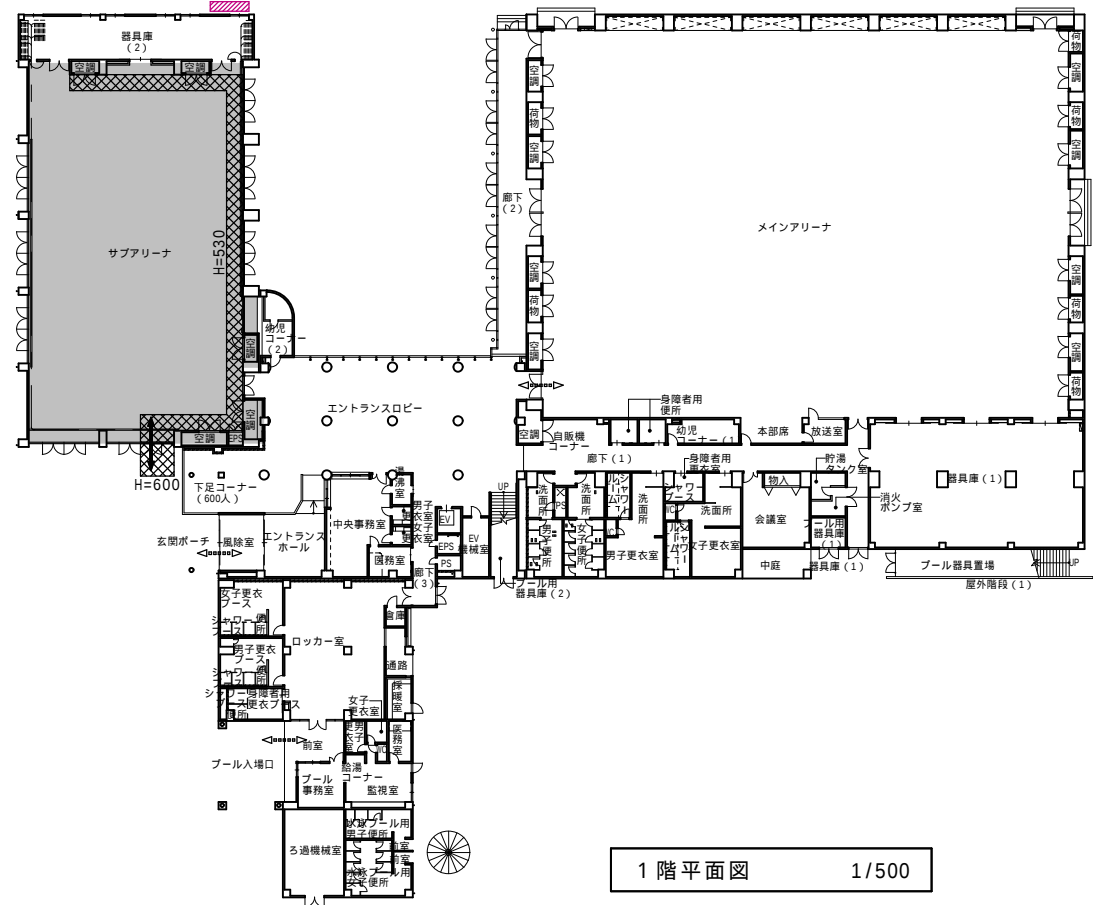
(工事作業不可日)

事前に施設に確認することとする。

[illegible]



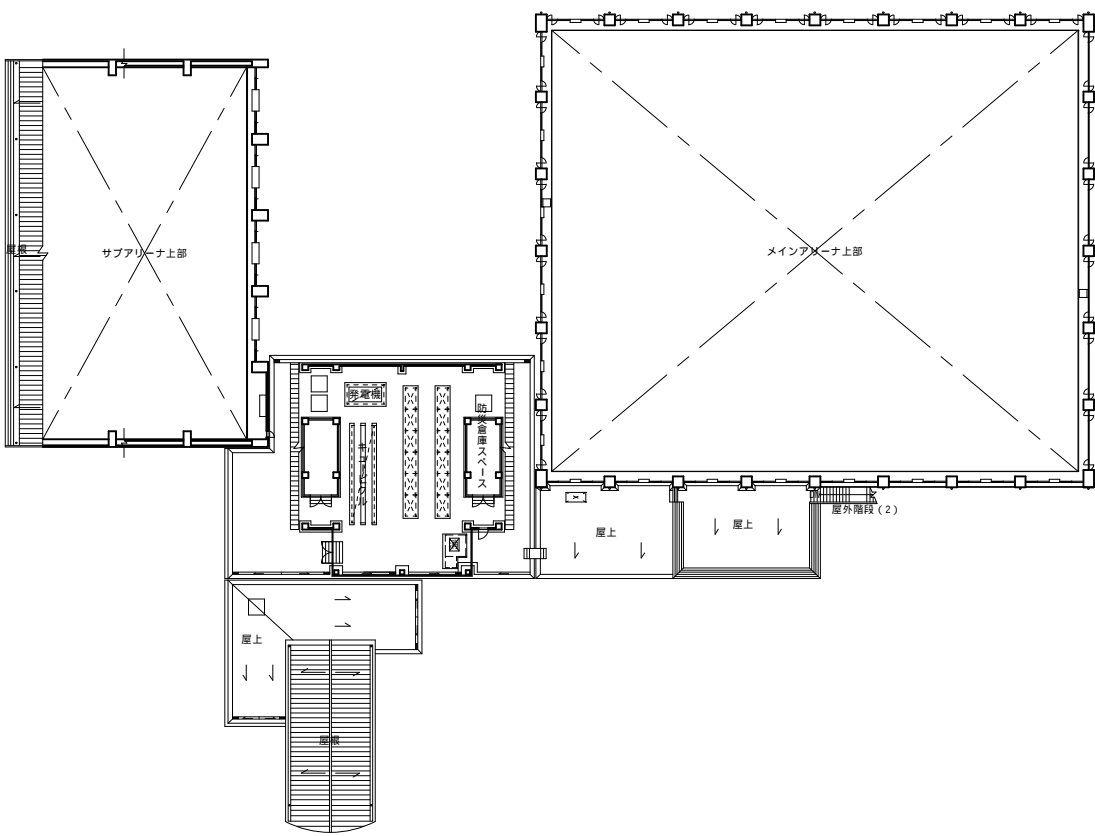
2階平面図 1/500



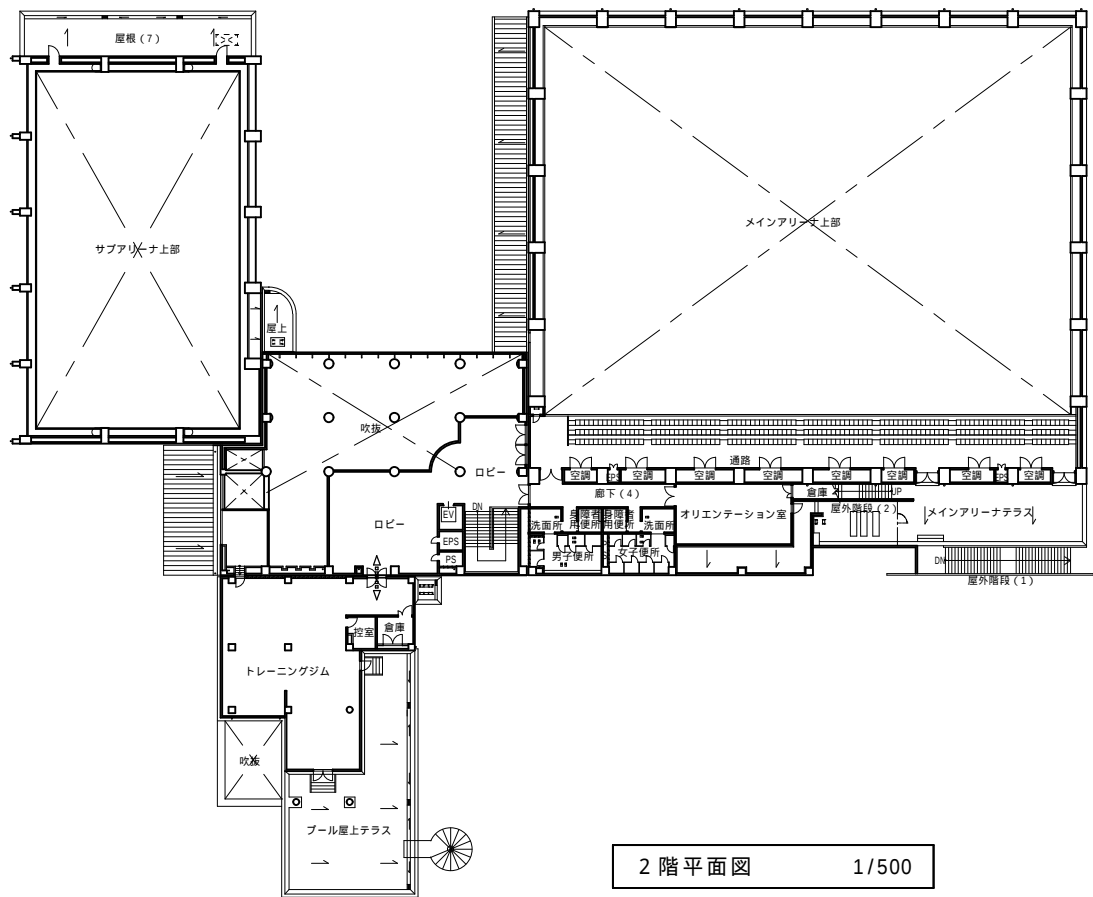
1階平面図 1/500



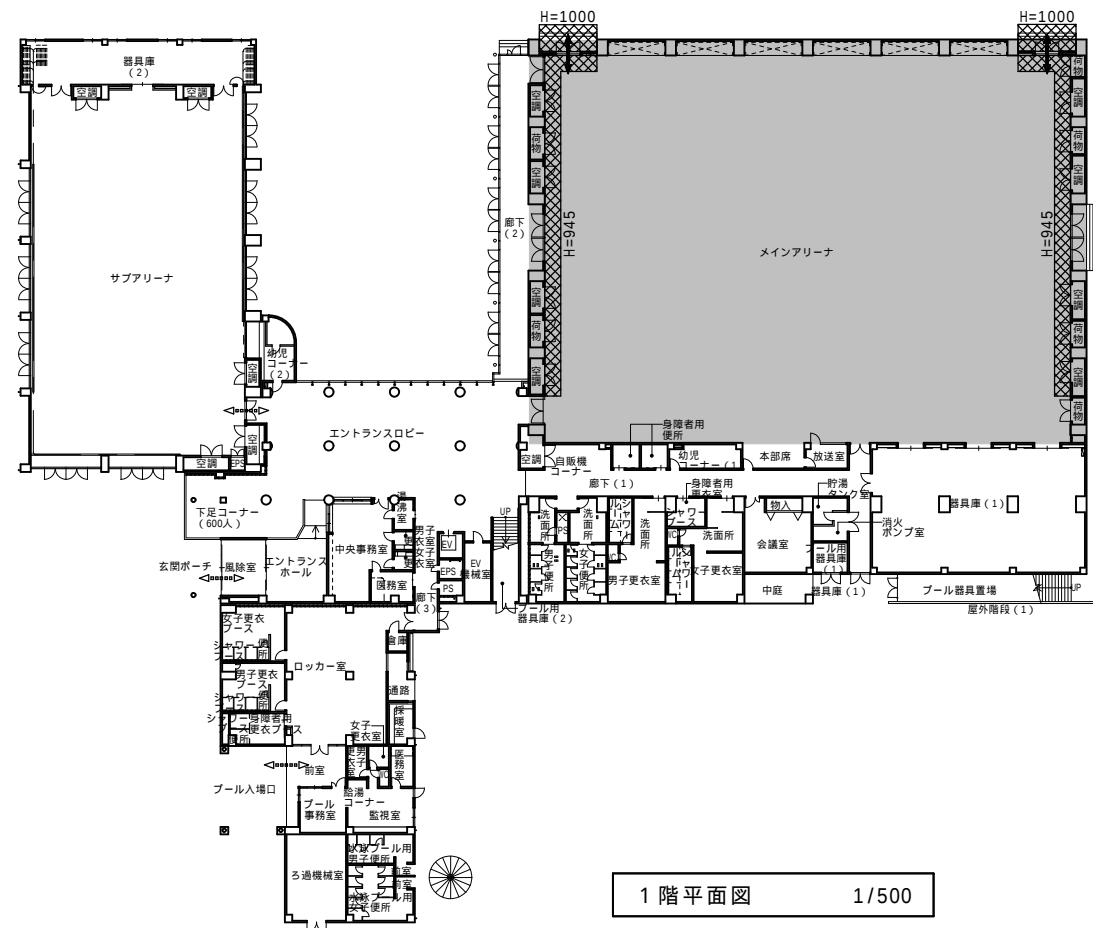
期 工 事	
凡 例	
	工事範囲を示す。(工事範囲内の床、存置什器類は養生を行うこと。)
	工事中使用不可
	仮設間仕切り(C種)
	足場設置部は足場にシートを設置し、下部は侵入防止金網張りとする。
	仮設単管足場を示す。(全面防音シート張り)
	必要に応じて、ブラケット足場を取付ける。
	単管足場(作業用構台)
	アリーナ内は床撤去範囲に設置すること。
	職員・施設利用者動線を示す。
	工事関係者動線を示す。
工期別仮設計画留意点	
資材の搬出入は原則サブアリーナ西側からとする。	



3階・R階平面図 1/500



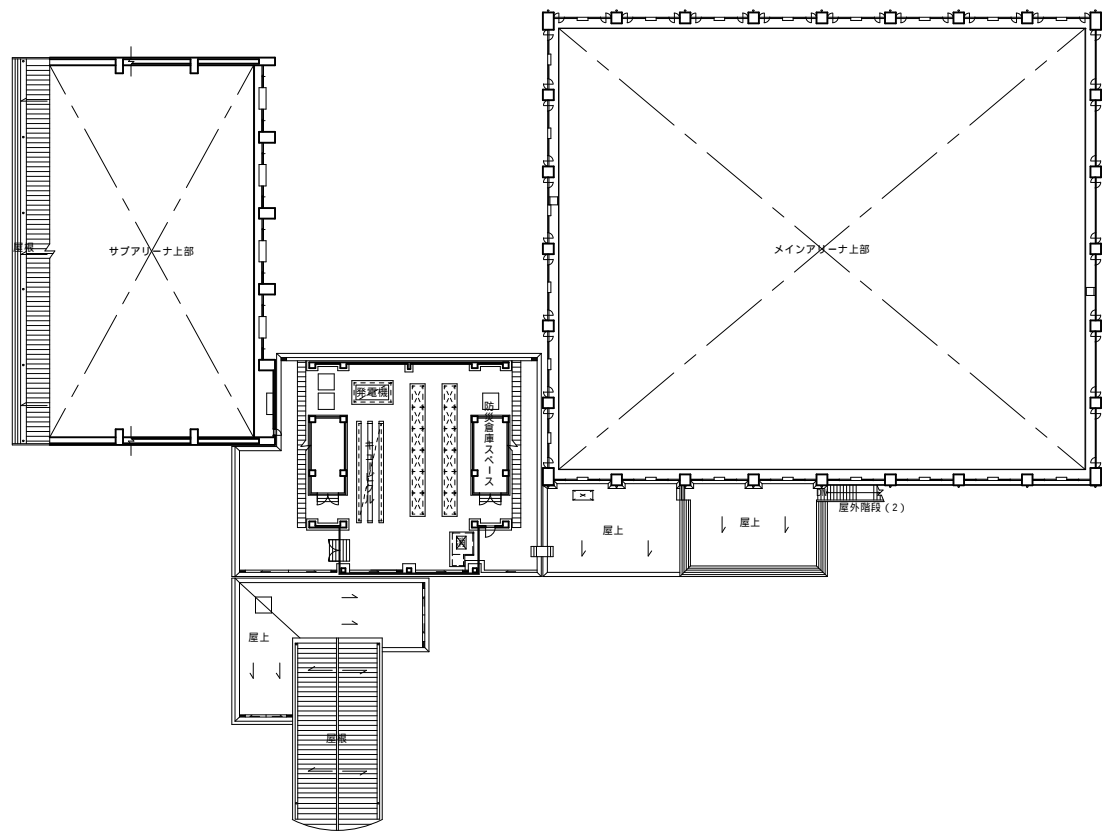
2 階平面図 1/500



1 階平面図 1/500



期 工 事	
凡 例	
	工事範囲を示す。(工事範囲内の床、存置什器類は養生を行うこと。)
	工事中使用不可
	カラーコーン(水平バー)を示す。
	2 階階段前施工時のみ
	単管足場(作業用構台)
	アリーナ内は床撤去範囲に設置すること。
	職員・施設利用者動線を示す。
	工事関係者動線を示す。
工 期 別 仮 設 計 画 留 意 点	
資材の搬出入は原則メインアリーナからとする。	



3 階・R 階平面図 1/500

電気設備工事特記仕様書－ 2

章	項 目	特 記 事 項
電力貯蔵設備	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付
	○直流電源装置	用途 ○建築基準法用 ○消防法用 ○受変電設備専用 その他 ○過放電防止保護装置（直流不足電圧継電器）の設定電圧は、9 0 Vとする。
発	○交流無停電電源装置（UPS）	用途（ 方式 ○一般形 ○簡易形
	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付
電	○形式	○オープン形 ○簡易形 ○キュービクル
	○連続運転可能時間 ○発電機	○1 0 時間（乙） ○7 2 時間（甲） ○ 電気方式 三相3 線式 電 圧 ○2 1 0 V ○6 . 6 k V ○4 1 5 V 定格出力 k V A 以上 力率 0 . 8 種 別 ○ガスタービン ○ディーゼル機関 ○ガスエンジン ○マイクロガスタービン ○燃料電池 ○コージェネレーション kW（ P S ）以上 定格出力 始動方式 ○電気式 ○空気式 冷却方式 ○ラジエーター式 ○水槽循環式 現地負荷試験 ○行う ○行わない
設	○燃料	種類 ○重油 ○軽油 ○灯油 ○ガス（ ） ○燃料小出槽 ○主燃料槽
	○監視方式	○警報盤による代表監視 ○中央監視盤による監視
備	○太陽光発電装置	太陽電池 アレイ 公称最大出力 kW以上 設置可能建築面積 m ² 以下（長辺 m x 短辺 m） 系統連系 ○受動 ○能動 パワーコンディショナ出力 相 線式 V kW以上 逆潮流 ○有 無 交流出力電圧 ○1 0 0 V ○2 0 0 V 出力電気方式 ○三相3 線式 ○単相3 線式 ○単相2 線式 ○外部移相 ○有 ○無
通信網設備	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付
	○施工方法	○金属管配線 ○ケーブル配線 ○合成樹脂管配線
構内交換設備	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付
	○保安器用接地	○本工事 ○別途工事
情報表示設備	○形式	○電子交換機 ○ボタン電話装置
	○工事種類	○マルチサイン装置 ○出退表示設備 ○時刻表示設備
映像設備	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付
	○施工方法	○金属管配線 ○ケーブル配線 ○合成樹脂管配線
拡声設備	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付
	○増幅器	用途 ○全館放送用（○一般放送 ○非常放送） ○ローカル放送用 ○自動放送はアッテネーターを経由した回路とする。
誘導支援設備	○スピーカ	特記なきものは ○S C ₆ H i - 1 V ₃ - M ○
	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付
テレレ共同受信設備	○工事内容	○音声誘導装置 検出方式（○磁気式 ○無線式 ○画像認識） ○インターホン ○電話式 ○相互式 ○テレビインターホン ○親機に子機カメラ角度調整機能（上下）を設ける。 ○トイレ等呼出し装置 ○1 窓 ○3 窓 ○5 窓 ○ 呼出しボタン ○壁付ボタン(プルスイッチの長さは0 . 2 m程度とする) ○壁付振りボタン(振りボタンの長さは1 . 2 m程度とする) ○通話機能 ○受付呼出し装置 ○誘導音
	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付
	○アンテナ	○U H F 用 ○B S 用 ○C S 用 ○A M 用 ○F M 用 ○C A T V
	○アンテナマスト	○壁面取付形 ○自立形 ○配管用ステンレス鋼細管 ○一般構造用炭素鋼細管（溶融亜鉛メッキ仕上げ） ○圧力配管用炭素鋼細管（溶融亜鉛メッキ仕上げ）
	○電界強度測定	電界強度及び画質は、最上階が打上がったときに、アンテナ取付予定位置、またその周辺で測定し、その測定記録を監督職員に速やかに提出すること。 測定チャンネルは、監督職員と協議する。

章	項 目	特 記 事 項
監視カメラ	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付
	○画像	○カラー ○白黒
管制設備	○伝送方式	○ネットワーク伝送方式 ○デジタル同軸伝送方式 ○
	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付
防犯・入退室管理・入退室	○車両検出方式	○ループコイル方式 ○光線方式
	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付
火災報知設備	○工事種類	○機械警備用配管 ○防火装置 ○入退室管理制御装置
	○自動火災報知装置	○工事範囲 ○配管 ○配線 ○機器取付 ○受信機 ○形 級 回線 ○壁掛形 ○自立形 ○単独形 ○複合形 ○副受信機 窓 ○盤面に消火ポンプ運転表示灯を設ける。 ○光警報装置 ○ ○消火ポンプ始動 ○消火栓箱内押ボタン ○発信機と連動（総合盤に始動表示灯を設ける。） ○機器収容箱 ○消火栓一体形 ○単独形 ○工事範囲 ○配管 ○配線 ○機器取付 ○運動制御器 ○回線 【予備電源（蓄電池）内蔵】 ○単独 ○自火報受信機と一体 ○自動閉鎖装置 ○防火戸用【D C 2 4 V 0 . 6 A 以下電磁式またはラッチ式】 ○防煙ダンパ用 【別途工事 瞬時通電式又は電動式 D C 2 4 V 0 . 6 A 以下 遠方復帰機構（電動式）D C 2 4 V 0 . 7 A 以下】 ○防火シャッター用 【別途工事 D C 2 4 V 0 . 6 A 以下】
非常警報装置	○非常警報装置	○工事範囲 ○配管 ○配線 ○機器取付 ○電気方式 D C 2 4 V ○電源装置 ○非常電源（蓄電池） ○自動火災報知設備と兼用
	○ガス漏れ火災警報装置	○工事範囲 ○配管 ○配線 ○機器取付 ○受信機 ○単独形 ○自火報受信機と一体 ○ガスの種類 ○都市ガス（1 3 A） ○液化石油ガス
中央監視	○諸警報表示	受信機に諸警報表示窓（ 窓）を設ける。
	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付
医療関係設備	○監視方式	○警報盤 ○監視制御装置
	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付
構内配電	○非接地電源用分電盤	キャビネット ○鋼製 ○ステンレス製
	○ナースコール装置	トイレ及び浴室等の呼出押ボタン ○有線式 ○無線式 ○防滴 ○防湿
電線	○その他	○オプション等の試験は、監督職員の指示による。
	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付
電気方式	○電気方式	高圧 6 k V 低圧 2 0 0 V ○ ○単相3 線式 1 0 0 / 2 0 0 V ○単2 線式（○1 0 0 V ○2 0 0 V）
	○ふ設方式	○地中線 ○管路式 ○波付硬質合成樹脂管（F E P） ○ポリエチレン被覆管（P L P） ○埋設深さ 特記なきものはG L（舗装がある場合は、舗装下面） から3 0 0 mm以上とする。 ○架空線 電柱 ○遠心カプレストレストコンクリートボール ○高圧負荷開閉器 7 . 2 k V 3 0 0 A 用途 ○架空引込用 ○地中引込用 ○耐中塩じん用 ○耐重塩じん用 形式 ○引外し装置付き（S O G 形） ○引外し装置なし ○避雷器内蔵 ○制御電源用変圧器内蔵
マンホール及びハンドホール	○マンホール及びハンドホール	構造・寸法 ○標準図による ○図示による。 蓋の文字 ○蓋の用途表示は電力とする。 ○ ハンドホールにおいてもケーブル支持材を設ける。 ケーブルが直接接触しない場合の金物は、接地を省略してもよい。
	○高圧ケーブル	屋外に使用する高圧ケーブルはE M - 高圧架橋ポリエチレンケーブルは、J C S 4 3 9 5「6 6 0 0 V 架橋ポリエチレンケーブル（3 層押出型）」に、よる ○よらない） 高圧ケーブルは、受変電設備までの配線経路中、1 ケ所以上で3 m 余長をとる。
高圧ケーブル	○余長	高圧ケーブルは、受変電設備までの配線経路中、1 ケ所以上で3 m 余長をとる。
	○端子、高圧ケーブル端末処理	○一般用 ○耐塩用 ○重耐塩用
避雷器	○避雷器	○屋外形 ○耐塩形 ○一般用 ○耐塩形
	○装柱材	基礎 ○本工事 ○別途工事
外灯	○外灯	○外灯ボールの材質が鋼製（S P C）の場合で特記がない場合は溶融亜鉛メッキとし、指定色塗装とする。
工事範囲	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付
	○ふ設方式	○地中線 ○管路式 ○波付硬質合成樹脂管（F E P） ○ポリエチレン被覆管（P L P） ○埋設深さ 特記なきものはG L（舗装がある場合は、舗装（表層）下面） から3 0 0 mm以上とする。 ○架空線 電柱 ○遠心カプレストレストコンクリートボール
マンホール及びハンドホール	○マンホール及びハンドホール	構造・寸法 ○標準図による ○図示による。 蓋の文字 ○蓋の用途表示は通信とする。 ○ ハンドホールにおいてもケーブル支持材を設ける。 ケーブルが直接接触しない場合の金物は、接地を省略してもよい。

章	項 目	特 記 事 項
調査	○調査範囲	○測定のみ ○対策工事実施設計書作成まで
	○測定時期 ○測定箇所 ○測定内容	○工事前 ○工事中 ○完成後 箇所 受信可能な全チャンネルとし、結果報告書を提出する。

別表	付属品・予備品
○イージーキャビネット	箱 ○キーボックス ○テスター ○マンホールフック
○工具箱（ドライバー、モンキーレンチ、組スパナー、ハンマー）	
受変電設備・盤	ランプ及びヒューズの予備品は、2 0 %とする。

試験・検査一覧
工事完成に際しては、各種試験、検査に合格の責任を持つ。
検査及び試験を行うべき機材等は標準仕様書による他下記の項目とする。
○受変電機器 ●動力盤及び電灯盤 ○耐圧試験 ●絶縁抵抗測定 ○接地抵抗測定 ●機器機能試験 ●その他監督職員の指示するもの
●工事着手に際し、事前に必要な機器（照明機器、空調機器、放送設備等）の機能確認を行い、確認結果報告書を提出する。
○工事中工前に既設照明器具で床面照度を測定し、完成後の照度を比較する。（照度測定箇所は監督員の指示する箇所とする。）
●着工前・工事完成后、空調機器の機能・調整確認を行い、確認結果報告書を提出する。
○着工前・工事完成后、放送機器の機能・調整確認を行い、確認結果報告書を提出する。
○後施工アンカ - の施工確認試験（引張試験機による引張試験）は、1 日の施工本数の3 %以上かつ3 本以上とする。
例 盤・ケ - ブルブラック・ケ - ブルダクト等

その他
●試験機器類の校正記録を提出する。
●停電工事の必要な時は、当該高圧受電設備の電気主任技術者と協議し、打合せ記録を提出する。
尚、電気主任技術者の立会費用は本工事に含む。
●工事に係る申請手続き費、消防設備竣工検査費、高圧電気設備検査等の竣工に必要な費用は本工事に含む。
●分電盤等の端子接続部施工管理手順は、電気設備工事監理指針（令和4 年度版）の資料5（P 1 1 1 9）に基づき施工する。
○鉄筋コンクリ - トをダイヤドрил等で貫通する時は、鉄筋探査機で開口位置を確認する。
●整備不良の電動工具等持ち込まない。
●構外搬出適切産廃処分とする（電線、電線管、器具、管球等報告書を提出する）。
○交通誘導員は大型機器搬入時及び監督職員が必要と指示した時は、安全確保のため交通誘導員を2 名以上配置する。
○カラーコーン、コーンウェイト、コーンバーにて囲いながら掘削する。

機器取付高さ（参考寸法の為、盤の寸法・取付位置は監督員と協議する。）							
名称		測点	取付高（mm）	名称		測点	取付高（mm）
電力 共通	取引用計器	地上～上端	2,000	電 話	端子盤	床上～上端	1,900
	引込開閉器	〃	1,800		保安器函	天井下～上端	200
動 力					壁付位置ボックス	床上～中心	300
	壁掛型制御盤	床上～上端	1,900		〃（和室）	〃	150
	手元開閉器	床上～中心	1,500	拡声 時計			
	操作スイッチ	〃	1,300		壁掛スピーカー	天井下～上端	200
					アッテネーター	床上～中心	1,300
			壁掛型親時計		床上～上端	1,900	
			子時計		天井下～上端	200	
電 灯	分電盤	床上～上端	1,900	イン ター ホ ン			
	スイッチ（一般）	床上～中心	1,300		壁掛インターホン	床上～中心	1,500
	〃（身障者便所）	〃	900		〃（身障者）	〃	1,100
	コンセント（一般）	〃	300		壁付位置ボックス	〃	300
	〃（和室）	〃	150		〃（和室）	〃	150
	〃（台上）	台上～中心	300	テレ ビ 共 聴			
	〃（土間）	床上～中心	1,300		機器収納函	天井下～上端	200
	ブラケット（一般）	〃	2,100		直列ユニット	床上～中心	300
	〃（踊場）	〃	2,500		〃（和室）	〃	150
	〃（鏡上）	鏡上端～中心	150				

盤名称	電源部 電圧・幹線渡り	動力番号		機器名称	動力容量 (KW)	開閉器容量	改修内容
		NO.	機器NO.				
M-R	M11 AC3 φ 3W210V						
			BAM-560D	空調室外機	21.85	MCCB3P220AF125AT	残置
			BAM-560D	空調室外機	21.85	MCCB3P220AF125AT	残置
	M12 AC3 φ 3W210V				TOTAL 43.7KW		
			BAM-560D	空調室外機	21.85	MCCB3P220AF125AT	残置
			BAM-560D	空調室外機	21.85	MCCB3P220AF125AT	残置
	M8 AC3 φ 3W210V				TOTAL 43.7KW		
			BAM-560E	空調室外機	21.85	MCCB3P220AF125AT	撤去 1期
			BAM-560B	空調室外機	21.85	MCCB3P220AF125AT	残置
			BAM-560B	空調室外機	21.85	MCCB3P220AF125AT	残置
	M9 AC3 φ 3W210V				TOTAL 65.55KW		
			BAM-560C	空調室外機	21.85	MCCB3P220AF125AT	残置
			BAM-560C	空調室外機	21.85	MCCB3P220AF125AT	残置
			BAM-560C	空調室外機	21.85	MCCB3P220AF125AT	残置
	M10 AC3 φ 3W210V				TOTAL 65.55KW		
			BAM-560D	空調室外機	21.85	MCCB3P220AF125AT	残置
			BAM-560B	空調室外機	21.85	MCCB3P220AF125AT	残置
			BAM-560B	空調室外機	21.85	MCCB3P220AF125AT	残置
					TOTAL 65.55KW		
1M-2	M2 AC3 φ 3W210V						
			BAM-560A	メインアリーナエアコン室外機	21.85	MCCB3P220AF125AT	撤去
			BAM-560A	メインアリーナエアコン室外機	21.85	MCCB3P220AF125AT	撤去
			BAF-280	メインアリーナエアコン室内機	2.54	MCCB3P 50AF 30AT	撤去
			BAF-280	メインアリーナエアコン室内機	2.54	MCCB3P 50AF 30AT	撤去
1M-3	M3 AC3 φ 3W210V						
			BAM-560A	メインアリーナエアコン室外機	21.85	MCCB3P220AF125AT	撤去
			BAM-560A	メインアリーナエアコン室外機	21.85	MCCB3P220AF125AT	撤去
			BAF-280	メインアリーナエアコン室内機	2.54	MCCB3P 50AF 30AT	撤去
			BAF-280	メインアリーナエアコン室内機	2.54	MCCB3P 50AF 30AT	撤去

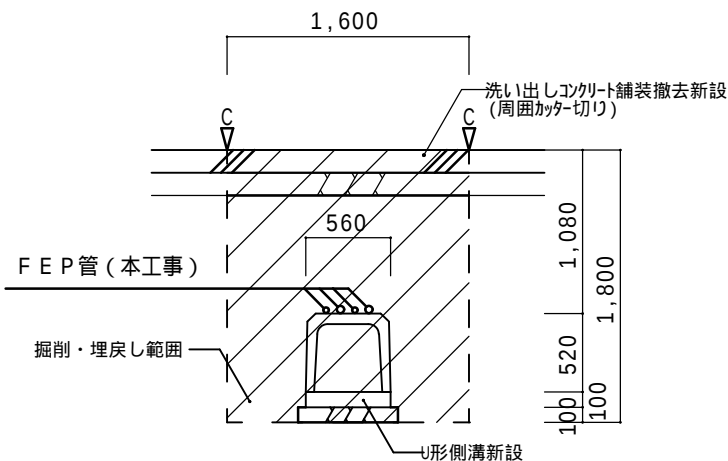
改修

取替

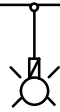
取替

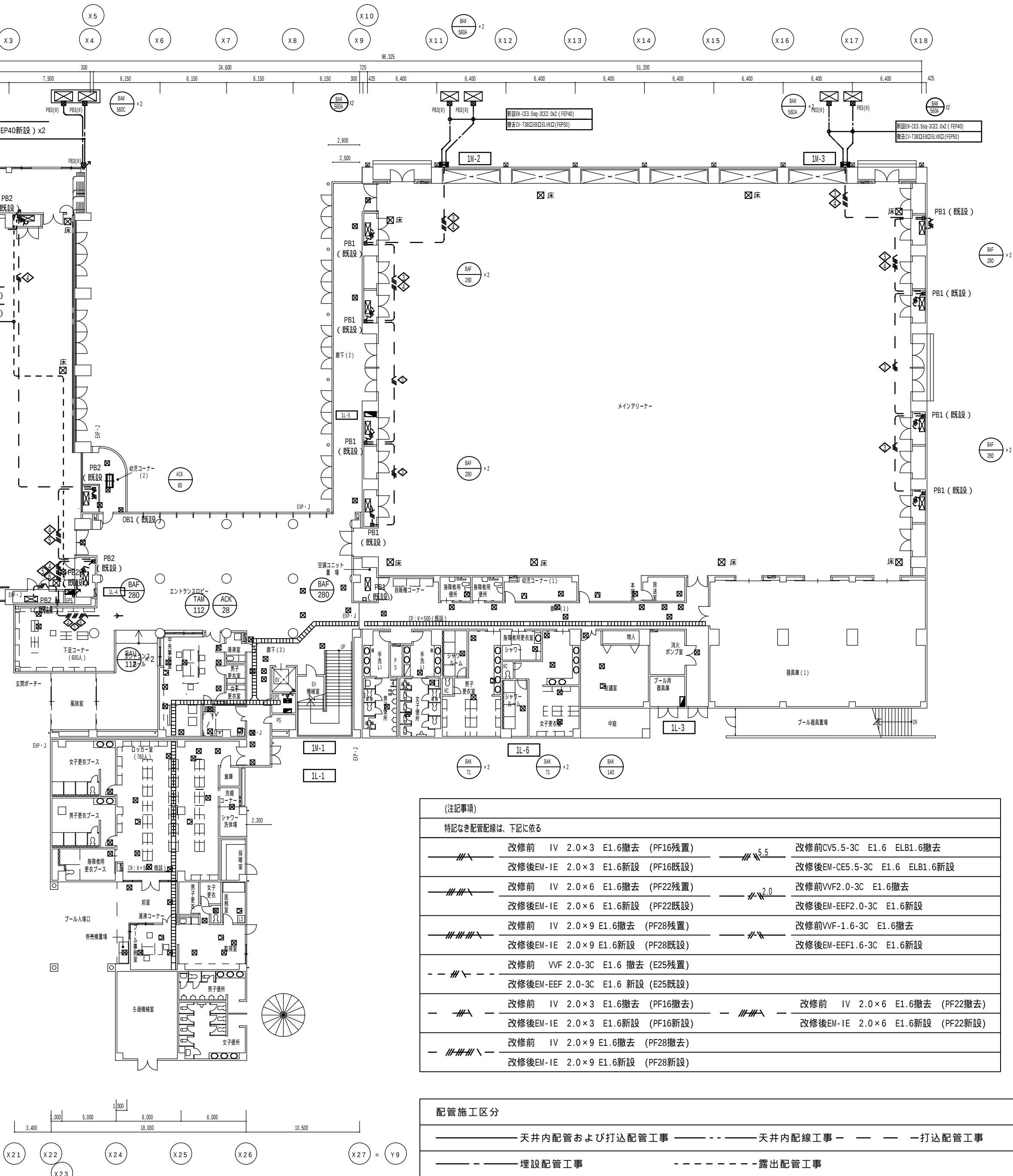
盤名称	電源部 電圧・幹線渡り	動力番号		機器名称	動力容量 (KW)	開閉器容量	改修内容
		NO.	機器NO.				
M-R	M11 AC3 φ 3W210V						
			BAM-560D	空調室外機	21.85	MCCB3P220AF125AT	既設
			BAM-560D	空調室外機	21.85	MCCB3P220AF125AT	既設
	M12 AC3 φ 3W210V				TOTAL 43.7KW		
			BAM-560D	空調室外機	21.85	MCCB3P220AF125AT	既設
			BAM-560D	空調室外機	21.85	MCCB3P220AF125AT	既設
	M8 AC3 φ 3W210V				TOTAL 43.7KW		
			BAM-560C	空調室外機	0.998	ELCB3P 50AF 20AT	新設
			BAM-560B	空調室外機	21.85	MCCB3P220AF125AT	既設
			BAM-560B	空調室外機	21.85	MCCB3P220AF125AT	既設
	M9 AC3 φ 3W210V				TOTAL 44.698KW		
			BAM-560C	空調室外機	21.85	MCCB3P220AF125AT	既設
			BAM-560C	空調室外機	21.85	MCCB3P220AF125AT	既設
			BAM-560C	空調室外機	21.85	MCCB3P220AF125AT	既設
	M10 AC3 φ 3W210V				TOTAL 65.55KW		
			BAM-560D	空調室外機	21.85	MCCB3P220AF125AT	既設
			BAM-560B	空調室外機	21.85	MCCB3P220AF125AT	既設
			BAM-560B	空調室外機	21.85	MCCB3P220AF125AT	既設
					TOTAL 65.55KW		
1M-2	M2 AC3 φ 3W210V						
			BAM-560A	メインアリーナエアコン室外機	0.998	ELCB3P 50AF 20AT	新設
			BAM-560A	メインアリーナエアコン室外機	0.998	ELCB3P 50AF 20AT	新設
			BAF-280	メインアリーナエアコン室内機	3.00	ELCB3P 50AF 30AT	新設
			BAF-280	メインアリーナエアコン室内機	3.00	ELCB3P 50AF 30AT	新設
1M-3	M3 AC3 φ 3W210V						
			BAM-560A	メインアリーナエアコン室外機	0.998	ELCB3P 50AF 20AT	新設
			BAM-560A	メインアリーナエアコン室外機	0.998	ELCB3P 50AF 20AT	新設
			BAF-280	メインアリーナエアコン室内機	2.54	ELCB3P 50AF 30AT	新設
			BAF-280	メインアリーナエアコン室内機	2.54	ELCB3P 50AF 30AT	新設

☒	天井点検口 (既設)
☒	天井点検口 (新設)
☒ 床	床点検口 (既設)
◇	3φ3W200V回路番号



埋設断面詳細図 (建築工事)

動力盤 1M-1			
電源部 電圧・幹線渡り	動力番号		機器名称
	NO.	機器NO.	
M1 AC3 φ 3W210V 		ACK-56	幼児コーナー（1）エアコン室外機
		ACK-80	幼児コーナー（2）エアコン室外機
		TAM-112	中央事務室エアコン室外機
		BAF-280	サブアリーナ東 エアコン室内機
		BAF-280	サブアリーナ西 エアコン室内機
		BAF-280	エントランスロビー北 室内機
		BAF-280	エントランスロビー南 室内機
		BAF-280	メインアリーナ客席北（1）エアコン室内機
		BAF-280	メインアリーナ客席北（2）エアコン室内機
		BAF-280	メインアリーナ客席南（1）エアコン室内機
		BAF-280	メインアリーナ客席南（2）エアコン室内機
			作業車用電源
			予 備
		FT1	消火補給水槽

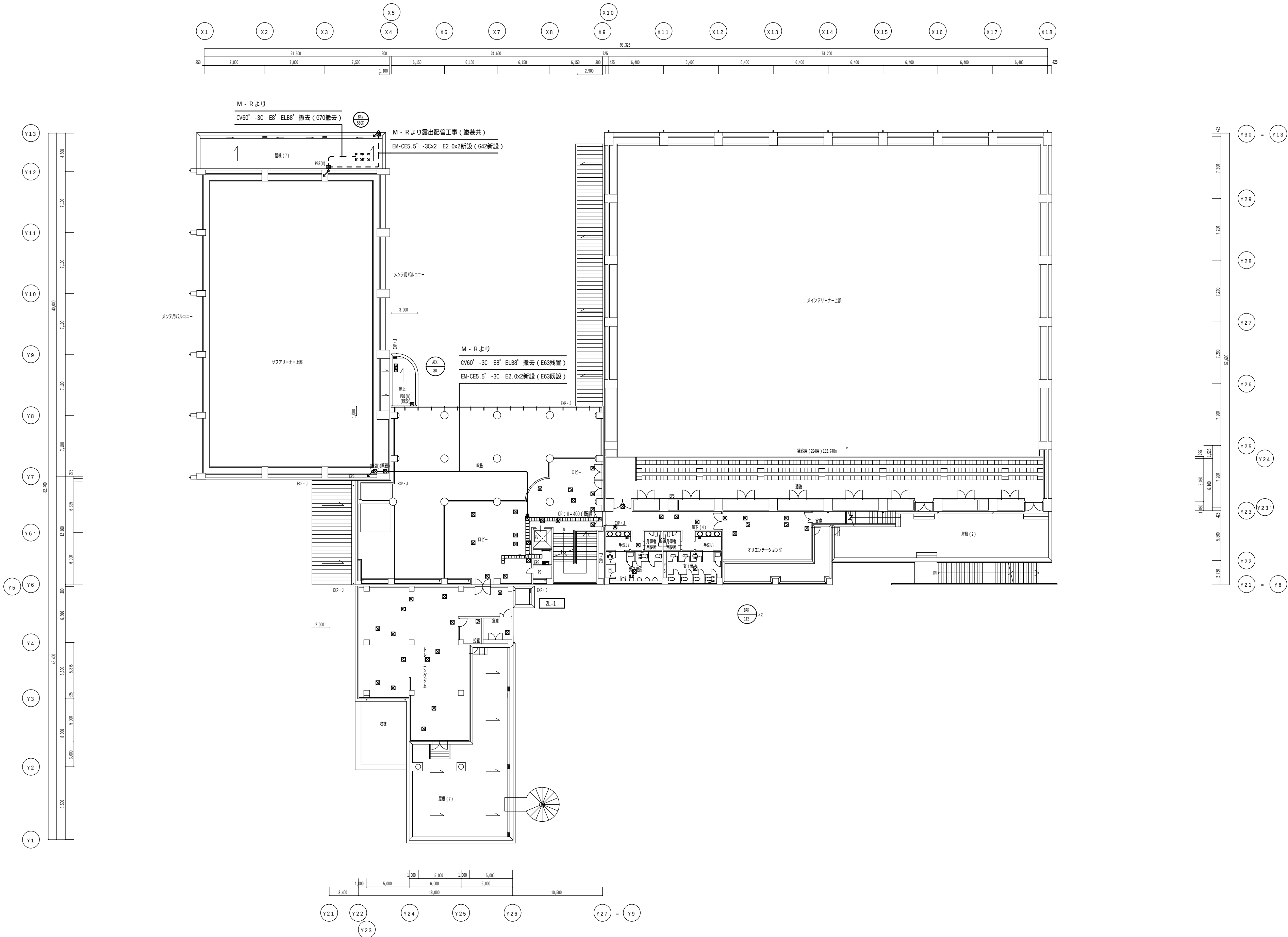


(注記事項)			
特記なき配管配線は、下記に依る			
改修前	IV 2.0×3 E1.6撤去 (PF16残置)	改修後	CV5.5-3C E1.6 ELB1.6撤去
改修後	EM-IE 2.0×3 E1.6新設 (PF16既設)	改修後	EM-CE5.5-3C E1.6 ELB1.6新設
改修前	IV 2.0×6 E1.6撤去 (PF22残置)	改修後	VVF2.0-3C E1.6撤去
改修後	EM-IE 2.0×6 E1.6新設 (PF22既設)	改修後	EM-EEF2.0-3C E1.6新設
改修前	IV 2.0×9 E1.6撤去 (PF28残置)	改修前	VVF-1.6-3C E1.6撤去
改修後	EM-IE 2.0×9 E1.6新設 (PF28既設)	改修後	EM-EEF1.6-3C E1.6新設
改修前	VVF 2.0-3C E1.6 撤去 (E25残置)	改修後	EM-EEF 2.0-3C E1.6 新設 (E25既設)
改修前	IV 2.0×3 E1.6撤去 (PF16撤去)	改修前	IV 2.0×6 E1.6撤去 (PF22撤去)
改修後	EM-IE 2.0×3 E1.6新設 (PF16新設)	改修後	EM-IE 2.0×6 E1.6新設 (PF22新設)
改修前	IV 2.0×9 E1.6撤去 (PF28撤去)		
改修後	EM-IE 2.0×9 E1.6新設 (PF28新設)		

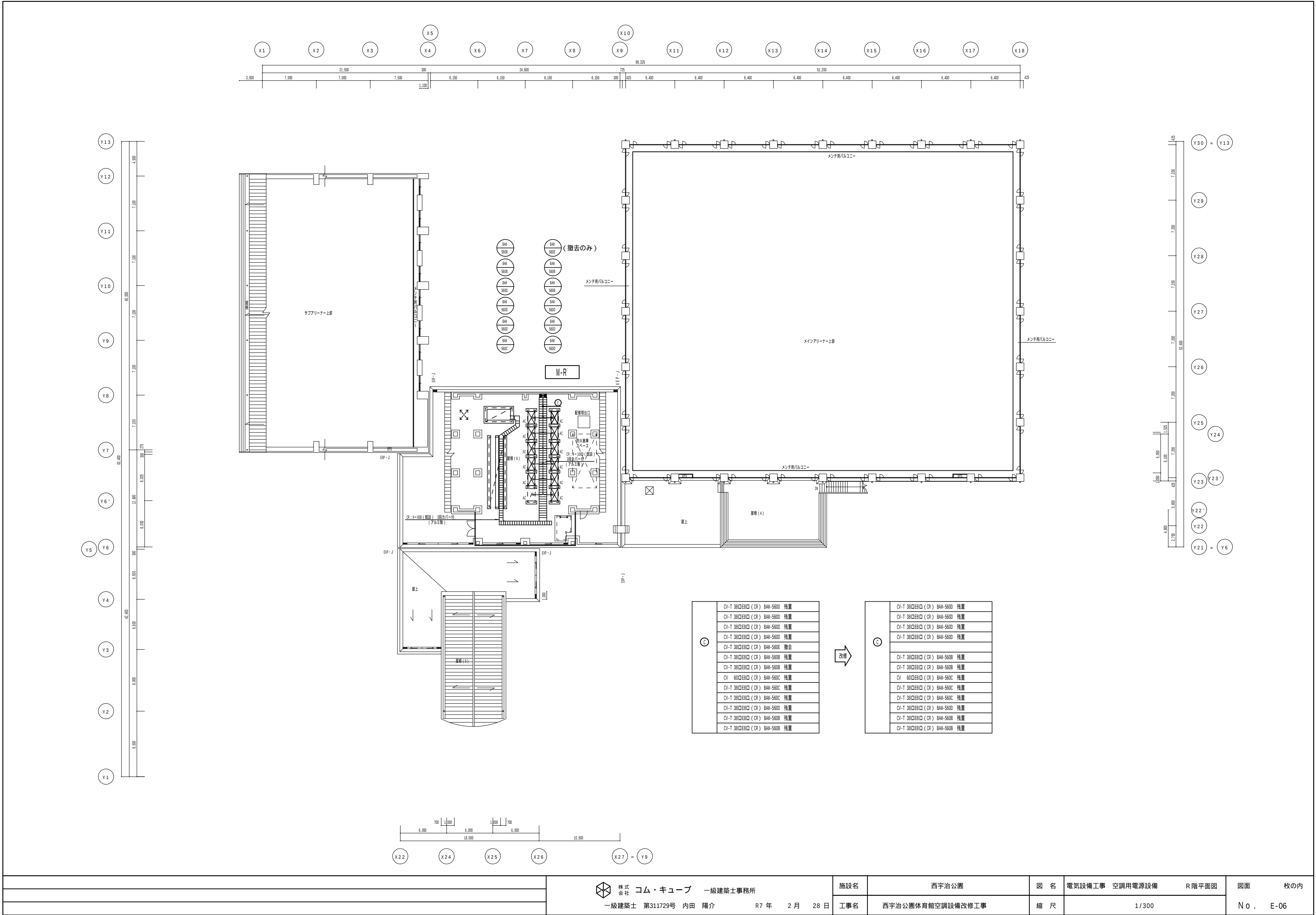
ブルボックス寸法表	
OB1	中型四角アウトレットボックス
OB2	大型四角アウトレットボックス
PB1	150 × 150 × 150
PB2	200 × 200 × 60
PB3	350 × 350 × 300
PB4	500 × 500 × 300
PB5	400 × 400 × 250
PB6	750 × 600 × 350
PB7	750 × 500 × 500
PB8	SUS 700 × 500 × 500

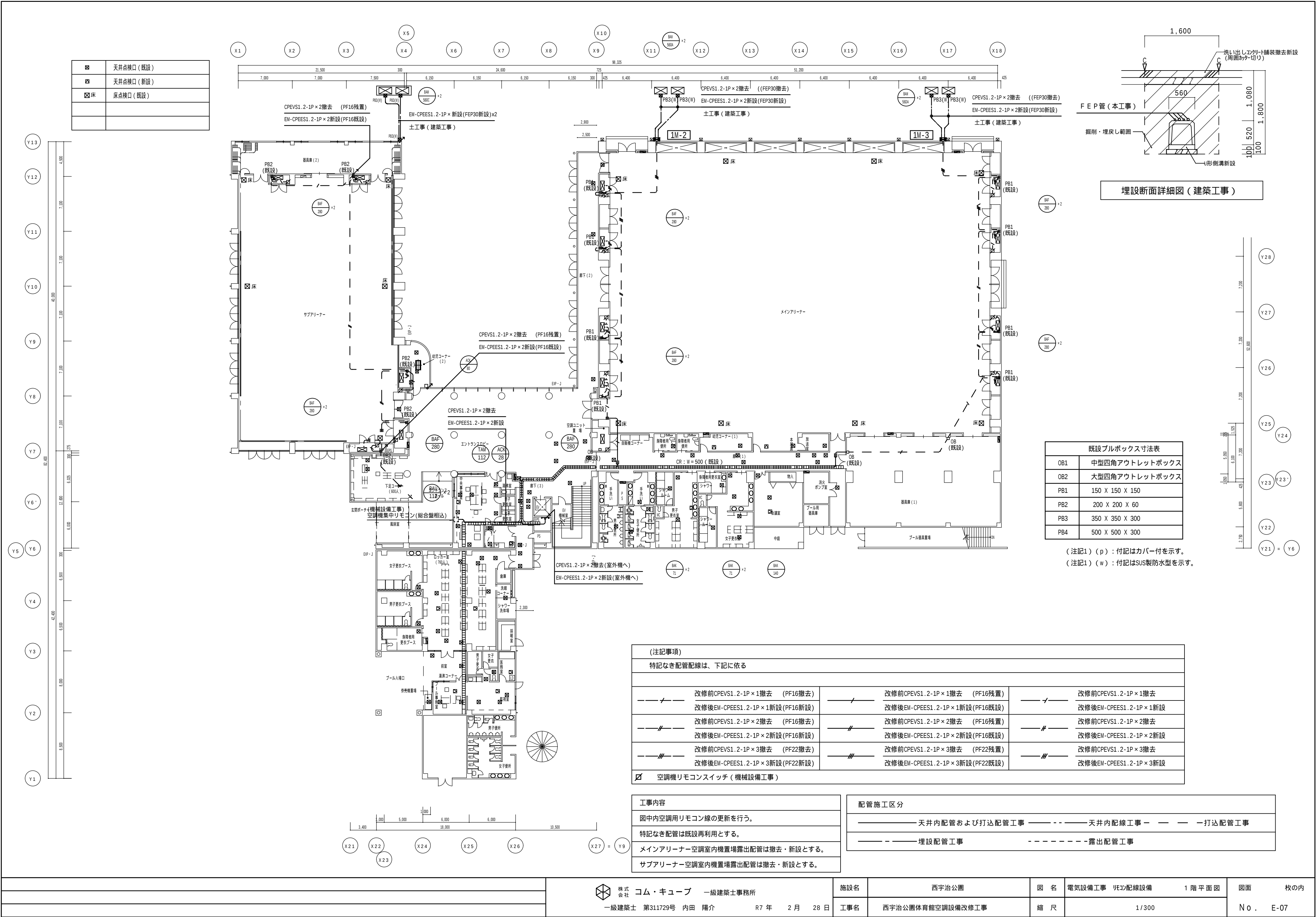
(注記1) (p) : 付記はカバー付を示す。
(注記1) (w) : 付記はSUS製防水型を示す。

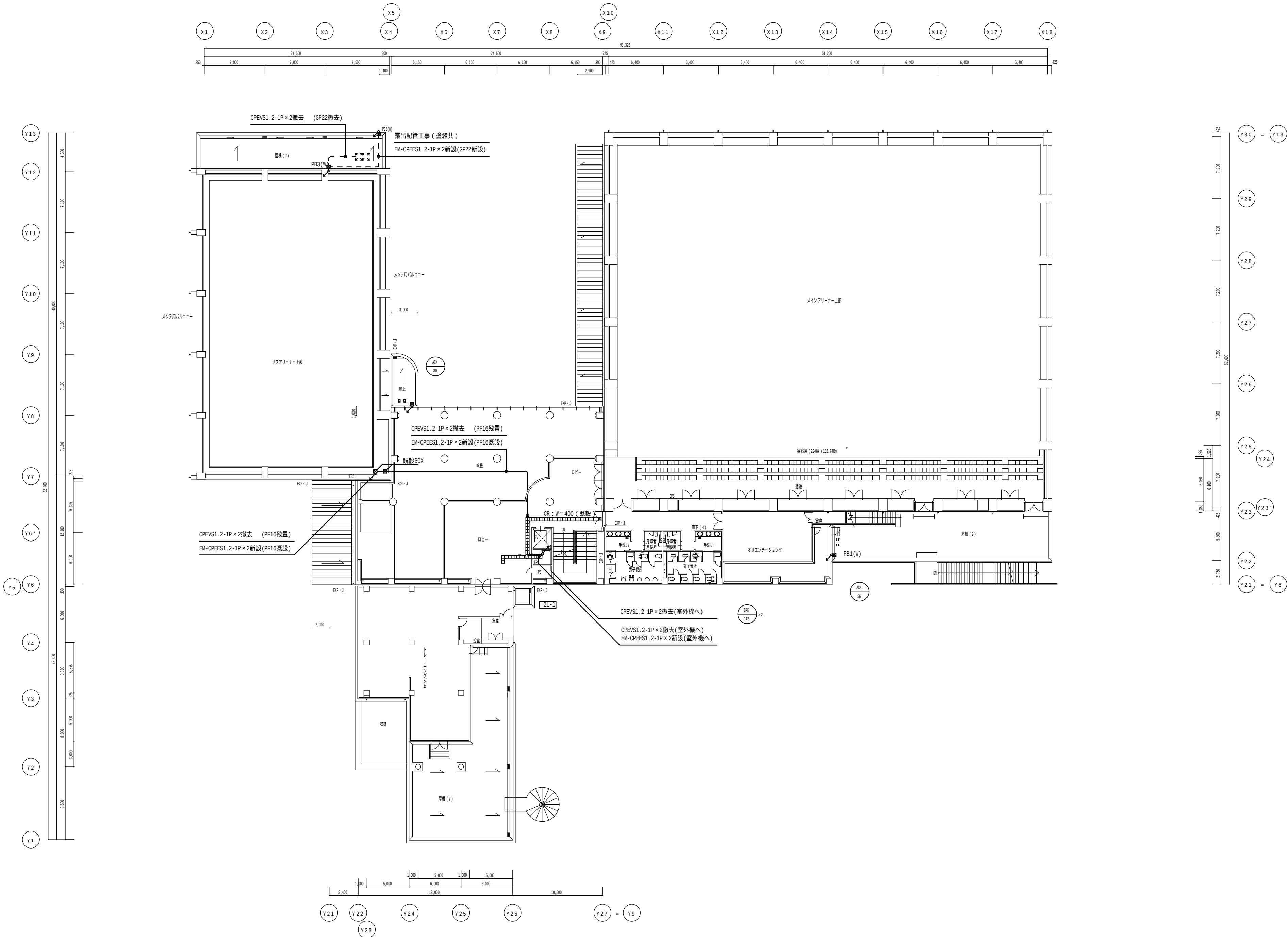
工事内容
図中内空調用リモコン線の更新を行う。
特記なき配管は既設再利用とする。
メインアリーナ空調室内機置場露出配管は撤去・新設とする。
サブアリーナ空調室内機置場露出配管は撤去・新設とする。



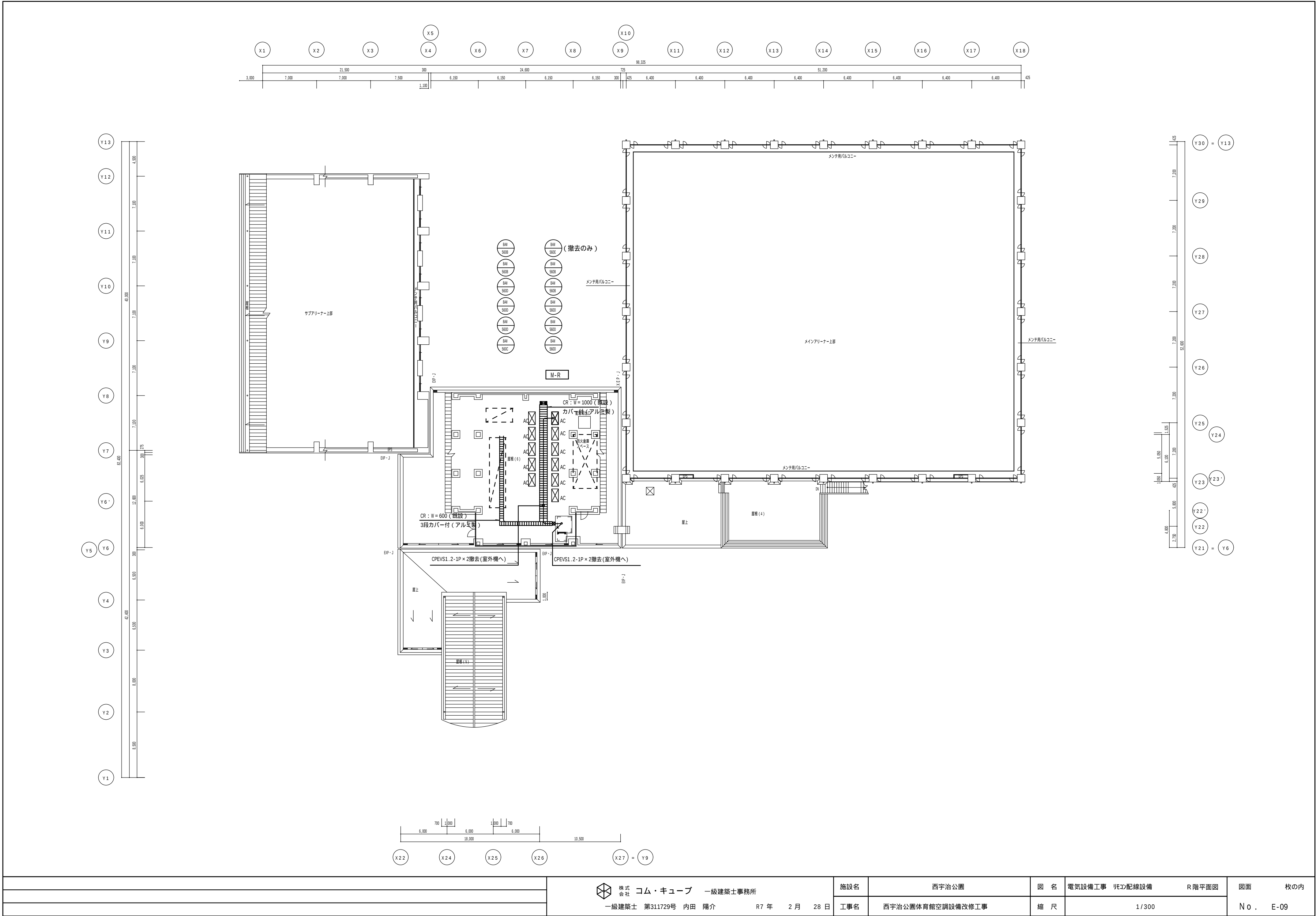
	株式会社 コム・キューブ 一級建築士事務所 一級建築士 第311729号 内田 陽介 R7 年 2 月 28 日	施設名	西宇治公園	図 名	電気設備工事 空調用電源設備 2 階 平面 図	図面 枚の内
		工事名	西宇治公園体育館空調設備改修工事	縮 尺	1/300	N o . E-05







	 株式会社 コム・キューブ 一級建築士事務所 一級建築士 第311729号 内田 陽介 R7 年 2 月 28 日	施設名	西宇治公園	図 名	電気設備工事 配線設備	2 階 平 面 図	図面	枚の内
		工事名	西宇治公園体育館空調設備改修工事	縮 尺	1/300		No.	E-08



			株式会社 コム・キューブ 一級建築士事務所 一級建築士 第311729号 内田 陽介 R7 年 2 月 28 日	施設名	西宇治公園	図 名	電気設備工事 配線設備 R階平面図	図面	枚の内
				工事名	西宇治公園体育館空調設備改修工事	縮 尺	1/300	N 0 .	E-09